
社 会 活 動

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	看護研究基礎研修	講師	岩手県医療局	5月14～16日	岩手県立中央病院	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	平成20年度全レベル看護研究ステップ 研修会	講師	社団法人青森県看護協会	平成20年6月9日～10日・平成20年7月11日～	県民福祉プラザ	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	平成20年度レベル 新人教育研修会	講師	社団法人青森県看護協会	平成20年6月19日～20日	県民福祉プラザ	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	平成20年度全レベル看護研究ステップ 研修会	講師	社団法人青森県看護協会	平成20年8月23日・平成20年9月13日・平成20年10月25日・平成21年1月	青森県立保健大学	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	平成20年度全レベル看護研究ステップ 発表会	講師	社団法人青森県看護協会	平成21年3月7日	県民福祉プラザ	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	看護研究指導者養成研修	講師	岩手県医療局	平成20年8月18日～19日・平成20年9月23日～24日・平成20年11月15日～16日・平成21年1月24日～25日・平成21年2月14日～15日	ぬくもりの里N.U.C・いわて県情報交流センター(アイーナ)	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	精神看護保健 講義	非常勤講師	岩手県医療局	平成20年8月21日・平成20年8月25日	岩手県立二戸高等看護学院	看護学生	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	「看護研究」研修会	講師	社団法人岩手県看護協会	平成20年8月28日～29日・平成20年9月4日～5日	岩手県看護研修センター	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	平成20年度訪問看護師養成講習会 ステップ1	講師	社団法人青森県看護協会	平成20年9月18日	県民福祉プラザ	看護師	
2	看護学科	藤井 博英	人材育成	「看護研究発表に対する考察」研修会	講師	公立金木病院	平成20年11月21日	公立金木病院	看護師	
8	看護学科	藤井 博英	その他	平成20年度第1回青森県精神医療審査会	審査委員	青森県立精神保健福祉センター	平成20年4月18日	ホテルJALシティ青森	青森県精神医療審査会委員	
8	看護学科	藤井 博英	その他	平成20年度第7回青森県精神医療審査会	審査委員	青森県精神保健福祉センター	平成20年8月15日	ホテルJALシティ青森	青森県精神医療審査会委員	
8	看護学科	藤井 博英	その他	平成20年度第13回青森県精神医療審査会	審査委員	青森県精神保健福祉センター	平成20年12月19日	ホテルJALシティ青森	青森県精神医療審査会委員	
2	看護学科	藤田 あけみ	人材育成	青森ストーマリハビリテーション講習会、在宅呼吸管理看護、青森県立青森東校等学校出張講義、公立七戸病院看護研究、「通信制2年課程」レ	講師	青森骨盤外科研究会ストーマリハビリテーション部門、青森県看護協会、八戸看護専門学校、公立七戸病院、日本オストミー協会青森県支部	6月28日～29日、12月13日～14日、5月10日、2月21日	青森県立保健大学、県民福祉プラザ、公立七戸病院	保健師、助産師、看護師	
2	看護学科	福井 幸子	人材育成	訪問看護師養成講習会「感染管理」	講師	社団法人青森県看護協会(主催)	平成16年6月、17年7月、18年8月、19年8月、20年8月	青森市	訪問看護に従事している、あるいは今後予定している看護職	
1	看護学科	福井 幸子	生涯学習	函館市立函館高等学校「出前講義」	講師	函館市立函館高等学校	平成20年7月	函館市立高等学校	1,2学年100名	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	三戸中央病院院内研修	講師	三戸中央病院 看護局	2008年4月5日	三戸中央病院	三戸町	看護職員
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	青森県看護協会	平成20年9月9日/11月20日	青森県看護協会	青森市	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	北海道看護協会	平成21年1月28日	北海道看護協会	札幌市	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	認定看護管理者教育課程サードレベル	教育担当者	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成20年6月23日-7月17日/8月18日-9月5日	青森県立保健大学	青森市	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	八戸市立市民病院院内研修	講師	八戸市立市民病院 看護局	平成20年12月13日	八戸市立市民病院	八戸市	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	救急看護認定看護師教育課程	講師	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成20年6月27日	青森県立保健大学	青森市	
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	セカンドレベルフォローアップ研修	企画・運営	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成20年11月8日	青森県立保健大学	青森市	平成19年度セカンドレベル
2	看護学科	早川ひと美	人材育成	サードレベルフォローアップ研修	企画・運営	青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成21年3月20日	青森県立保健大学	青森市	平成20年度サードレベル
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本看護管理学会	会員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本看護学教育学会	会員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本母性衛生学会	会員					

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類 番	所 属	氏 名	区 分	事 業 名	役 割	主 催	開 催 日 時	開 催 場 所	対 象	参 集 範 囲 等
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本医療・病院管理学会	会員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本看護科学学会	会員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活	日本在宅ケア学会	会員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活 動	日本医療・病院管理学会 査 読委員会	委員					
7	看護学科	早川ひと美	外部委員・学会活 動	第26回日本ストーマ・排泄リ ハビリテーション学会総会	実行委員	日本ストーマ・排泄リハビリテーシ ョン学会	2009年2月28日29日	青森市文化会館等	青森市	
2	看護学科	平尾 明美	人材育成	第8回名古屋掖済会病院PTL S講習会看護師コース	講師・イン ストラク	名古屋掖済会病院	7月14日	名古屋掖済会病院	看護師	
1	看護学科	平尾 明美	生涯学習	第4回八戸プライマリケア外傷 蘇生看護師コース	講師・イン ストラク	地域医療振興協会	10月20日・21日	八戸市立市民病院	看護師	
2	看護学科	平尾 明美	人材育成	第9回名古屋掖済会病院PTL S講習会看護師コース	講師・イン ストラク	名古屋掖済会病院	1月12日	名古屋掖済会病院	看護師	
7	看護学科	平尾 明美	外部委員・学会活	トリアージナース育成検討委 員会	委員	日本救急看護学会・日本臨床救急医学会合 会				
1	看護学科	細川 満子	生涯学習	平成20年度寿大学・寿大学 院、女性大学・女性大学院合 同入学式・始業式記念講演	講師	青森市	2008年4月16日	青森市文化会館	青森市寿大学・寿大 学院、女性大学・女 性大学院生	
1	看護学科	細川 満子	生涯学習	第7回あおり協立病院公開倫 理講座	講師	あおり協立病院医療倫理委員会	2009年3月28日	あおり協立病院	あおり協立病院医 療専門職・事務系職 員・組合員、弁護士	
2	看護学科	細川 満子	人材育成	平成20度訪問看護師養成講習 会	講師	青森県看護協会	平成20年7月9日	青森県民福祉プラ ザ	看護職	
2	看護学科	細川 満子	人材育成	平成20年度社会福祉主事資格 認定講習会	講師	青森県立保健大学	2008年9月25日	青森県立保健大学	県及び各市福祉事 務所職員、民間福祉 施設職員	
2	看護学科	細川 満子	人材育成	平成20度青森県介護支援専門 員実務者基礎研修	講師	NPO法人青森県介護支援専門員協会	2008年5月1日	青森市文化会館	介護支援専門員	
2	看護学科	細川 満子	人材育成	平成20年度橋渡し看護職員養 成研修会	講師	青森県看護協会	2008年11月14日	青森県民福祉プラ ザ	看護職	
2	看護学科	細川 満子	人材育成	平成20年度ケアプラン作成研 修会	講師	上北地域県民局	2008年10月28日	十和田市文化セン ター	居宅介護支援専門 員、市町村介護保険 担当者、地域包括支 援センター職員、上 十三保健所職員	
3	看護学科	細川 満子	産官学連携	むつ介護者家族のつどい	企画・運営		平成20年8月1日、11月 18日	下北地域支援セン ター	むつ市在住の介護 者、家族	
6	看護学科	細川 満子	情報発信	福祉用具の活用に関する情報	情報提供	東奥日報社	平成20年6月17日	一般市民		
7	看護学科	細川 満子	外部委員・学会活 動	あおり協立病院医療倫理委 員会	委員	あおり協立病院	平成20年4月～平成21 年3月31日	あおり協立病院	あおり協立病院医 療専門職・事務系職 員・組合員、弁護士	
7	看護学科	細川 満子	外部委員・学会活 動	あおり継続看護研究会	評議員	あおり継続看護研究会	平成20年4月～平成21 年3月31日	青森県内看護職、 教育関係者		

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護学科	木村 恵美子	人材育成	リンパ浮腫ケア	講師・デモンストレーター、実践指導	①リンパ浮腫研修会、リンパ浮腫患者へのケアについて、青森県内訪問看護ステーション 23施設、木村恵美子企画講演、2008年11月1-2日、青森県立保健大学、青森市の第8回日本看護技術学会学術集会 体験セッション リンパドレナージ講師、2008年9月21日、青森県立保健大学、青森市②リンパ浮腫ケア；フェルディ式複合物理療法の講義と実践指導、平成20年4月14日、5月29日、6月17日、7月1、15日、8月5、8、12、14、19、20、21、25、27、29日、9月1、2、4、5、9、12日、12月25日、平成21年2月12日、26日9月24、25、26日、平成21年9月11、18、25、30日青森県立中央病院、十和田市立病院大会議室およびリンパ浮腫ケア室、十和田市③リンパ浮腫研修会；患者へのリンパ浮腫指導、2008年7月26日-8月11日、八戸市立市民 病院、八戸市④第1回リンパ浮腫患者の予防に対する患者教育・指導に資する看護師研修、日本がん看護学会 教育研究委員会主催、2008年10月11日～11月30日までの土日8回、聖路加看護 大学、東京都⑤緩和ケアの事業化ラウンドテーブル意見交換会、青森県医療・健康福祉関連事業化促進 ラウンドテーブル事業、2009年2月26日、青森県立保健大学、青森市のリンパ浮腫最前線、文科省がんプロフェッショナル養成プラン 高度がん医療を先導する人材拠点の育成、がん看護認定看護師コース、2009年3月22日、京都大学 芝蘭会館、京都府	主催参照	主催参照	リンパ浮腫患者・医師・看護師・薬剤師・音楽療法士など	
1	看護学科	富田 恵	生涯学習	平成20年度介護支援専門員受験対策講座（医療分野）	講師	青森県社会福祉士会	2008年7月26日	青森市	介護支援専門員試験を受験する社会福	約100名
2	看護学科	村上 眞須美	人材育成	看護管理者ファーストレベル教育過程	ファーストレベル教育	青森県看護協会	平成20年6月28日～11月29日			
7	看護学科	村上 眞須美	外部委員・学会活動	第5回日本循環器看護学会	企画・運営委員	青森県立保健大学	平成20年10月18・19日			
2	看護学科	村上 眞須美	人材育成	看護管理者教育課程サードレ	運営委員	青森県立保健大学地域連携・国際センター				
5	看護学科	内城 絵美	地域交流	第8回青森県小児糖尿病サマーカーン	糖尿病教室講師（小学	青森県小児糖尿病サマーカーン実行委員会	平成20年7月25日～7月27日	大鰐町（おおわに山荘）	小児糖尿病患者とその家族	
4	看護学科	大津美香	国際交流	中国人留学生の募金活動の支援（四川大震災）	委員	地域連携推進科国際センター国際科委員会	平成20年5月28日～6月9日	青森県立保健大学	青森市	外国人留学生
7	看護学科	大津美香	外部委員・学会活動	第7回日本看護技術学会学術集会	実行委員	日本看護技術学会	平成20年9月20日～9月21日	青森県立保健大学	青森市	第回日本看護技術学会学術集会参加者
7	看護学科	大津美香	外部委員・学会活動	第5回日本循環器看護学会学術集会	企画運営委員	日本循環器看護学会	平成20年10月18日～10月19日	青森県立保健大学	青森市	第5回日本循環器看護学会学術集会参加者
7	看護学科	大津美香	外部委員・学会活動	平成21年度青森県准看護師試験委員会	試験委員	青森県	平成20年4月1日～平成21年3月31日の7月22日、11月25日、3月3日	青森県庁	青森市	青森県准看護師試験の受験者
7	看護学科	大津美香	外部委員・学会活動	日本ヒューマンケア科学学会編集委員会	編集委員	日本ヒューマンケア科学学会	平成20年4月1日～平成21年3月31日	青森県立保健大学	青森市	日本ヒューマンケア科学学会学術雑誌への投稿者
8	看護学科	大津美香	その他	第10回、第11回青森高齢者ケア研究会	主催	青森高齢者ケア研究会	平成20年11月15日、平成21年3月7日	青森県立保健大学	青森市	青森県内において高齢者ケアに従事する看護・介護職

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護学科	大関 信子	人材育成	1.第19年度看護大学等進路説明会 相談員 青森県看護協会・青森県教育委員会・2.高大連携事業「医療人類学」講師 青森県立青森高等学校・3.高大連携事業「グローバル社会と文化」講師 青森県立青森東高等学校・4.福井県立大学「国際看護学」講師 福井県立大学・5.救急看護認定看護コース「看護倫理	講師					
8	看護学科	佐藤 愛	その他	あおもり思春期研究会	事務局	一般市民、医療関係者、教育関係者等を対象に、年2回の市民公開講座・例会の開催、電話相談、ピアカウンセラー養成とその活動支援を行っている。				
2	看護学科	佐藤真由美	人材育成	岩手県看護協会 新人教育「フィジカルアセスメント」	演習時の講師補助	岩手県看護協会	2008年8月11日	岩手県看護研修センター	盛岡市	岩手県内看護師新規採用者
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	平成20年度救急看護認定看護師教育課程	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	2008/7/25	青森県立保健大学	救急看護認定看護師教育課程受講生	
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	平成20年度社団法人青森県看護協会看護師職能集会	講師	社団法人青森県看護協会	2008/6/7	青森市民ホール	看護師、准看護師	
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	平成20年度介護員養成研修3級課程	講師	社会福祉法人青森市社会福祉協議会	2008/11/11	青森市福祉増進センター「しあわせ	介護員養成研修3級課程受講者	
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	学校法人東日本学園後援会講演会・東北支部懇談会	講師	学校法人東日本学園後援会	2008/8/23	ホテル青森	薬剤師、歯科医師、看護師等	
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	(社)青森県鍼灸マッサージ師会 生涯教育市民公開講座	講師	(社)青森県鍼灸マッサージ師会	2008/10/26	十和田保健所	鍼灸マッサージ師、一般市民	
2	看護学科	吹田 夕起子	人材育成	第10回アルツハイマーフォーラムIN青森	講師	アルツハイマーフォーラムIN青森、エーザイ(株)、ファイザー(株)	2008/11/1	青森文化会館	保健医療福祉関係者、一般市民	
7	看護学科	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	平成20年度地域密着型サービスの外部評価審査委員会	委員長	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	2009/3/9	県民福祉プラザ		
7	看護学科	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	八戸看護専門学校通信制2年課程添削指導員連絡会議	添削指導員	八戸看護専門学校	2008/9/11、2009/2/12	八戸市 ユートリー		
7	看護学科	吹田 夕起子	外部委員・学会活動	日本認知症ケア学会	査読委員					
8	看護学科	吹田 夕起子	その他	青森高齢者ケア研究会	世話人(事務局)					
2	看護学科	山田 典子	人材育成	デートイキングバイオレンス予防中学生プログラム 「ハートフルセミナー」	プログラム開発、評価、および実施	主催：青森県子どもみらい課・共催：NPO法人ウィメンズネット青森	平成20年7月16日、11月16日、11月14日、11月17日、11月19日いずれもPM	7月16日鯉ヶ沢第1中学校、11月16日弘前市立津軽中学校、11月14日脇野沢中学校、11月17日十和田第1中学校、11月19日弘前市立裾野中学	中学生およびPTA	
2	看護学科	山田 典子	人材育成	平成20年度出張講義、「大学紹介および現代の医療問題」	講師・大学紹介	青森県立三沢高等学校	2008年6月28日	青森県立三沢高等学校	高校生	
2	看護学科	山田 典子	人材育成	海外研修支援事業 米国ヴィラノバ大学での本学大学院生	企画、情報提供、連絡	地域連携・国際センター 国際科看護学科委員	2009年3月	米国ペンシルバニア州ヴィラノバ大	クリティカル看護学領域2名、小児家族	本学大学院生
2	看護学科	山田 典子	人材育成	法看護学セミナー	企画、セミナー講師、	2007年10月6日より同年10月30日	1回目森隆志青森地方検察庁検事(講師)で	看護職、DV支援者、福祉職		
2	看護学科	山田 典子	人材育成	十和田市セーフコミュニティ推進事業「世帯調査から見た	調査員・講師	十和田市	平成21年1月23日	十和田市保健センター1階ホール	外傷世帯調査員および世帯調査の協力者	
2	看護学科	山田 典子	人材育成	平成20年度青森市人権教育・学習推進モデル講座「ふ	プログラム開発および3	NPO青森推進会議・青森市生涯学習課	8月9日、9月13日、10月4日	青森市八甲田丸	高校生～一般	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
2	看護学科	山田 典子	人材育成	一歩すすんだ看護現任研修をめざして～法看護学のスキル	企画、実施、評価	平成20年度地域連携・国際センター研修科事業	2008年11月8日午前、12月13日午	十和田市立中央病院	看護職・4回目の講座は公開講座とし、	
1	看護学科	山本 春江	生涯学習	訪問看護師養成講習会「訪問看護対象論」	講師	青森県看護協会	2008.7.30	青森県福祉プラザ	訪問看護師・在宅看護職	
2	看護学科	山本 加奈子	人材育成	社会福祉主事資格認定講習会	講師	青森県立保健大学健康科学教育センター	5月28日、6月4日	青森県立保健大学	青森県および青森市福祉事務所職員、民間福祉施設職員 約60名	
2	看護学科	山本 加奈子	人材育成	介護専門職員講座	講師	青森県社会福祉協議会	7月13日	青森県民福祉プラザ	青森県内の居宅介護に従事する介護職員約40人	
2	看護学科	山本 加奈子	人材育成	アロマセラピー研修会	講師	十和田市立中央病院	7月12日	十和田市立中央病院	十和田市立中央病院緩和ケアリンクナース 約20名	
2	看護学科	山本 加奈子	人材育成	アロマセラピー研修会	企画・運営・講師	青森県立保健大学	11月10・11日	青森県立保健大学	県内看護職者44名	
4	看護学科	山本 加奈子	国際交流	ラオスにおける学校保健プロジェクト	代表	日本財団	8月、3月（各約4週間）	ラオス人民民主共和国	ラオス国民約2000人	
4	看護学科	山本 加奈子	国際交流	青年海外協力隊募集説明会	情報提供者	JICA	4月	水産会館ビル	国際協力を目指す青森市民	
4	看護学科	山本 加奈子	国際交流	青年海外協力隊募集説明会・国際協力推進説明会	情報提供者	JICA・青森県立保健大学国際科委員会	5月30日	青森県立保健大学	国際協力で興味のある青森県民	
6	看護学科	山本 加奈子	情報発信	NHK全国ケーブルテレビ大賞	出演	NHK	7月28日	NHKBS 1	日本全国	
7	看護学科	山本 加奈子	外部委員・学会活動	日本看護科学学会	学会委員					
5	看護学科	山本真樹子	地域交流	スマイル・オン	事務	児童虐待防止を目指す民間グループ「スマイル・オン」・（ファミリーリカバリーセンター育児支援部門）	毎週火曜10:00～ 毎月土定例会	ファミリー・リカバリー・センター	小さなお子さんのいる女性（青森県在住の方）	
5	看護学科	山本真樹子	地域交流	親子ヨガ	広報、企画・運営	ファミリーリカバリーセンター育児支援部門「スマイルオン」	2ヶ月に1回（奇数月）開催	ファミリーリカバリーセンター	生後4ヶ月以上のお子さんとお母さん	
5	看護学科	山本真樹子	地域交流	絵本ライブ（楽器を使っの絵本の読み聞かせ）	広報、企画・運営	ファミリーリカバリーセンター	平成21年2月開催・今後随時開催予定。	依頼者希望場所	小学生までの子どもと、親	
5	看護学科	山本真樹子	地域交流	あおもり思春期研究会市民公開講座	事務局	あおもり思春期研究会	第5回市民公開講座平成20年6月8日・第6回市民公開講座平成21年2月7日・第7回市民公開講座平成21年6月27日開催	青森市内（青森県立保健大学、アウガ多機能ホール）	青森県の青年、そのご両親	
2	看護学科	佐々木 雅史	人材育成	青森県立保健大学 救急看護認定看護師教育課程	専任教員講師		2008年6月～12月	青森県立保健大学地域連携・国際センター	看護師10名	
2	看護学科	佐々木 雅史	人材育成	第5回八戸PTLS看護師コース	インストラクター	社団法人地域医療振興協会	2008年10月	八戸市立市民病院	看護師30名	
7	看護学科	佐々木 雅史	外部委員・学会活動	第5回日本循環器看護学会	企画・運営委員		2008年10月	青森県立保健大学		
7	看護学科	佐々木 雅史	外部委員・学会活動	青森県准看護師試験委員						
2	理学療法学科	岩月 宏泰	人材育成	セラピストのための解剖学：上肢編、下肢編研修会	講師	本学理学療法学科	2008年6月7・8日、10月4・5日	本学	青森県内の理学療法士と作業療法士	
1	理学療法学科	岩月 宏泰	生涯学習	コンディショニングセミナー	講師	全日本空道連盟大道塾青森市支部	2008年4月13日	青い森アリーナ	全日本空道連盟大道塾青森市支部員とその家族	
2	理学療法学科	岩月 宏泰	人材育成	職員研修；危険予知訓練(KYT)を学ぼう	講師	となみ療護園	2008年10月13日	となみ療護園	職員	
2	理学療法学科	岩月 宏泰	人材育成	職員研修；危険予知訓練(KYT)を学ぼう	講師	青森慈恵会病院	2008年8月26日、10月28日	青森慈恵会病院	職員	
1	理学療法学科	神成 一哉	生涯学習	全国パーキンソン病友の会青森県支部講演会	講演と質疑応答（パーキンソン病と認知症に	全国パーキンソン病友の会青森県支部	2008年10月26日	青森市文化会館小会議室	パーキンソン病患者様およびそのご家族	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
3	理学療法学科	神成 一哉	産官学連携	平成20年度むつ保健所難病患者医療相談	講演と医療相談（パーキンソン病の薬の上手な服用の仕方について）	むつ保健所	2008年9月4日	むつ来さまい館	パーキンソン病患者様およびそのご家族	
3	理学療法学科	神成 一哉	産官学連携	青森市保健所平成20年度第2回医療相談事業	講演と質疑応答（歩行障害について）	青森市保健所	2008年10月26日	青森市文化会館小会議室	パーキンソン病患者様、脊髄小脳変性症患者様、およびそのご家族	
1	理学療法学科	盛田 寛明	生涯学習	青森県立保健大学高大連携授業担当（理学療法原論）	講師	青森県立保健大学	平成18年度～現在に至る（各年度前期14回 17:10～18:30）	青森県立保健大学	青森県立東高等学校生	
2	理学療法学科	盛田 寛明	人材育成	平成20年度食生活改善指導担当者研修会：ライフステージ、健康レベル別健康課題と生活指導：高齢期の健康課題と生活指導	講師	青森県栄養士会	平成20年度10月11日	青森県観光物産館アスパム	特定保健指導（「動機付け支援」及び「積極的支援」）に係る食生活改善指導担当者を目指す保健医療福祉専門職100名	
3	理学療法学科	盛田 寛明	産官学連携	横浜町訪問指導事業指導	非常勤講師	横浜町住民生活福祉課	平成14年～現在に至る（平成20年：4月23日、5月30日、9月4日、平成21年：3月24日、6月12日）	横浜町役場及び町内障害者宅	横浜町在宅障害者及び専門職（保健師等）	
3	理学療法学科	盛田 寛明	産官学連携	平成20年度六ヶ所村地区健康学習事業	講師	六ヶ所村健康課	平成21年3月3日	六ヶ所村千歳平公民館	一般住民、専門職（保健師等）	
3	理学療法学科	盛田 寛明	産官学連携	転倒しにくい杖の開発（[株]佐川商会・東洋シルバーサービス[株]との共同研究・開発・販売）	研究責任者	青森県立保健大学	青森県職務発明を経て特許出願（平成17年4月5日） 製造販売（平成20年4月）			
4	理学療法学科	盛田 寛明	国際交流	韓国仁済大学校物理治療学科との国際交流事業	計画・引率・自習指導	青森県立保健大学	平成14年～現在に至る（毎年夏季）（平成20年度：7月15日）	青森県立保健大学、県内のリハビリテーション施設・保健福祉医療	韓国仁済大学校物理治療学科3年生	
6	理学療法学科	盛田 寛明	情報発信	新聞掲載 内容：暮らし安心・雪道で転ばないために	取材における情報提供	東奥日報社	平成20年11月18日夕刊		一般住民	
6	理学療法学科	盛田 寛明	情報発信	第2回北東北地域イノベーションフォーラム出展 内容：立て掛け時に転倒しにくい杖	研究開発責任者	独立行政法人科学技術振興機構JSTイノベーションサテライト岩手	平成21年1月27日		企業担当者、研究者	
2	理学療法学科	尾崎 勇	人材育成	第2回ドライバ評価手法検討部門委員会	講師	社団法人自動車技術会 ドライバ評価手法検討部門委員会	2008年6月	東京都		
2	理学療法学科	尾崎 勇	人材育成	平成20年度むつ保健所難病患者医療相談	講師	むつ保健所	平成20年8月22日(金)	むつ来さまい館		
2	理学療法学科	山下 弘二	人材育成	平成20年度救急看護認定看護師教育課程・「救急看護技術 - 離床基準から咳嗽介助法」	講師	青森県立保健大学地域連携国際医療センター・日本看護協会	2008年8月8日/8月19日	青森県立保健大学	看護師	
1	理学療法学科	山下 弘二	生涯学習	青森県立保健大学 青森戸山高等学校出前講義	講師	青森県立青森戸山高等学校	2008年10月7日	青森県立青森戸山高等学校	高校2年生	
1	理学療法学科	山下 弘二	生涯学習	第5回日本循環器看護学会学術集会市民公開講座・「ストップ・ザ・動脈硬化」 - 運動と動脈硬化 -	講師	日本循環器看護学会	平成20年10月19日	青森県立保健大学	一般市民	
1	社会福祉学科	千葉 多佳子	生涯学習	上十三青少年赤十字高校指導者協議会	講師	上十三青少年赤十字高校指導者協議会	平成20年6月6日	公立小川原湖青年の家	高校生	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
1	社会福祉学科	千葉 多佳子	生涯学習	「大学ノムコウ」講義	講師	青森県立八戸西高等学校	平成20年10月18日	・青森県立八戸西高等学校	生徒	
1	社会福祉学科	千葉 多佳子	生涯学習	生涯学習フェア2008「大学地域連携セミナー」	講師	青森県立田名部高等学校	平成20年11月17日	青森県立田名部高等学校	生徒	
4	社会福祉学科	千葉 多佳子	国際交流	「地球のステージ」その4	企画運営主	青森県立保健大学教育センター国際科	平成20年5月	青森県立保健大学	県民一般	県民一般
4	社会福祉学科	千葉 多佳子	国際交流	「あおもり地球市民講座」	企画運営主	青森県立保健大学教育センター国際科	平成20年10月、11月、12月	青森県立保健大学	県民一般	県民一般
7	社会福祉学科	千葉 多佳子	外部委員・学会活動	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金運営委員	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金運営委	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	年に3 - 4回の委員会出席	社会福祉法人青森県社会福祉協議会	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金関係者	社会福祉法人青森県社会福祉協議会地域福祉基金関係者
8	社会福祉学科	千葉 多佳子	その他	NGO活動「あおもりとベンガルをつなぐ会」	代表	「あおもりとベンガルをつなぐ会」	毎月1回の学習会と年3回の現地訪問	国内は青森市の「アウガ」、現地はインド国西ベンガル州コルカタ周	市民一般	市民一般
8	社会福祉学科	千葉 多佳子	その他	NGO活動「地球市民ネットワーク・あおもり」	代表	「地球市民ネットワーク・あおもり」	毎月1回の学習会開催	青森市の「アウガ」あるいは県民福祉プラザ	市民一般	市民一般
8	社会福祉学科	千葉 多佳子	その他	青森県青年海外協力協会	理事	青森県青年海外協力協会	年に24回程度の企画	青森県内	企画運営の主体は会員	県民一般
2	社会福祉学科	入江 良平	人材育成	社会福祉主事認定講習会	講師	すこやか事業団	12月3日、10日	青森市	福祉施設・機関職員	
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	日本社会福祉学会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	大正大学社会福祉学会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	日本デイケア学会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	日本保健福祉学会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活動	日本精神障害者リハビリテーション学会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	日本社会事業大学社会福祉学	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	日本社会福祉士会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活	S S T普及協会	会員					
7	社会福祉学科	石田賢哉	外部委員・学会活動	横浜市精神障害者地域生活支援連合会	調査部会協力者	横浜市精神障害者地域生活支援連合会				
7	社会福祉学科	加賀谷 真紀	外部委員・学会活動	青森県介護予防市町村支援委員会 一般高齢者・地域づく	委員	青森県健康福祉部高齢福祉保険課				
1	社会福祉学科	増山 道康	生涯学習	飛び出せオープンカレッジ	ボランティアサポーター	飛び出せオープンカレッジ実行委員会・(ドアドアらんど・発達保障研究会)	年4回(平成20年度は5/25、9/、12/21、2/15開催)	青森県立保健大学	18歳以上の知的障害者	青森県内在住者(過去の実績は青森市内とその周辺地域からの参加)
2	社会福祉学科	増山 道康	人材育成	青森県立保健大学健康科学教育センター研修科企画研修事業・社会保障制度・地域生活保障に関する研修	総括責任者・講師	青森県立保健大学健康科学教育センター研修科	2007年 10・12月・2008年 3月・2009年 2月	青森県立保健大学	青森県内民間社会福祉従事者・2007年度は高齢福祉施設・介護事業を対象・2008年度は障害者福祉施設・自立支援事業を対象	青森県内
8	社会福祉学科	増山 道康	その他	高大連携授業	社会福祉学概論提供(栄養学科授業)	青森県立保健大学	前期 semester 中・2007年 4~7月(社会福祉学科通年授業の一部)・2008年 4~7月(栄養学科前期開講科	青森県立保健大学	青森県立青森東校等学校生徒	2年生希望者
8	社会福祉学科	増山 道康	その他	高等学校出前授業	講師	青森県立八戸西校等学校	2008年11月	青森県立八戸西校等学校	スポーツ科学科	在籍生徒全員

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
8	社会福祉学科	増山 道康	その他	反貧困フェア	公扶研ブラス運営・何でも相談コーナーボランティア相談員(生)	反貧困ネットワーク	2009年3月28日	神田一橋中学校	東京都内失業者・不安定労働者・野宿者・一般市民	限定無し
7	社会福祉学科	大竹 昭裕	外部委員・学会活動	青森紛争調整委員会	委員	厚生労働省青森労働局				
7	社会福祉学科	大竹 昭裕	外部委員・学会活動	青森県精神医療審査会	委員	青森県				
2	社会福祉学科	大竹 昭裕	人材育成	社会福祉主事認定講習会	講師(「法学(憲法)を中心	公立大学法人青森県立保健大学地域連携・国際センター	平成20年9月9日	青森県立保健大学	県及び各市福祉事務所職員、民間福祉施設職員(43名)	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	日本社会福祉学会	査読委員	日本社会福祉学会	年間2回程度	東京都	学会から選出された学識者	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	日本社会福祉学会東北部会	幹事	日本社会福祉学会	年間6回程度	仙台市	学会から選出された学識者	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	福祉サービス第三者評価推進委員会	委員長	福祉サービス第三者評価推進委員会事務局	年間4回程度	青森市	関係団体の長及び学識者	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県高齢者サービス総合調整推進会議	委員	青森県健康福祉部高齢福祉保険課	年間5回程度	青森市	職能団体の代表者、行政組織の代表者、学識者	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県社会福祉士会	理事	青森県社会福祉士会	年間6回程度	青森市	学識者、社会福祉士会理事	
7	社会福祉学科	大和田 猛	外部委員・学会活動	青森県すこやか福祉事業団	理事	青森県すこやか福祉事業団	年間5回程度	青森市	学識者、事業団理事	
8	社会福祉学科	齋藤 史彦	その他	NPO法人光の岬福祉研究会の運営、調査等の助言	正会員	NPO法人光の岬福祉研究会				
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	平成20年度青森県児童相談所児童福祉司研修会	講師	青森県中央児童相談所	平成20年5月27・28日	青森市	青森県中央児童相談所	青森県児童相談所児童福祉
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	平成20年度訪問看護師養成講習会研修会	講師	青森県看護協会	平成20年6月25日	青森市	青森県看護協会	看護師
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	秋田県栄養士会研修会	講師	秋田県栄養士会	平成20年6月28日	秋田市	秋田県生涯学習センター分館	栄養士
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	平成20年度介護支援専門員更新会研修会	講師	青森県介護支援専門員協会	平成20年7月2・3日	青森市	青森市文化会館	介護支援専門員
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	青森県立中央病院研修会	講師	青森県立中央病院	平成20年7月5日	青森市	青森県立中央病院	看護師
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	第24回青森県学校教育相談研究会研修会	講師	青森県学校教育相談研究会	平成20年8月25日	八戸市	八戸ブラザホテル	教師
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	平成20年度施設等相談援助職員中堅研修会	講師	秋田県福祉保健研修センター	平成20年8月21・22日	秋田市	秋田県社会福祉会館	施設職員
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	六戸町地域包括支援センター研修会	講師	六戸町	平成20年9月10日	六戸町	六戸町役場	介護職員、看護師
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	平成20年介護福祉基礎講座	講師	青森県社会福祉協議会	平成20年度9月13日	青森市	県民福祉プラザ	介護職員
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	青森県栄養士会研修会	講師	青森県栄養士会	平成20年9月14日	青森市	青森県労働福祉会館	栄養士
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	八戸市地域包括支援センター研修会	講師	八戸市	平成20年9月24日	八戸市	八戸市役所	介護職員、看護師
1	社会福祉学科	安田 勉	生涯学習	白百合ホーム母の会研修会	講師	白百合ホーム	平成21年2月17日	大館市	白百合ホーム	入所者、職員
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	福祉オンブズマン養成講座	講師	セーフティネットあおもり	平成21年3月15日	青森市	しあわせプラザ	福祉オンブズマン
2	社会福祉学科	安田 勉	人材育成	青森県学校教育相談学会研修会	講師	日本学校教育相談学会青森県支部	平成21年3月14日	青森市	青森県社会教育センター	教員
4	社会福祉学科	安田 勉	外部委員・学会活動	弘前市就学指導委員会	委員	弘前市教育委員会	平成21年4月31日まで	弘前市	弘前市総合学習センター	委員
5	社会福祉学科	安田 勉	外部委員・学会活動	青森県情緒障害児短期治療施設検討委員会	委員	青森県	平成20年度3月31日まで	青森市	青森県	委員
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本教育学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本教科教育学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本社会科教育学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本健康教育学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活動	学会会員	会員	日本公衆衛生学会				

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活	学会会員	会員	北海道社会福祉学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活	学会会員	会員	日本家族看護学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活	学会会員	会員	日本循環器管理研究協議会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活	学会会員	会員	日本小児保健学会				
7	栄養学科	浅田 豊	外部委員・学会活	学会会員	会員	日本民族衛生学会				
8	栄養学科	廣森 直子	その他	飛び出せ！ オープンカレッジinあもり	運営委員	あもりオープンカレッジ運営委員会	2008.5.25、 2008.10.26、2008.12.21、 2009.2.15 (2008	青森県立保健大学	知的障害者および一般住民	
8	栄養学科	廣森 直子	その他	第29期 青森県社会教育委員			任期：2008年10月19日 ～2010年10月18日			
8	栄養学科	廣森 直子	その他	日本ボランティア学会2008年度大会の開催運営	現地運営事務局	日本ボランティア学会	2008.6.28-29	青森県立保健大学	学会員、一般参加	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	地域キャンパス講座【ピンピンコロリ、元気で長生き】	講師	青森県教育委員会	平成20年10月24日	十和田市中央公民館	一般市民	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	模擬講義【食と栄養（人は一生にどの位の食糧を食べるのか）・・・健康への架け橋】	講師	青森県立青森東高校	平成20年10月10日	青森東高校	高校生	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	模擬講義【食と栄養（人は一生にどの位の食糧を食べるのか）・・・健康への架け橋】	講師	青森県立青森戸山高校	平成20年10月7日	青森戸山高校	高校生	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	模擬講義【栄養学・序の口】	講師	秋田県立能代北高校	平成20年9月10日	能代北高校	高校生	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	模擬講義【食と栄養（人は一生にどの位の食糧を食べるのか）・・・健康への架け橋】	講師	八戸高校	平成20年8月25日	八戸高校	高校生	
1	栄養学科	岩井 邦久	生涯学習	平成20年度青森県立保健大学公開講座【ピンピンコロリ、元気で長生きする食と栄養】	講師	青森県立保健大学	平成20年7月26日	青森県立保健大学	一般市民	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	健康博覧会2008【ガズミ新製品】	出展者	CMPジャパン株式会社	平成21年3月11～13日	東京国際展示場	企業、研究機関	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	平成20年度知的財産権セミナー事業【「おからこんにゃく」成功への道のり】	運営	東北経済産業局	平成21年3月3日	青森県立保健大学	教職員	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	あもり産学官金連携フォーラムパネルディスカッション【あもり型産学官連携モデルの構築に向けて】	パネラー	青森県	平成21年1月27日	青森国際ホテル	自治体、大学、研究機関、企業	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	第2回北東北地域イノベーションフォーラム【共同研究から生まれた「ガズミ活用研究会」・・・実用化のために】	展示・発表	JSTサテライト岩手	平成21年1月27日	青森国際ホテル	自治体、大学、研究機関、企業	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	平成20年度青森県立保健大学知的財産セミナー	企画・運営	青森県立保健大学	平成20年10月9日	青森県立保健大学	教職員、学生、一般	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	先行技術調査講習会	運営	青森県立保健大学、知的所有権センター	平成20年8月29日、9月3	青森県立保健大学	教職員、企業	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	第7回産学官連携推進会議・展示【ガズミ果実の生理機能研究と新規製品開発】	出展	内閣府、他	平成20年6月14～15日	国立京都国際会館	自治体、大学、研究機関	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	ヘルスアップビジネスセミナー“あもりならではのメタボ対策関連ビジネス”事業	コーディネーター	青森県	平成20年6月3日	青森国際ホテル	企業、研究機関、一般	
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	共同研究（継続4件）ガズミ活用研究会	共同研究者代表	保健大、県内企業3社、県外企業2社 保健大、県	平成18年～ 平成19年11月～	保健大	県内企業（ガズミを利用した製品開発・事業化）	ガズミ活用研究会のホームページ
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	ヘルシーフード創造研究会	代表	保健大	平成17年9月～、随時	県内企業（研究成果を活用した製品開発支援）		
3	栄養学科	岩井 邦久	産官学連携	健康科学特別研究	研究代表	青森県立保健大学	平成19年4月～	青森県立保健大学	企業	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ビジネスサロン・ちょこっとコラム	執筆	青森県新産業創造課	随時	医療・健康福祉関連ビジネスサロン		
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ツルアラメに血糖抑制成分	取材	東奥日報社	平成21年3月26日	東奥日報4面		
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ活用研究会の活動と新製品	説明・出演	RAB	平成21年3月22日	RAB活彩あおもり【あおもりウェルネスランド構想】		
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ガマズミの第一人者・身体の抗酸化力が向上	取材	デーリー東北	平成21年3月2日	デーリー東北3面月曜インタビュー		
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	青森県産食材使いボン酢発売	取材	日本経済新聞	平成21年2月20日	日本経済新聞31面		
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ新製品・ガマズミ活用研究会	発表・取材	テレビ2社、新聞2社	平成21年2月18～19日			
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ゼリーなど製品化へ・青森県立保健大学グループ	取材	日本経済新聞	平成20年10月31日			
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	酸味さわやか ガマズミシャーベット完成	取材	新聞2社	平成20年8月8日			
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	企業から大学院生	取材	日本経済新聞31面	平成20年5月27日			
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	アピオス新製品発表	発表・取材	テレビ・新聞5社	平成19年5月31日～			
6	栄養学科	岩井 邦久	情報発信	ガマズミ新製品発表	発表・取材	テレビ3社、新聞6紙	平成19年7月24日～			
7	栄養学科	岩井 邦久	外部委員・学会活	あおもり地域産業総合支援会	新事業推進	財団法人21あおもり産業総合支援センター				
7	栄養学科	岩井 邦久	外部委員・学会活	日本未病システム学会	評議員		平成17年～			
7	栄養学科	岩井 邦久	外部委員・学会活	日本栄養・食糧学会、他6学会	会員					
7	栄養学科	岩井 邦久	外部委員・学会活動	学術雑誌	査読委員	American Chemical Society, 他		J. Agric. Food Chem. 誌, 他6誌		
1	栄養学科	井澤 弘美	生涯学習	青森県立保健大学平成20年度公開講座	講師	平成20年6月28日	下北文化会館（青森県むつ市）	一般市民		
5	栄養学科	井澤 弘美	地域交流	農ハウ2008栄養学科ブース出展	栄養学科紹介と食育活	東奥日報社ほか	平成20年8月31日	青い海公園（青森県青森市）	一般市民	
8	栄養学科	井澤 弘美	その他	青森県立弘前高等学校「大学学部研究」	講師	青森県立弘前高等学校	平成20年9月24日	青森県立弘前高等学校	高校2年生	
8	栄養学科	井澤 弘美	その他	青森県立青森南高等学校「学部説明会」	講師	青森県立青森南高等学校	平成20年11月19日	青森県立青森南高等学校	高校2年生	
8	栄養学科	井澤 弘美	その他	弘前学院聖愛中学高等学校「校内進路ガイダンス」	講師	弘前学院聖愛中学高等学校	平成20年11月22日	弘前学院聖愛中学高等学校	高校2年生、PTA	
4	栄養学科	松江 一	国際交流	韓国食品製造業の中小企業経営者セミナー	講師	韓国慶北大学農学部食品科学工学研究所	2008/6/25	韓国ノ大邱市	食品製造に関わる中小企業の経営者	産学官関係者100名
4	栄養学科	メリッサ 小笠原	国際交流	一歩すすんだ看護現任研修	「コミュニケーション能力を高める その一歩を踏み出そう」 Opening	青森県立保健大学	2008年12月13日	十和田市立中央病院		
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	黒石市健康づくり市民のつど	検査員	黒石市・黒石市健康づくり推進協議会	平成20年11月16日	スボカルイン黒石	黒石市の住民	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	特定健診における職域を対象とした保健指導モデルの開発	管理栄養士	平成20年度科学研究費補助金事業	平成20年12月11日・平成21年1月16日・平成21年2月20日	某企業	某企業職員	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	第8回青森県小児糖尿病サマーカーンブ	管理栄養士	第6回青森県小児糖尿病サマーカーンブ実行委員会	平成20年7月25～27日	大鱈山荘	青森県の小児糖尿病患者	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	ケア付ねぶたじょっぱり隊	運行班	ケア付ねぶたじょっぱり隊事務局	平成20年8月3日	青森市	障害を持ち、介護を必要とする方	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	農ハウフェスタ2008	展示ブース	東北八新聞社協議会	平成20年8月31日	青い海公園	東北地方の人	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	ヘルシーあおもりフェア2008	検査員	青森市、青森市ヘルシーあおもりフェア実行委員会	平成20年9月6日	アウガ	青森市民	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	学校保健委員会事業	講師	小柳小学校	平成20年9月12日	小柳小学校	小柳小学校の児童、保護者、教員	
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	あおもりっ子食育サミット	展示ブース	青森県教育委員会	平成20年11月8日	ゆうネットシティホール	青森県の児童生徒	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類番	所属	氏名	区分	事業名	役割	主催	開催日時	開催場所	対象	参集範囲等
5	栄養学科	森永 八江	地域交流	平成20年度(社)日本栄養士会全国福祉栄養士協議会及び北海道・東北ブロック福祉栄養士協議会合同研修会	展示ブース	日本栄養士会全国福祉栄養士協議会、北海道・東北ブロック福祉栄養士協議会	平成21年2月8日	かでの2.7	日本栄養士会全国福祉栄養士協議会会員、北海道・東北ブロック福祉栄養士協議会会員	
5	栄養学科	佐々木万衣子	地域交流	いただきます!あおもり食育推進モデル事業	管理栄養士	青森県・青森県食育推進会議・地域食育ネットワーク協議会	平成20年 10月30日 11月17日 11月27日 ・平成21年 1月11日	青森県平内町某小学校	某小学校学童とその保護者	
5	栄養学科	佐々木万衣子	地域交流	あおもりっ子食育サミット	展示ブース	青森県教育委員会	平成20年 11月8日	ゆうネットシティホール	青森県の小・中・高校生	
5	栄養学科	佐々木万衣子	地域交流	農ハウフェスタ2008	展示ブース	東北八新聞社協議会	平成20年 8月31日	青い海公園	青森県民、その他東北県民	
7	栄養学科	熊谷貴子	外部委員・学会活動	全国研究教育栄養士協議会 代表者会議	青森県代表(代理)	社団法人 日本栄養士会	2008年3月7日	キャンパスプラザ京都・京都市	全国研究教育栄養士協議会 会員	
7	栄養学科	熊谷貴子	外部委員・学会活動	青森県研究教育栄養士協議会 研修会	全国研究教育栄養士協議会 代表者会議報告	社団法人 青森県栄養士会	2008年3月22日	東北女子短期大学・弘前市	青森県研究教育栄養士協議会 会員	
3	栄養学科	乗鞍 敏夫	産官学連携	平成20年度 知的財産権セミナー事業(「おからこんにゃく」成功への道のり)	運営	東北経済産業局	平成21年3月3日	青森県立保健大学	教職員	
3	栄養学科	乗鞍 敏夫	産官学連携	第2回 北東北地域イノベーションフォーラム	出展業務の運営	JSTサテライト岩手	平成21年1月27日	青森国際ホテル	自治体、大学、研究機関、企業	
3	栄養学科	乗鞍 敏夫	産官学連携	平成20年度 青森県立保健大学 知的財産セミナー	運営	青森県立保健大学	平成20年10月9日	青森県立保健大学	教職員、学生、一般	
3	栄養学科	乗鞍 敏夫	産官学連携	先行技術調査講習会	運営	青森県立保健大学、知的所有権センター	平成20年8月29日、9月3日	青森県立保健大学	教職員、企業	
5	栄養学科	乗鞍 敏夫	地域交流	農ハウフェスタ2008	展示ブース	東北八新聞社協議会	平成20年8月31日	青い森公園	一般	
1	栄養学科	向井 友花	生涯学習	食肉流通関連制度遵守セミナー	講師	青森県食肉事業協同組合連合会	平成20年11月27日	県民福祉プラザ	地域住民	
5	栄養学科	向井 友花	地域交流	オープンカレッジinあおもり	講師	青森オープンカレッジ運営委員会	平成20年5月25日・平成20年10月26日	青森県立保健大学	地域住民	
7	栄養学科	齋藤 長徳	外部委員・学会活動	青森県医療費適正化計画の実施に係る懇話会	保健医療関係団体選出	青森県健康福祉部				
6	栄養学科	羽入辰郎	情報発信	講義録の出版	著者	ミネルヴァ書房	2009年2月28日	京都	大学入学前の高校生	読者
4	栄養学科	ゲスト スコット	国際交流	High School Visit: Aomori Nishi High School	Presenter		10-Nov-08	Aomori Nishi Senior High	Aomori	
4	栄養学科	ゲスト スコット	国際交流	High School Visit: Hachinohe Senior High	Presenter		26-Jan-09	Hachinohe Senior High School	Hachinohe	
1	地域連携・国際センター	川内 規会	生涯学習	平成20年度青森県手話通訳者養成講座「ことばのしくみ」	講師	青森県聴覚障害者情報センター	2008/8/10	青森県聴覚障害者情報センター	手話奉仕員養成講座基礎課程修了者、手話通訳関係者	一般県民対象
1	地域連携・国際センター	川内 規会	生涯学習	人権教育・学習推進モデル事業「人権尊重のコミュニケーション」	講師	青森県教育委員会/ 五所川原市人権・学習協議会	2008/9/20	五所川原地域職業訓練センター		
1	地域連携・国際センター	川内 規会	生涯学習	五所川原市女性再チャレンジ事業コミュニケーション講座「人と人とのかわり」	講師	五所川原市女性再チャレンジ実行委員会	2008/12/9	五所川原公民館	青森県内の女性	
2	地域連携・国際センター	川内 規会	人材育成	看護現任研修会「コミュニケーション能力を高めその一歩を踏み出そう」	講師	青森県立保健大学研修企画(セーフティプロモーション)	2008/12/13	十和田市立中央病院	看護師	
2	地域連携・国際センター	川内 規会	人材育成	看護現任研修会「患者さんのため、私のため自己表現力を高めよう」	講師	青森県立保健大学研修企画	2009/2/11	青森県立保健大学	現任看護師・潜在看護師	
2	地域連携・国際センター	川内 規会	人材育成	看護技術スキルアップ研修 医療安全に関わる看護技術「静脈注射」学びなおしプログラム「コミュニケーション」	講師	青森県立保健大学地域連携・国際センター	2008/11/30	青森県立保健大学	現職看護師	

平成20年度 地域貢献活動実施状況報告書

類 番	所 属	氏 名	区 分	事 業 名	役 割	主 催	開催日時	開催場所	対 象	参集範囲等
1	地域連携・国際センター	川内 規会	生涯学習	第25回飛び出せオープンカレッジinあもり「コミュニケーション」	講師	青森オープンカレッジ運営委員会	2009/2/15	青森県立保健大学	知的障害者、サポーター	
2	地域連携・国際センター	川内 規会	人材育成	平成20年度中部上北2町介護支援専門員研修会「コミュニケーション技術Part2～人とのコミュニケーションを良好に保つためには～」	講師	七戸町健康福祉課	2009/3/13	東北町保健センター	居宅介護支援専門員・在宅介護支援センター職員	
1	地域連携・国際センター	川内 規会	生涯学習	平成20年度 青難聴福祉学習会「私たちのコミュニケーションに大切なこと～コミュニケーションのポイントを学ぶ～」	講師	青森県難聴者・中途失調者協会	2009/3/15	なむのき会館	難聴者・中途失調者・要約筆者など	
2	地域連携・国際センター	川内 規会	人材育成	救急看護認定看護師フォローアップセミナー「アサーティブな考え方と実践」	講師	青森県立保健大学地域連携・国際センター	2009/3/17	青森県立保健大学	救急看護認定看護師教育課程修了生	
7	地域連携・国際センター	川内 規会	外部委員		面接委員	日本英語検定協会	平成20年度 7月13日、11月16日	青森山田高等学校	一般市民	

平成 20 年度青森県立保健大学公開講座実績

1 基本テーマ：「生活と健康」

2 会場：第1回～第2回、第4回～第6回、青森県立保健大学 講堂 第3回、むつ市（下北文化会館）

3 開催日時、講師及びテーマ等

回	日時	時間	講師		テーマ
第1回	5月 31日 (土)	14:05- 15:05	栄養学科	教授 吉池 信男	ちょっと“メタボになってきたら・・・ ～手軽にできる食事と運動の工夫～
		15:20- 16:20	青森県立中央 病院	吉田 茂昭	がん予防の視点
第2回	6月 14日 (土)	15:20- 16:20	理学療法学科	教授 渡部 一郎	大学生の生活習慣と健康 - 喫煙による血流障害・血圧上昇・免疫異常の検 討 -
第3回	6月 28日 (土)	14:05- 15:05	看護学科	講師 千葉 敦子	生活習慣改善によるがん予防
		15:20- 16:20	栄養学科	講師 井澤 弘美	血液さらさらと健康
第4回	7月 12日 (土)	14:05- 15:05	栄養学科	教授 今 淳	「正しい食生活から美しい皮膚を、美しい皮膚か ら全身の健康を」
		15:20- 16:20	青森県立中央 病院	主任看護師 秋葉 聖子	緩和ケアとは
第5回	7月 26日 (土)	13:05- 14:05	看護学科	准教授 鳴井 ひろみ	より良いがん医療を受けるために
		14:20- 15:20	栄養学科	教授 岩井 邦久	ピンピンコロリ、元気で長生きするための食と栄 養
第6回	10月 11日 (土)	15:00- 16:00	看護学科	教授 中村 由美子	家族の「がん」とつきあうための“より良いコミ ュニケーション” - 家族として、どう向き合うか

第2回の中村教授の講演が延期になり、第6回として開催しました。

* 本学では、地域貢献活動における生涯学習として、一般の県民を対象とした、「公開講座」（基本テーマ「生活と健康」）を、本学において4回、むつ市において1回の計年5回開催しています。

（本学における「地域貢献」とは、「学生」に対する教育活動以外に、地域とともに行う研修、委員会、共同研究その他の「教員」の活動をいいます。）

千葉 敦子

テーマ：生活習慣改善によるがん予防

生活習慣病とは不適切な生活習慣の積み重ねにより発症・進行する病気である。そのひとつにがんがある。生活習慣とがんの関連を調査した 1996 年のアメリカの調査では、アメリカ人のがん死亡の原因として喫煙が 30%、食事が 30%、運動不足が 5%、飲酒が 3%という報告がある。つまり、がんの原因の多くは、たばこや飲酒、食事などの日常の生活習慣に関連することが示された。

国立がんセンターでは、現状において日本人に推奨できるがん予防法として、次の 6 項目を提唱している。「たばこは吸わない。他人のたばこの煙を可能な限り避ける。」「適度な飲酒。飲むなら、節度のある飲酒をする。」「食事は偏らずバランスよく」「日常生活を活動的に過ごす」「成人期での体重を適正な範囲に維持する（太り過ぎない、やせ過ぎない）」「肝炎ウイルス感染の有無を知り、感染している場合はその治療の措置をとる。」

このようにがん予防には適切な生活習慣が必要である。しかし長年かけて身についた不適切な生活習慣を改善することは容易ではない。生活習慣の改善には、個人の努力といったセルフケアが重要であるが、それとともに家族や友人のサポートといった支援的環境も重要な影響要因である。ダイエットと運動実践を例に上げその効果を検証した。人は専門家が勧める行動より、家族や友人等の身近な存在、つまり等身大の人が勧める行動のほうがより実践しやすいという傾向がある。また、人々の生活習慣には地域の生活や文化が密接に関連している。例えば歩いている人を見かけると車に乗せようと声をかける地域特性や、農作業の合間の菓子パンや缶コーヒー等のふるまいがあげられる。これらは個人の努力だけではその解決が困難であり、家族や地域住民の理解と協力が必要である。健康行動を行う人が増えること、そして家族や友人のサポートを得られやすい環境づくりが大切であり、そのためには健康教室等で学んだコツやチエをお互いに伝え合い、家族や地域住民がみんなで健康文化の醸成に取り組む必要があることを述べた。

鳴井 ひろみ

テーマ：よりよいがん医療を受けるために

2 人に 1 人は、人生のどこかの時期でがん罹患すると言われている。自分が、家族が「がん」と診断されたらどうするか。納得のいく医療、最大限の効果を上げるための医療を受けるためには、さまざまな患者の権利を主張するだけでは、自分のものにはならない。患者の権利を確保していくためには、自分にできることを実践していくことが必要となる。そのためには、がんについて捉えなおす、がんに対する心構えをつくることが大切である。それには、以下の 6 つのことが挙げられる。まず、一つ目は、病院でがんと言われてもあわてず自分の病気を知ること、そして、がんを命がけで退治するという心構えではなく、がんと上手に付き合っていくという心構えである。二つ目は、必要な情報を病院で集めることであり、特に診察室で医師の話を聞く時には、メモやテープレコーダーの活用、家族や友人と一緒に医師の話を聞くことである。三つ目は、患者とのやりとりを通して医療者は成長できるため、きちんとした質問を続けていくことがよき医療者を育てることにつながる。四つ目は、医師の話した内容を消化することである。五つ目は、自分は何を優先して、治療を選択していくのが治療のゴールを主治医と共有する。六つ目は、自分らしく生きぬくためには、医療者、患者が常に選択肢があるというポジティブな態度を持つことが大切であり、がんを生活の中心とせず、治らないからと絶望せず、常に治療の選択肢から自らのゴールを見つけることである。そして、医療者、患者ともに自分のゴール、希望を見いだせる力を持っていることを常に信じるのが大切である。以上のように、納得のできるよりよい医療を受けるためには、患者の声が医療を変えていくという認識を持ち、自分が今できることを実践し、がんをもちながら生活しやすい社会をみんなでつくっていくことが大切である。

理学療法学科

渡部 一郎

テーマ：大学生の生活習慣と健康 - 喫煙による血流障害・血圧上昇・免疫異常の検討 -

青森は男女とも平均寿命はわが国ワースト1位で、癌・心筋梗塞・脳卒中死亡率がそれぞれ1位となり、その原因として喫煙率・肥満率など食生活習慣の関与が報告されている。わが国の喫煙率は先進国中最も高く、また青森県の喫煙率は日本最上位で世界最悪の喫煙環境となり、最近では未成年者の喫煙・家庭や職場での間接喫煙も問題となっている。今回、青森県の大学生 278 人にて食生活習慣を調べたところ、メタボリックシンドローム腹囲基準（85cm, 90cm）は、朝食欠食、夜間間食、野菜摂取量、収縮期血圧の関連が示され、若年者といえども成人と同じ腹囲基準で、健康阻害因子が抽出され、肥満、特に内臓脂肪が高血圧の原因となる可能性が示された。

習慣性喫煙大学生 15 名において、1 本の喫煙前後の、血圧・手足皮膚温・血液検査などの実験による生理学的検討を喫煙時と非喫煙時と比較検討した。1 本喫煙はその直後から速やかに約 2 に及ぶ有意な手指の温度低下を示し、即効性の交感神経緊張をリアルタイムに示した。また 1 回喫煙による血圧・脈拍数の増加が示され、交感神経緊張による血管収縮が関与し高血圧の要因となるほか、1 回喫煙による NK 細胞活性の増加が示され、免疫学的なストレス反応が示され、その有害性が示された。さらに、喫煙者において、呼気一酸化炭素濃度は、1 日の喫煙本数、四肢温度低下、血圧、血中ヘモグロビン、ヘマトクリット高値、CD56NK 細胞数増加と有意の相関性を示し、喫煙本数が多いほど末梢循環障害、血圧上昇、血液濃縮、ストレス応答性免疫細胞異常に関係することが示され、若年からの食生活、特に喫煙が青森県において健康阻害因子になることが示された。喫煙の有害性の研究は発がん性・脳卒中・心筋梗塞や催奇形性など基礎医学・公衆衛生学的に進められており、喫煙が生命予後を著しく損ねることは周知されている。しかしなお禁煙が十分進まないのは、若者が遠い将来の死因や平均寿命を身近なものと感じていないことが原因の一つと考えられ

る。本県健康増進には、禁煙をはじめとする行動変容学的アプローチなど、県民が一体となり対策をとる必要性が示された。

栄養学科

岩井 邦久

テーマ：ピンピンコロリ、元気で長生きするための食と栄養

今の少子高齢社会で誰もが願うことは、元気で長生きすることである。その中で食べ物は栄養性、嗜好性、生体調節の 3 つの働きを持っている。これを良く理解することで、健康のために毎日の食事の大切さが分かるとともに、健康食品の使い方も上手になると考える。食物を食べるとは栄養素を摂ることであり、どのような栄養素をそれだけ食べるのが適当なのかが大事である。それらが理解できれば、近年増化している脂肪の摂取量、また以前から多いと言われている塩分摂取量が何故いけないのか、どうすれば改善できるかが分かってくる。このようなことを明らかにしていくのが栄養学の役割の一つでもある。

また、食物の生体調節作用をうまく利用したものが保健機能食品であり、特定保健用食品は国がその保健効果を認めたものとして、消費者からの信頼度が上昇している。しかし、これらはあくまで食べ物であり、薬ではないということを十分に理解する必要がある。これによって、健康食品の使い方も上手くなるのである。

このような観点から見ると、青森県は様々な食資源が存在する豊かな地域であり、食料自給率は 100%を超えている。その中でも、あまり知られてはいないが、身体に良いと言われている食資源も多数ある。我々は、これらの研究を更に進めることでこのような地域の食資源を活用した産業振興と県民の健康増進に寄与することを目指している。

井澤 弘美

テーマ：血液サラサラと健康

血液サラサラ検査とは、「MCFAN」という血液流

動性測定装置の中にある擬似毛細血管を血液が何秒で通過するかを測定する検査です。この検査の結果から、血液がサラサラである、またはドロドロであると評価することができます。この検査では自分の目で自分の血液の流れ具合を見ることができるので、非常に注目を浴びました。

血液サラサラは以下の3要素で決まります。赤血球の変形能、白血球の粘着能、血小板の凝集能です。赤血球は、自身が変形することで狭い血管を通過します。しかし、過剰な血糖や動物性脂肪の取り過ぎで赤血球膜が劣化・硬化してしまうと変形能が低下しサラサラと流れなくなってしまいます。白血球は、体内に入った異物を捕らえるために粘着能を持ちます。しかし、体内に炎症が起こったり、汚い空気を吸い続けたり、あるいはストレスが重なったりしたときに、白血球の粘着能が増強されてサラサラと流れなくなってしまいます。血小板は出血の際に血液を固めてくれます。しかし、過剰の糖分摂取などにより血管内で固まりやすくなってしまいサラサラと流れなくなってしまいます。これら3要因が原因で血液サラサラ・ドロドロがわかりませんが、3要因のなかでどれが原因でドロドロになっているかは断定できません。3要因すべてが複合的に影響しあってサラサラ・ドロドロが決定されます。よって血液をサラサラに変えるようなピンポイント的な対策は立てにくいです。加えて、ドロドロの人は本当に血管が詰まってしまうかどうかはまだわかっていないところがサラサラ検査の最大の弱点であり、研究者の間でも血液サラサラ検査の意義が議論されています。

しかしながら、最初に述べた血液サラサラを決める3要素はすべて生活習慣で決まります。生活習慣が悪い人ほど、自身の生活習慣を見直して修正することは非常に難しいです。そんなときに血液サラサラ検査を行って、自分の目で自分の血液の流れ具合を見れば、かなりの衝撃を受けてきっと生活習慣を見直すきっかけが持てるのではないかと思います。私はこの血液サラサラ検査が生活習慣を見直すきっかけづくりのための道具として有効であると考えています。

今 淳

テーマ：正しい食生活から美しい皮膚を、美しい皮膚から全身の健康を

皮膚は生体を被う単なる“皮(革)”ではない。体温調節、呼吸作用、触覚、痛覚、痒覚、温冷覚などの感覚、そして外界からの異物を破壊して生体内への侵入を阻止する免疫能を司っている。この免疫能は非常に重要な皮膚の機能であり、外界に無数に存在する細菌、ウイルス、真菌などの病原体や太陽光紫外線の侵入を阻止し、感染症や癌の発生から全身を真っ先に防御している。すなわち、正常な皮膚無くして全身の健康は維持できず、我々は生存することができない。いつまでも若々しい正常な皮膚を維持することこそ、全身の健康維持にとって重要なことなのである。しかしながら、他の臓器と同様、我々の皮膚には、加齢の過程で、現時点では避ける方法が全く無い生理的老化を生じてしまう。更に、長期間に渡る太陽光紫外線への暴露によって、顔面などの露出部には多数のシミ、彫りの深い皺、そして最終的には皮膚癌を生じて皮膚の機能が低下する光老化も加わり、皮膚の老化は益々進行して行く。以上の点を踏まえ、本講座では、最初に皮膚の老化の発症機序について概説した。特に演者らの最近の研究成果を中心に紹介した。次に、皮膚の老化の予防及び治療方法について概説した。サンスクリーンの外用による紫外線暴露の予防を行うことの重要性の他、正しい食事が若々しい皮膚を保持するため、即ち、皮膚のアンチエイジング(抗加齢)のためにいかに重要なことであるか、その具体的な方法を含めて紹介した。また、最近、科学的根拠に基づくことなく、しかも過大に皮膚のアンチエイジング効果を謳った健康食品が多数販売され、そのことに国民は翻弄されがちである。そのため本講座では、冷静な科学の目を研ぎ澄まして、本当の効能が期待できる健康食品を見抜くためのポイントについて紹介した。最後に、以上の内容を基にして、皮膚の健康から全身の健康を目指す新しい健康増進戦略を紹介した。

吉池 信男

テーマ：ちょっと“メタボ”になってきたら・・・
～気軽にできる食事と運動の工夫～

平成20年度から特定健康診査・特定保健指導が、全国で開始された。いわゆる“メタボ健診”である。これは、超高齢社会において、医療や介護の負担を少しでも軽減するために、予防に重点をおいた国政レベルの新たな取り組みである。その成功のためには、一人一人が自覚をもち、自己の健康管理に努め

ることがこれまで以上に求められる。メタボリックシンドロームの概念として重要なことは、内臓脂肪の蓄積が、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、さらには脳卒中や虚血性心疾患の“上流(みなもと)”になるということである。そこで、お腹まわりが気になりはじめ、健診で異常値が出てきたら、そのまま放置せず、食事や身体活動についてのちょっとした工夫を始めることが重要である。

細かいカロリー計算などしなくても、食事全体のバランスを意識しながらのカロリーカットと、運動や日常生活の中でのエネルギー消費を高めるスキルをまずは身につけよう。その際、無理な計画ではなく、“自分の意志で続けられる”ことが肝要である。まずは出来そうなことから考えてみる。例えば、「エクササイズガイド」の絵を見て、プラスとして出来そうな身体活動(生活活動、運動)を探し、自分の体重での、およその消費エネルギーを計算する。また、食事バランスガイドは“カロリーコントロール”のための中心的なツールには向かないが、食事の全体像を考えるにはとても有用である。日々の食事バランスが多少なりとも良くなったら、カット出来そうなエネルギー(菓子、嗜好飲料、アルコール、料理法等)を見つけ、とにかくやってみることだ。

管理栄養士など保健指導を行う専門職には、栄養素などの細かい数値を追いかけるのではなく、日常生活の中で出来ることを具体的に提案する技量が求められる。全国比べて肥満が多いと言われる青森県での取り組みが、今後の大きな課題である。

緩和ケアとは何か。緩和ケア病棟はどこにあるのか。どのような人が入るところか。

何をしてもらえるのか。費用はいくらかかるのか。がんの痛みは止められるのか。

がんでも家で過ごすためにはどうしたらいいか。患者さんと家族の方がわかるようにお話しします。

青森県立中央病院

院長 吉田 茂昭

テーマ：がん予防の視点

最近のがん研究の進歩により、根拠のあるがん予防法が次々と明らかになりつつあります。その一端を紹介するとともに、がん死亡率がきわめて高い青森県の問題点と課題について、具体例を見ながら一緒に考えてみたいと思います。

主任看護師 秋葉 聖子

テーマ：緩和ケアとは

海外研修記録

海外研修記録

看護学科

1) 内城 絵美

【目的】アメリカにおける小児生活習慣病の予防のためのケアシステム構築研究に生かすための予防活動の実際について学ぶ

【期間】2008年8月26日~9月7日

【研修場所】アメリカ(コネチカット州) Yale 大学、Primary Care Clinic、Obesity Clinic 他。

2) 大津 美香

【目的】Effect of Educational Intervention on Improve Clinical Outcomes in Japanese Outpatients with Chronic Heart Failure

【発表者】Haruka Otsu¹, Michiko Moriyama², Yuzo Mori³, and Shuko Uchiumi³

¹: 青森県立保健大学, ²: 広島大学大学院, ³: 盛ハートクリニック

【会議名】1st Psychogenic Cardiovascular Disease Conference

【期間】2008年9月3日~9月5日。

【国名、都市名】Prato, Italy

3) 佐藤 仁美

【目的】最先端のがん治療とそれを支える集学的治療の基本であるチーム医療を学ぶ

【研修プログラム】Japan Medical Exchange Program

【期間】2008年4月17日~5月26日

【研修場所】アメリカ、ヒューストン、M.D. Anderson Cancer Center

4) 山田 典子

1. 【目的】法看護学カリキュラム検討課題の抽出

【期間】2008年8月4日~2008年8月17日

【成果】ケニア国の Medical Management of Rape and Sexual Violence ガイドラインについて、保健省 Dr. Meme 氏より支援プログラムについて情報提供を受けた。

【出張先】ケニア国ナイロビ市

2. 【目的】国際学会発表

【期間】2008年10月18日~2008年10月23日

【成果】世界セーフコミュニティ学術大会にて2題発表

【出張先】ニュージーランド、クライストチャーチ市

5) 山本 加奈子

1. 【目的】研究のデータ収集

【期間】2008年8月7日~9月5日

【出張先】ラオス人民民主共和国 ルアンパバーン県農村

2. 【目的】研究のデータ収集

【期間】2009年3月11~27日

【出張先】ラオス人民民主共和国 ルアンパバーン県農村

社会福祉学科

1) 千葉 たか子

1. 【目的】地域連携・国際センター国際科のフィリピン・プロジェクトによる調査活動

【期間】平成20年08月03日から08日

【場所】フィリピン国ラプラブ市、マンダウェイ市、セブ市

2. 【目的】青森県立保健大学研究センター特別研究費による研究のための調査活動

【期間】平成20年09月01日から11日

【場所】インド国西ベンガル州農村

3. 【目的】研究のための調査活動

【期間】平成21年3月22日から4月1日まで

【場所】インド国西ベンガル州農村

1) 岩井 邦久

会議名: 24th International Conference on Polyphenol

演題: High-methoxylated apple pectin enhances the intestinal absorption of quercetin.

演者: Tomohiko Nishijima, Kunihisa Iwai, Yoshiki Takida, Yasuo Saito, Hajime Matsue

期間: 2008年7月5日~7月14日

開催地: Salamanca, Spain

2) 佐藤 伸

【会議名】 Ehrlich II – 2nd World Conference on Magic Bullets (<http://www.ehrlich-2008.org>) (招待)

【演題】 Protective effect of plant polyphenols-containing azuki bean (*Vigna angularis*) on renal damage.

【演者】 Shin Sato, Yuuka Mukai, Joji Yamate

【期間】 2008年10月3日~5日

【開催地】 ニューロンベルク市、ドイツ連邦共和国

業 績 集

看護学科

1) 千葉 敦子

b 総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

1. 細川満子¹⁾, 千葉敦子¹⁾, 山本春江¹⁾, 三津谷恵¹⁾, 山田典子¹⁾, 今敏子²⁾, 工藤久子²⁾, 玉懸多恵子³⁾, 鈴木久美子⁴⁾, 古川照美⁵⁾, 桐生晶子⁶⁾, 櫻田和子⁷⁾: 教員が考える在宅看護実習前に学生に見につけさせたい実習態度 - 青森県看護教育研究会地域看護学グループの取り組み -, 青森保健大学雑誌, Vol.9, No.2, p.159-166, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 双仁会厚生病院附属看護学院, 3: 八戸市立高等看護学院, 4: 五所川原市立高等看護学院, 5: 弘前大学大学院保健学研究科, 6: 国立病院機構弘前病院附属看護学校, 7: 青森中央短期大学

d 学会発表など

1. 坂下智恵¹⁾, 大山博史¹⁾, 千葉敦子¹⁾, 鈴木希久子²⁾, 大平均²⁾, 八嶋昭子²⁾, 小又陽子²⁾, 反町秀吉³⁾, 鳥谷部牧子³⁾, 渡邊直樹⁴⁾: 地域調査とうつ病スクリーニングの実施がもたらす自殺率への影響 - 青森県郡部における地域介入の2年間評価, 日本自殺予防学会総会 2008年4月18日, 盛岡市, 日本自殺予防学会総会プログラム・抄録集p.81, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 七戸町健康福祉課, 3: 上北地域県民局地域健康福祉部保健総室, 4: 青森県精神保健センター

2. 千葉敦子¹⁾, 山本春江¹⁾, 工藤奈織美²⁾, 浅田豊¹⁾, 竹森幸一³⁾: 健康教室参加者における家族や地域への学びの伝達状況に関する比較検討, 日本家族看護学会, 2008年9月13日, 藤沢市, 家族看護学研究Vol.14, No.2, p.109, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 自治医科大学, 3: 前青森県立保健大学

3. 千葉敦子¹⁾, 三浦雅史¹⁾, 山本春江¹⁾, 鎌田明美²⁾: 筋力向上トレーニング自主組織会参加者の健康関連QOLの状況, 日本公衆衛生学会, 2008年11月5日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol.55, No.10, p.537, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 青森県立保健大学大学院

4. 千葉恵津子¹⁾, 山本春江²⁾, 鎌田明美¹⁾, 千葉敦子²⁾, 李相潤²⁾: 職場の階段有無別における運動量の比較検討, 日本公衆衛生学会, 2008年11月5日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol.55, No.10, p.301, 2008.1: 青森県立保健大学大学院, 2: 青森県立保健大学

5. 鎌田明美¹⁾, 千葉恵津子¹⁾, 千葉敦子²⁾, 李相潤²⁾, 山本春江²⁾: 労働者の冬の運動量の増減と地域環境の特徴, 日本公衆衛生学会, 2008年11月5日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol.55, No.10, p.301, 2008.1: 青森県立保健大学大学院, 2: 青森県立保健大学

6. 山本春江¹⁾, 千葉恵津子²⁾, 鎌田明美²⁾, 千葉敦子¹⁾, 李相潤¹⁾: 労働者の運動習慣における「支援的環境」の意義 - 職場環境との関連から - 日本公衆衛生学会, 2008年11月5日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌Vol.55, No.10, p.301, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 青森県立保健大学大学院

7. 千葉恵津子¹⁾, 山本春江²⁾, 鎌田明美¹⁾, 千葉敦子²⁾, 李相潤²⁾: 積雪寒冷地における勤労男性の運動状況と季節及び職場環境との関連, 東北公衆衛生学会, 2008年7月25日, 青森市, 東北公衆衛生学会誌Vol.57, p.45, 2008.1: 青森県立保健大学大学院, 2: 青森県立保健大学

8. 千葉敦子¹⁾, 三浦雅史¹⁾, 山本春江¹⁾, 鎌田明美²⁾: 筋力向上トレーニング自主組織会参加者の健康関連QOLの状況, 青森県保健医療福祉研究発表会, 2009年2月13日, 青森市, 青森県保健医療福祉研究発表会抄録集, p.80, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 青森県立保健大学大学院

9. 山本春江¹⁾, 千葉恵津子²⁾, 鎌田明美²⁾, 千葉敦子¹⁾, 李相潤¹⁾: 労働者の運動習慣における「支援的環境」の意義 - 職場環境との関連から - 2009年2月13日, 青森市, 青森県保健医療福祉研究発表会抄録集, p.76, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 青森県立保健大学大学院

10. 三浦雅史¹⁾, 中屋敷茜²⁾, 千葉敦子¹⁾: 介護予防トレーニングの効果に関する検討 - 前期高齢者と後期高齢者の比較から - 2009年2月13日, 青森市, 青森県保健医療福祉研究発表会抄録集,

p.100, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 総合花巻病院リハビリテーション科

11. 山本春江¹⁾, 千葉敦子¹⁾, 鎌田明美²⁾: 積雪寒冷地における労働者の運動状況と地域および職場環境との関連, 2008年12月13日, 福岡市, 日本看護科学学会学術集会, p.726, 2008.1: 青森県立保健大学, 2: 青森県立保健大学大学院

2) 藤井 博英

1) (会議録) 模擬患者に学生家族導入がもたらす教育効果の実態: 2008年9月: 日本看護技術学会学術集会講演抄録集: 7回: p68

2) (会議録) 外来化学療法を受けている患者への背部温罨法による倦怠感緩和効果: 2008年9月: 日本看護技術学会学術集会講演抄録集: 7回: p39

3) (会議録) 掻痒感のある患者へのキュウリローション塗布効果の検証 皮膚表面pHと痒みの自覚症状: 2008年9月: 日本看護技術学会学術集会講演抄録集: 7回: p38

4) (会議録) 患者に伝わっているもの: 2008年9月: 日本看護技術学会学術集会講演抄録集: 7回: p2

5) (会議録) 精神科看護師の倫理的悩みに関するmoral distress 尺度の開発(第1報): 日本看護研究学会雑誌: 2008年7月: 31(3): p247

6) (会議録) 精神科訪問看護の現状と課題に関する調査研究: 2008年9月: 日本ヒューマンケア科学会誌: 1(2): p38

7) (会議録) 精神科訪問看護における総合失調症者の再発兆候: 2008年12月: 日本看護化学学会学術集会講演集: 28回: p432

8) (会議録) 精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発: 2008年12月: 日本看護化学学会学術集会講演集: 28回: p433

9) (会議録) 精神科訪問看護評価スケールの信頼性・妥当性の検討: 2008年12月: 日本看護化学学会学術集会講演集: 28回: p433

10) (会議録) 精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「新奇場面」の評価1 - a: 2008年12月: 日本看護化学学会学術集会講演集: 28回: p460

11) (会議録) 精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「アイス

ブレイク」の評価1 - b: 2008年12月: 日本看護化学学会学術集会講演集: 28回: p460

12) (会議録) 精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発: 2009年2月: 青森県保健医療福祉研究発表会抄録集: p90 - 91

13) (会議録) そう痒感患者へのキュウリローション塗布効果の検証 皮膚表面pH正常化と睡眠促進効果: 2009年2月: 青森県保健医療福祉研究発表会抄録集: p104 - 105

3) 深谷 智恵子

書籍(参考書)

深谷智恵子、呼吸・循環機能障害のある人に対する看護: 急性心筋梗塞を起こし、PCIを受けた患者「機能障害別看護ベーシックトレーニング」監修、林正健二、山内豊明、明石恵子、編集、深谷智恵子、明石恵子、前田ひとみ、南川貴子、富重佐智子、林正健二、58 - 65、2008年4月、メディカ出版、大阪

深谷智恵子: 看護の専門領域の構築とシームレスな看護(会長講演) 第5回日本循環器看護学会学術集会、2008年10月18日、青森県立保健大学、青森市、p24

学会名称: 第5回日本循環器看護学会学術集会、日時: 2008年10月18日(土) 19日(日)、会場: 青森県立保健大学講堂および教室

4) 福井 幸子

1. 誌上发表

b. 総説、論文、研究ノート、調査書、報告書など
福井幸子: 現場実践例: 訪問看護ステーションでの交差感染防止, 季刊 在宅ケアの感染対策と消毒, 6(3), 31, 2008.

福井幸子: 訪問看護での単包滅菌機材の利用, 季刊 在宅ケアの感染対策と消毒, 6(4), 44, 2008.

福井幸子¹⁾, 細川満子¹⁾, 泉美紀子²⁾: 「訪問看護サービス提供におけるスタンダードプリコーションの遵守状況と阻害因子の追求」報告書, 1-72頁, 文部科学省科研費萌芽研究(平成18~19年度)

¹⁾: 青森県立保健大学, ²⁾: 訪問看護ステーション

あおい森

C. 書籍、単行本、教科書・参考書

福井幸子¹:基礎看護技術 - ヘルスアセスメントの技術(担当部分:眼、呼吸器),岡崎美智子²・角濱春美¹監修,100 - 132,2008年8月,メヂカルフレンド社,東京.

¹:青森県立保健大学,²:京都橘大学看護学部看護学科

福井幸子¹:まとめてわかる看護学概論(担当部分:第1章 - 1看護専門職団体他),改訂2版,小山敦代²,池西静江編者,森美春²,Gsupple編集委員会編,16-23,2008年3月,メディカ出版,東京.

¹:青森県立保健大学,²:明治国際医療大学,³:京都中央看護保健専門学校

2. 一般発表

木村恵美子¹,福井幸子¹,山本加奈子¹:一部改変したPBLを用いての看護過程演習の授業,第28回日本看護科学学会,2008年12月13日,福岡国際会議場,福岡市,第28回日本看護科学学会学術集会講演集,348,2008.

¹:青森県立保健大学

田中広美¹,佐藤真由美²,福井幸子²,市川美奈子²,山本加奈子²,藤本真記子²,木村恵美子²,角濱春美²,大串靖子¹:臨地実習の安全性 - 基礎看護学実習におけるインシデント・アクシデントの分析から -,第28回日本看護科学学会,2008年12月13日,福岡国際会議場,福岡市,第28回日本看護科学学会学術集会講演集,467,2008.

¹:元青森県立保健大学 ²:青森県立保健大学

5) 伊藤 治幸

論文

木村緑,伊藤治幸:地域で生活する精神障害者の主観的健康観の実態.第39回日本看護学会学術論文集(精神看護)p143~145,2008

一般発表

1)藤井博英,成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸:精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の

開発.2008年度青森県保健医療福祉研究会抄録集,90,2009年2月,青森市

2)清水健史,伊藤治幸,藤井博英:精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「新奇場面」の評価1-a,第28回日本看護科学学会学術集会講演集,460,2008年12月,福岡市

3)清水健史,伊藤治幸,藤井博英:精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「アイスブレイク」の評価1-b,第28回日本看護科学学会学術集会講演集,460,2008年12月,福岡市

4)藤井博英,成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸:精神科訪問看護測定尺度の開発.第28回日本看護科学学会学術集会講演集,433,2008年12月,福岡市

5)成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸,藤井博英:精神科訪問看護評価スケールの信頼性・妥当性の検討.第28回日本看護科学学会学術集会講演集,433,2008年12月,福岡市

6)清水健史,藤井博英,角濱春美,成田博幸,伊藤治幸:精神科訪問看護の現状と課題に関する調査研究.日本ヒューマンケア科学学会誌1(2)38,2008年9月,青森市

7)清水健史,藤井博英:精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義の効果(2)-「ジョハリの窓」に学ぶ対人関係をテーマにして-.第39回日本看護学会抄録集看護教育,2008年8月,岐阜市,109

8)清水健史,伊藤治幸,藤井博英:「対象理解シート」は視聴覚教材を用いた授業にどのような効果をもたらすか.第39回日本看護学会抄録集看護教育,110,2008年8月,岐阜市

9)そう痒感のある患者へのキュウリローション塗布効果の検証 - 皮膚表面 pH と痒みの自覚症状 -,日本看護技術学会第7回学術集会抄録集,38,2008年9月

10)井上亮,梅田孝,澄川幸志,伊藤治幸,岩間孝暢,高橋一平,中路重之:柔道選手における身体組成の特性について.日本衛生学雑誌,第64巻2号,2009年3月

11)統合失調症をもつ精神障がい者の小規模作業所における地域交流活動への参加実態と影響要因.日本ヒューマンケア科学学会誌1(2)37,2008

年9月、青森市

報告書

1) 伊藤治幸、熊谷貴子、清水健史、木村緑、藤井博英：地域で生活する精神障がい者の栄養摂取量の実態とその関連要因、平成20年度青森県立保健大学健康科学特別研究報告書、2009年3月

6) 本間 ともみ

d. 学会発表

1) 鳴井ひろみ¹、本間ともみ¹、沼田享子²、平典子³：外来がん化学療法を受ける患者の日常生活上のニード、第23回日本がん看護学会学術集会、2009年2月7-8日、沖縄コンベンションセンター、那覇、第23回日本がん看護学会学術集会講演集、154、2009年

¹：青森県立保健大学、²：東京医療保健大学、³：北海道医療大学

2) 沼田享子²、鳴井ひろみ¹、本間ともみ¹、平典子³：外来がん化学療法を受ける患者の家族の日常生活上のニード、第23回日本がん看護学会学術集会、2009年2月7-8日、沖縄コンベンションセンター、那覇、第23回日本がん看護学会学術集会講演集、152、2009年

¹：青森県立保健大学、²：東京医療保健大学、³：北海道医療大学

7) 細川 満子

1. 学術論文

・細川満子、石鍋圭子：回復期病院看護職の在宅支援の推進に向けた家族ケアに対する認識・行動の変化 アクション・リサーチによる介入を通して、家族看護学研究、14(1) 2-9、2008.

・細川満子、石鍋圭子：計画的な退院の促進に向けた大学教員による病院支援の評価 - 療養型病床における看護・介護職の認識・行動の変化から -、リハビリテーション連携科学、9(2) 91-98、2008.

・細川満子、千葉敦子、山本春江、三津谷恵、山田典子、今 敏子、工藤久子、玉懸多恵子、鈴木久美子、古川照美、桐生晶子、櫻田和子：教員が考える在宅看護実習前に学生が身につけるべき実習態度 青森県看護教育研究会地域看護学グループの取り組み、青森県立保健大学雑誌、9(2) 159-166、2008.

・千葉敦子、細川満子、山本春江、富田恵、山田典子、今 敏子、工藤久子、玉懸多恵子、鈴木久美子、古川照美、桐生晶子、加藤亜衣子：在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度(第3報) - 訪問看護ステーション実習指導者に対するアンケート調査 -、青森県看護教育研究会、37、1-8、2009.

2. 報告書

・石鍋圭子、山本春江、細川満子、藤田あけみ、富田恵他：下北地域における包括ケアを推進する5つの研究、平成19~20年健康科学特別研究 官学連携(下北支援研究)報告書、2009.

・細川満子、井澤美樹子、富田恵、泉美紀子：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの標準化に関する研究 クリティカルパス開発に向けたケアの実態と課題、平成19~20年健康科学特別研究、平成19~20年度 青森県立保健大学健康科学特別研究報告書、2009.

・井澤美樹子、細川満子、村岡宏子、伊坂裕子：養生法を継続するための認知の変容に注目したセルフ・チェック方法の確立、平成19~20年度 青森県立保健大学健康科学特別研究報告書、2009.

2. 学会発表など

・細川満子、井澤美樹子、三津谷恵：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題(第1報) - 運動(活動)・食事のケアを中心に -、第13回 日本糖尿病教育・看護学会(金沢市)抄録集、304、2008年9月6-7日.

・三津谷恵、細川満子、井澤美樹子：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題(第2報) - 薬物療法・自己血糖測定と合併症のリスク管理を中心に -、第13回 日本糖尿病教育・看護学会(金沢市)抄録集、305、2008年9月6-7日.

・富田恵、細川満子、：訪問看護師の糖尿病ケアに対する現状と課題、日本在宅ケア学会学術集会(堺市)、講演集、141、2009年3月14-15日.

・細川満子、三津谷恵、井澤美樹子：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会(青森市)抄録集、72-73、2009年2月13日.

・Mitsuko Hosokawa, Keiko Ishinabe : Evaluation of the effect of Action Research

based SSM to improve the nursing service, model in small rural hospital, The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars(Tokyo), Program and Abstracts, 119, March13-14, 2009.

8) 角濱 春美

著書など

・山本勝則,藤井博英編:根拠がわかる精神看護技術,メヂカルフレンド社,2008.6.(第 章看護過程に共通する技術 1.精神看護学における看護過程,2.アセスメント,pp18-33,分担執筆)

・岡崎美智子,角濱春美編:根拠がわかる基礎看護技術,メヂカルフレンド社,2008.8.(編集、及び、第 章ヘルスアセスメントの技術,2.一般状態・各周囲径の測定,pp56-64,8.腹部,pp148-160,10.神経系,pp184-198,11.乳房・腋窩・生殖器・肛門,pp199-208,分担執筆)

・香春知永・齋藤やよい編:看護学テキスト NICE 基礎看護技術 - 看護過程のなかで技術を理解する,南江堂,2009.2.(5.睡眠,pp310-321,分担執筆)

学会発表など

・角濱春美:臨床実践を研究として伝えるためには,日本看護技術学会第7回学術集会キーセッションコーディネーター兼発表者,2008年9月.

・角濱春美:基本から学ぶフィジカルアセスメント:心血管系,第5回日本循環器看護学会学術集会教育セミナー2講師,2008年10月.

・本間恵理香,扇谷弥生,田中裕子,對馬郁子,藤原洋子,菊池朝子,田村泰子,副田幸子,角濱春美:仙骨・腸骨部褥瘡保有者における足浴の創治癒促進効果,第39回日本看護学会,2008年9月.

・高谷恵美子,安村和弘,秋田美紀子,杉山仁美,西村司,角濱春美:酢水による経鼻胃チューブの静菌作用,第39回日本看護学会,2008年9月.

・角濱春美:低 ADL 高齢者の睡眠覚醒パターンの分類,日本看護技術学会第7回学術集会,平成20年9月.

・坪井ふみ子,田子内紀子,柏葉英美,伊藤治幸,角濱春美,藤井博英:そう痒感のある患者へのキュウリローション塗布効果の検証 - 皮膚表面 pH と痒みの自覚症状 -, 日本看護技術学会第7回学術集会,平成20年9月.

・清水健史,藤井博英,角濱春美,成田博幸,伊藤治

幸:精神化訪問看護の現状と課題に関する研究,日本ヒューマンケア科学学会第1回学術集会,2008年9月.

・藤井博英,成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸:精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発,第28回日本看護科学学会,2008年12月.

・成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸,藤井博英:精神科訪問看護評価スケールの信頼性・妥当性の検証,第28回日本看護科学学会,2008年12月.

・田中宏美,佐藤真由美,福井幸子,市川美奈子,山本加奈子,藤本真記子,木村恵美子,角濱春美,大串靖子:臨地実習の安全性 - 基礎看護学実習におけるインシデント・アクシデントの分析から -, 第28回日本看護科学学会,2008年12月.

・藤井博英,成田博幸,角濱春美,清水健史,伊藤治幸:精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発,2008年度青森県保健医療福祉研究発表会,2009年2月.

・藤井博英,貴田岡博史,坪井ふみ子,畠山なお子,昆野順一,柏葉英美,田子内紀子,角濱春美,伊藤治幸:そう痒感のある患者へのキュウリローション塗布効果の検証 - 皮膚表面 pH 正常化と睡眠促進効果 -, 2008年度青森県保健医療福祉研究発表会,2009年2月.

その他

・角濱春美:最新研究レビューの要点,認知症高齢者に光を当てると夜よく眠れるか?,Nursing Today,23(8),p55,平成20年7月.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,視診の基本とチアノーゼ,Smart Nurse,10(4),p405 - 408,2008.4.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,褥瘡(皮膚の異常),Smart Nurse,10(5),p525 - 528,2008.5.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,浮腫(皮膚の触診),Smart Nurse,10(6),p653 - 656,2008.6.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,意識レベルの確認,Smart Nurse,10(7),p781 - 784,2008.7.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,瞳孔の見かた,Smart Nurse,10(8),p901 - 904,2008.8.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメン

ト,胸郭の視診・触診,Smart Nurse,10(9),p1027 - 1030,2008.9.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,呼吸運動の視診・触診,Smart Nurse,10(10),p1157 - 1160,2008.10.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,パルスオキシメータの見かた,Smart Nurse,10(11),p1285 - 1288,2008.11.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,腸音の聴診,Smart Nurse,10(12),p1409 - 1412,2008.12.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,運動麻痺,Smart Nurse,11(1),p55 - 58,2009.1.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,末梢循環不全,Smart Nurse,11(2),p181 - 184,2009.2.

・角濱春美:臨床でであうフィジカルアセスメント,脱水のアセスメント(皮膚つまみテスト・水分出納),Smart Nurse,11(3),p299 - 302,2009.3.

9)木村 恵美子

1. 誌上発表

・木村恵美子:第9章看護過程-ケーススタディ,まとめてわかる看護学概論, Gsupple 編集委員会編,168-173,2008年3月,メディカ出版,東京.

・木村恵美子:第3章-6 治療・検査,基礎看護技術,191-212,香春知永,斉藤やよい編集,2009年1月,南江堂,東京.

・木村恵美子:ヘルスアセスメントの技術;バイタルサインズ,心血管系,根拠がわかる基礎看護技術,36-55,133-147,岡崎美智子,角濱春美編集,2008年7月,メヂカルフレンド社,東京.

・木村恵美子¹:リンパ浮腫ケア研修会に関する課題-3年間にわたる開催の実践から.日本赤十字看護学会誌,8(1),110-116,2008.

¹:青森県立保健大学

・木村恵美子¹:下肢拳上の高さとしリンパドレナージの排液効果の検証.日本がん看護学会誌,22(2),52-58,2008.

¹:青森県立保健大学

・木村恵美子:リンパ浮腫の症状アセスメントとケアの進め方,看護技術,54(10),16-20,2008.

・木村恵美子:リンパ浮腫ケア-がん患者のリンパ浮

腫の理解と看護の役割,がん看護13(7),707-711,2008.

2. 一般発表など

・木村恵美子¹,福井幸子¹,山本加奈子¹:一部改変したPBLを用いての看護過程演習の授業,第28回日本看護科学学会,2008年12月13日-14日,福岡国際会議場,福岡市,第28回日本看護科学学会学術集会講演集P3-1-348,2008.

¹:青森県立保健大学

・木村恵美子¹:臨床で役立つリンパ浮腫ケア研修会の内容とは-6ヵ月後のアンケートから,第23回日本がん看護学会,2009年2月7日-8日,沖縄コンベンションセンター,沖縄市,第23回日本がん看護学会学術集会講演集315,2008.

¹:青森県立保健大学

10)三津谷 恵

1. 学術論文

・細川満子,千葉敦子,山本春江,三津谷恵,山田典子他:教員が考える在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度-青森県看護教育研究会地域看護学グループの取組み-,青森保健大学雑誌,9(2),159-166,2008.

・千葉敦子,細川満子,山本春江,富田恵,山田典子,今敏子,工藤久子,玉懸多恵子,鈴木久美子,古川照美,桐生晶子,加藤亜衣子:在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度(第3報)-訪問看護ステーション実習指導者に対するアンケート調査-,青森県看護教育研究会誌,37,1-8,2009.

2. 一般発表,講演など

・細川満子,井澤美樹子,三津谷恵:訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題(第1報)-運動(活動)・食事のケアを中心に-,第13回日本糖尿病教育・看護学会,2008年9月7日,金沢市,第13回日本糖尿病教育・看護学会抄録集304,2008.

・三津谷恵,細川満子,井澤美樹子:訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題(第2報)-薬物療法・自己血糖測定と合併症のリスク管理を中心に-,第13回日本糖尿病教育・看護学会,2008年9月7日,金沢市,第13回日本糖尿病教育・看護学会抄録集305,2008.

・山田典子,三津谷恵,奈良岡恵子,川内規会,山田真司,リボウィッツよし子他;セーフティプロ

モーション（SP）活動による住民参加のきっかけと意識形成過程，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集54，2008。

・奈良岡恵子，山田典子，三津谷恵，川内規会，山田真司，リボウィッツよし子他：SP活動における目的意識形成過程～黎明期の組織活動における参加者が認識した役割～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集55，2008。

・川内規会，山田典子，奈良岡恵子，三津谷恵，山田真司，リボウィッツよし子他：SP/SC活動に取り組んだ関係者の目的意識形成過程～“やりがい”と行動変容～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集56，2008。

・三津谷恵，山田典子，川内規会，奈良岡恵子，山田真司，リボウィッツよし子他：SC活動に取り組み始めた住民が抱いた思い～黎明期に認識された課題～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集57，2008。

・豊田佳緒里，山田典子，三津谷恵，川内規会，奈良岡恵子，山田真司，リボウィッツよし子他：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～地域における“つながり”とは～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集60，2008。

・山田真司，山田典子，三津谷恵，川内規会，奈良岡恵子，リボウィッツよし子他：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～交通の安全を脅かす要因～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集58，2008。

・リボウィッツよし子，山田典子，山田真司，川内規会，三津谷恵，奈良岡恵子他：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～自治会住民の自然災害への備え～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，2008年10月18日，東京都，第2回

日本セーフティプロモーション学会学術大会抄録集59，2008。

・三津谷恵，石鍋圭子：A町住民の健康努力と介護必要時の生活の場の選択の構造，第67回日本公衆衛生学会，2008年11月7日，福岡市，第67回日本公衆衛生学会総会抄録集363，2008。

・細川満子，三津谷恵，井澤美樹子：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの現状と課題，2008年度青森県保健医療福祉研究発表会 2009年2月13日，青森市，2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集，72-73，2009。

・富田恵，細川満子：訪問看護師の糖尿病ケアに対する現状と課題，第13回日本在宅ケア学会学術集会，2009年3月15日，堺市，日本在宅ケア学会学術集会講演集141，2009。

3. 報告書

・石鍋圭子，山本春江，細川満子，藤田あけみ，富田恵他：下北地域における包括ケアを推進する5つの研究，平成19～20年健康科学特別研究 官学連携（下北支援研究）報告書，2009。

・細川満子，井澤美樹子，富田恵，泉美紀子：訪問看護ステーションにおける糖尿病ケアの標準化に関する研究-クリティカルパス開発に向けたケアの実態と課題-，平成19～20年健康科学特別研究，平成19～20年度青森県立保健大学健康科学特別研究報告書，2009。

11) 三浦 博美

b. 総説，論説，研究ノート，調査書，報告書など

1) 三浦博美：CASE STUDY05 自然気胸を発症し、胸腔ドレナージを受ける患者。ペーパーペイシエントから学ぶ機能障害別ベーシックトレーニング，林正健二他監修。第1版第1刷，37-42，2008年4月，メディカ出版，大阪。

2) 三浦博美：第 章検査と診察に伴う援助技術 6 救命救急処置技術。根拠がわかる基礎看護技術，16(11)，505-522，2008年8月，メヂカルフレンド社，東京。

12) 内城 絵美

【研究報告】

1) 梅田弘子¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³：入院している子どもを

もつ家族機能の特徴 家族機能とソーシャルサポートに焦点をあてて、日本ヒューマンケア科学会誌、No.1 Vol.2、41-48、2009

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

2) 杉本晃子、中村由美子¹、梅田弘子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: A県の障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴、日本ヒューマンケア科学会誌、No.1 Vol.2、49-56、2009

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

【報告書】

1) 中村由美子¹、梅田弘子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: 青森県の病気のある子どもをもつ家族の家族機能の特徴、健康科学特別研究費補助金研究報告書、2008

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

【学会発表】

1) 内城絵美¹、中村由美子¹、扇野綾子²: 青森県における小学生をもつ家族の子育ての実態 第1報 家族が子どもとふれあう時間と食卓の環境について、第55回日本小児保健学会、2008年9月25日-27日、札幌コンベンションセンター、札幌市、第55回日本小児保健学会講演集、117、2008

¹: 青森県立保健大学、²: 弘前大学大学院 保健学研究科

2) 扇野綾子²、中村由美子¹、内城絵美¹: 青森県における小学生をもつ家族の子育ての実態 第2報 子育ての悩みや不安について、第55回日本小児保健学会、2008年9月25日-27日、札幌コンベンションセンター、札幌市、第55回日本小児保健学会講演集、118、2008

¹: 青森県立保健大学、²: 弘前大学大学院 保健学研究科

3) 梅田弘子¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: 入院している子どもをもつ家族の家族機能の特徴、第28回日本看護科学学会学術集会、2008年12月13日-14日、福岡国際会議場、福岡市、第28回日本看護科学学会学術集会講演集、340、2008

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³:

青森大学

4) 杉本晃子¹、中村由美子¹、梅田弘子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: 障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴、第28回日本看護科学学会学術集会、2008年12月13日-14日、福岡国際会議場、福岡市、第28回日本看護科学学会学術集会講演集、341、2008

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

5) 内城絵美¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、梅田弘子¹、田口良子²、赤羽衣里子³: 「小児のフィジカルアセスメント」実践DVDの開発、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009年2月13日、青森県立保健大学、青森市、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、38-39、2009

¹: 青森県立保健大学、²: 神奈川県立子ども医療センター、³: 元青森県立保健大学

6) 杉本晃子¹、中村由美子¹、梅田弘子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: 障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009年2月13日、青森県立保健大学、青森市、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、84-85、2009

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

7) 梅田弘子¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³: 入院している子どもをもつ家族の家族機能の特徴とソーシャルサポートに関する研究、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009年2月13日、青森県立保健大学、青森市、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、98-99、2009

¹: 青森県立保健大学、²: 長野県立こども病院、³: 青森大学

13) 鳴井 ひろみ

学会発表

・鳴井ひろみ、本間ともみ、沼田享子、平典子: 外来がん化学療法を受ける患者の日常生活上のニード、第23回日本がん看護学会学術集会、2008年2月7日

・沼田享子、鳴井ひろみ、本間ともみ、平典子: 外来がん化学療法を受ける患者の家族の日常生活上のニード、第23回日本がん看護学会学術集会、2008年

2月7日

14) 根布谷 綾乃

学会発表

・大関信子、ノールズ・アラン、佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃：乳幼児を持つ母親の役割葛藤：影響要因と一般健康度との関連。第28回日本看護科学学会学術集会、福岡市、抄録集 p479. 2008年12月14日

・佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃、大関信子、大井けい子、行方かおり：産後の母親のメンタルヘルスと関連要因の検討 A県における都市部と郡部との比較。第23回日本助産学会学術集会、東京都、日本助産学誌、Vol.22, No.3, p443. 平成21年3月21日。

報告書

・大関信子、山本真樹子、根布谷綾乃、佐藤愛、大井けい子他：地域貢献 青森県の出生率減少の要因分析と対応策の検討。平成19-20年度青森県立保健大学健康科学部特別研究費補助金 (A4判88ページ)。平成21年3月。

15) 大井 けい子

学会発表など

・大平肇子、浦野茂、藤田徹、澁谷泰秀、村本淳子、永見桂子、崎山貴代、大井けい子、前原澄子、新道幸恵：助産師による保健指導場面におけるエスノメソロジー的相互行為分析 - 手法としての Fishing の意義と効果 -、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・浦野茂、藤田徹、澁谷泰秀、大平肇子、村本淳子、永見桂子、崎山貴代、大井けい子、前原澄子、新道幸恵：分娩場面における産婦のパニックへの助産師の対処方法について - エスノメソロジーの視点から -、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・藤田徹、浦野茂、澁谷泰秀、大平肇子、村本淳子、永見桂子、崎山貴代、大井けい子、前原澄子、新道幸恵：分娩進行時における助産師と産婦の情報共有の効果と方法に関するエスノメソロジー分析、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・森恵美、村本淳子、新道幸恵、大井けい子、石井邦子、岩間薫：学士課程における助産師教育に関する調査(第1報) - 統合カリキュラムによる大学卒の

助産師に期待する能力、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・大井けい子、新道幸恵、森恵美、石井邦子、村本淳子、岩間薫：学士課程における助産師教育に関する調査(第2報) - 実習教育の特徴と課題 -、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・石井邦子、村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、岩間薫：学士課程における助産師教育に関する調査(第3報) - 卒業時の到達度および到達度評価 -、第49回日本母性衛生学会、浦安市、2009.11.7

・佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃、大関信子、大井けい子、行方かおり：産後の母親のメンタルヘルスと関連要因の検討 - A 県における都市部と郡部との比較 -、第23回日本助産学会、東京、2009.3.21

報告書

・新道幸恵、村本淳子、大井けい子、森恵美、石井邦子、遠藤俊子、渡部尚子、鈴木幸子、成田伸、齊藤益子、吉沢豊予子、山本あい子：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討。平成18~20年度科学研究費〔基盤研究(B)〕2009.3

講演など

・大井けい子：助産師職能研修会「助産師の将来とこれから」2008年7月9日、社団法人青森県看護協会、青森市

16) 大津 美香

a 学術論文(原著)

・大津美香¹、森山美知子²：慢性心不全患者の疾病の自己管理の実態と臨床指標との関連。広島大学保健学ジャーナル、7巻2号、66-76、2008。

¹：青森県立保健大学、²：広島大学大学院

b 総説、論説、研究ノート、調査書、報告書など

・大津美香¹、森山美知子²、盛勇造³、内海修子³：慢性心不全の疾病管理プログラムの作成とプログラム介入の有効性に関する研究。平成19-20年度健康科学特別研究 研究成果報告書(課題番号 基盤12B)、1-56、2008。

c 書籍、単行本、教科書・参考書及びそれを編集・監修・翻訳など

・大津美香：回復・慢性期の心不全患者の突然死の可能性：モニタリングと看護介入，看護技術10月臨時増刊号 第54巻12号、93-96、2008。

・大津美香：回復・慢性期の心不全患者のQOL:

何を評価するのか, 評価尺度と限界, 今後の展望, 看護技術 10月臨時増刊号 第54巻12号, 117-123, 2008.

・ 大津美香: 看護・介護・福祉の百科事典. 7章老年看護 7.3.2 転倒, 骨折, p.254; 7.5.7 環境づくり p.277, 朝倉書店, 2008.

d 国内外で開催された学会発表(口頭発表)

・ 大津美香¹、森山美知子²、盛勇造³、内海修子³: 慢性心不全疾病管理プログラム実施後6ヵ月における効果について. 第3回日本ヘルスサポート学会学術集会, 2008年7月12日, ル・クホール, 東京, 日本ヘルスサポート学会第3回学術集会・総会予稿集32, 2008.

¹: 青森県立保健大学, ²: 広島大学大学院³: 盛ハートクリニック

・ Haruka OTSU¹, Michiko MORIYAMA², Yuzo MORI³, and Shuko UCHIUMI³: Effect of Educational Intervention on Improve Clinical Outcomes in Japanese Outpatients with Chronic Heart Failure. Psychogenic Cardiovascular Disease Conference, 2008年9月3日~9月5日, Prato, Italy, Program and Abstract 21, 2008.

¹: 青森県立保健大学, ²: 広島大学大学院³: 盛ハートクリニック

・ 大津美香¹、森山美知子²: 慢性心不全疾病管理プログラム実施後9ヵ月における効果について. 第5回日本循環器看護学会学術集会, 2008年10月18日, 青森県立保健大学, 青森, 第5回日本循環器看護学会学術集会プログラム・抄録集64, 2008.

¹: 青森県立保健大学, ²: 広島大学大学院

・ 大津美香¹、森山美知子²、盛勇造³、内海修子³: 慢性心不全疾病管理プログラム実施後12ヵ月における効果について. 第73回日本循環器学会総会・学術集会, 平成21年3月20日, 大阪国際会議場, 大阪, コメディカルセッションプログラム抄録集72, 2009.

e 学会、研究室、地方会などを主催したときのその名称と日時、開催場所

・ 第10回青森高齢者ケア研究会 主催, 2008年11月15日, 青森県立保健大学

・ 第11回青森高齢者ケア研究会 主催, 2009年3月7日, 青森県立保健大学

17) 大関 信子

学会発表

Nobuko OZEKI, Japanese birth customs and rituals in New York and Beijing Transcultural Nursing Society 34 Annual Conference, Minneapolis, USA Books of Abstract p10. Sept 24 2008.

大関信子、ノールズ・アラン: 乳幼児を持つ海外在住日本人母親の精神健康度調査: 海外3市のメタ分析第.67回日本公衆衛生学会学術集会、福岡市、抄録集p651 平成20年11月5日

大関信子、ノールズ・アラン、佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃: 乳幼児を持つ母親の役割葛藤: 影響要因と一般健康度との関連. 第28回日本看護科学学会学術集会、福岡市、抄録集 p479. 2008年12月14日

佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃、大関信子、大井けい子、行方かおり. 産後の母親のメンタルヘルスと関連要因の検討 A県における都市部と郡部との比較. 第23回日本助産学会学術集会、東京都、日本助産学誌、Vol.22, No.3, p443. 平成21年3月21日.

報告書

大関信子、山本真樹子、根布谷綾乃、佐藤愛、大井けい子他. 地域貢青森県の出生率減少の要因分析と対応策の検討献. 平成19-20年度青森県立保健大学健康科学部特別研究費補助金 (A4判88ページ). 平成21年3月。

18) 坂本 祐子

b 総説, 論説, 研究ノート, 調査書, 報告書等 報告書

1. 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金報告書: 高齢者の胃ろう閉鎖, 膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業(中島紀恵子)(膀胱留置カテーテル班)

総説

1. 穴澤貞夫ほか編、坂本祐子: 排泄リハビリテーション理論と臨床 排泄自立支援. 中山書店, 東京,

2009年2月

c. 学会報告

1. 坂本祐子：高齢者の胃ろう閉鎖，膀胱留置カテーテル抜去を安全かつ効果的に実施するためのアセスメント・ケアプログラムの開発に関する調査研究事業（膀胱留置カテーテル班 事業報告）. 2008年10月，金沢市，日本老年看護学会第4学術集会

1. 青森高齢者ケア研究会 企画開催
2. 青森高齢者ケア研究会 企画開催

19) 佐藤 愛

報告書など

・大関信子、齋藤道明、東山恵子、長澤一磨、宮川隆美、水沼英樹、澁谷泰秀、大井けい子、佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃：青森県の出生率減少の要因分析と対応策の検討、平成19～20年度青森県立保健大学特別研究成果報告書、2009年3月。

学会発表

・大関信子、ノールズ・アラン、佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃：乳幼児を持つ母親の役割葛藤：影響要因と一般健康度との関連、第67回日本公衆衛生学会学術集会抄録集p479、2008年12月。
・佐藤愛、山本真樹子、根布谷綾乃、大井けい子、行方かおり：産後の母親のメンタルヘルスと関連要因の検討 - A 県における都市部と郡部との比較 -、第23回日本助産学会学術集会集録集p443、2009年3月。

20) 佐藤 仁美

【一般発表】

佐藤仁美：チーム医療への課題～M. D. Anderson Cancer Centerのチーム医療を通じて～

第1回ヒューマンケア科学学会学術集会、2008年9月27日

青森県立保健大学、青森

高島淳生、杉山直子、橋本浩伸、大里洋一、北山さゆり、佐藤仁美：日本のチーム医療を考える
第46回日本癌治療学会総会、2008年10月30日 - 11月1日

名古屋国際会議場、名古屋

橋本浩伸、大里洋一、高島淳生、杉山直子、北山

さゆり、佐藤仁美、Hillary A. Prescott、Jeffrey Bryan、上野直人：チーム医療における薬剤師の役割を考える

第18回日本医療薬学会年会、2008年9月20日 21日

札幌コンベンションセンター、札幌

佐藤仁美、北山さゆり：がん治療におけるチーム医療への課題

第23回日本がん看護学会学術集会、2009年2月7日 - 8日、

沖縄コンベンションセンター、沖縄

北山さゆり、佐藤仁美：相談業務における相談員の役割と今後の課題

第23回日本がん看護学会学術集会、2009年2月7日 - 8日、

沖縄コンベンションセンター、沖縄

【研修会 講師】

第5回みんなで学ぼうチームオンコロジー
主催：財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所
日時：2008年7月26日～27日

開催場所：名古屋ルーセントタワー

対象者：医師・看護師・薬剤師

The 2nd Team Oncology Workshop for Doctors, Nurses, Pharmacists
Governed by The University of Texas M. D. Anderson Cancer Center

Place: NTT Hokkaido Seminar Center .Sapporo

第6回みんなで学ぼうチームオンコロジー
主催：財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所
日時：2009年2月13日～14日

開催場所：TKP大阪本町ビジネスセンター

対象者：医師・看護師・薬剤師

21) 佐藤 真由美

c 教科書（共著分担）

岡崎美智子¹，角濱春美²編，木村恵美子²，佐藤真由美²，福井幸子²，藤本真記子²，梶谷佳子¹，仲前美由紀¹，片山由加里¹，道重文子¹，中橋苗代¹，三浦博美²著，担当部分：第 3 章 皮膚・爪・頭頸部，4. 耳・鼻，65-99，メジカルフレンド社，2008年8月。

¹：京都橘大学看護学部，²：青森県立保健大学

d . 学会発表

田中広美¹，佐藤真由美²，福井幸子²，市川美奈子²

，山本加奈子²，藤本真記子²，木村恵美子²，角濱春美²，大串靖子¹：臨地実習の安全性 - 基礎看護学実習におけるインシデント・アクシデントの分析から - 2008年12月13日 - 14日 福岡国際会議場，福岡 第28回日本看護科学学会学術集会講演集 467 .

¹：元青森県立保健大学，²：青森県立保健大学

2.2) 清水 健史

一般発表

- 1) 清水健史，藤井博英：精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義の効果(2) - 「ジョハリの窓」に学ぶ対人関係をテーマにして - 第39回日本看護学会抄録集看護教育、2008年8月、岐阜市、109
- 2) 清水健史，伊藤治幸，藤井博英：「対象理解シート」は視聴覚教材を用いた授業にどのような効果をもたらすか。第39回日本看護学会抄録集看護教育、110、2008年8月、岐阜市
- 3) 清水健史，藤井博英，角濱春美，成田博幸¹，伊藤治幸：精神科訪問看護の現状と課題に関する調査研究。日本ヒューマンケア科学会誌1(2)、38、2008年9月、青森市、1 青森県立つくしが丘病院
- 4) 藤井博英，成田博幸¹，角濱春美，清水健史，伊藤治幸：精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発 第28回日本看護科学学会学術集会講演集、433、2008年12月、福岡市、1 青森県立つくしが丘病院
- 5) 成田博幸¹，角濱春美，清水健史，伊藤治幸，藤井博英：精神科訪問看護評価スケールの信頼性・妥当性の検討 第28回日本看護科学学会学術集会講演集、433、2008年12月、福岡市、1 青森県立つくしが丘病院
- 6) 清水健史，伊藤治幸，藤井博英：精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「新奇場面」の評価1-a、第28回日本看護科学学会学術集会講演集、460、2008年12月、福岡市
- 7) 清水健史，伊藤治幸，藤井博英：精神看護学実習におけるグループカンファレンスの導入としてのミニ講義「アイスブレイク」の評価1-b、第28回日本看護科学学会学術集会講演集、460、2008年12月、福岡市
- 8) 藤井博英，成田博幸¹，角濱春美，清水健史，伊藤治幸：精神科訪問看護のアウトカム測定尺度の開発。2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、

90、2009年2月、青森市、1 青森県立つくしが丘病院

報告書

1) 伊藤治幸，熊谷貴子，清水健史，木村緑¹，藤井博英：地域で生活する精神障がい者の栄養摂取量の実態とその関連要因。平成20年度青森県立保健大学健康科学特別研究報告書、2009年3月、1 十和田済誠会病院

2.3) 杉本 晃子

【研究報告】

1) 杉本晃子¹，中村由美子¹，梅田弘子¹，赤羽衣里子²，内城絵美¹，澁谷泰秀³：A県の障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴。日本ヒューマンケア科学会誌，Vo.12, No.1，49-56，2009 .

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

2) 梅田弘子¹，中村由美子¹，杉本晃子¹，赤羽衣里子²，内城絵美¹，澁谷泰秀³：入院している子どもをもつ家族機能の特徴 家族機能とソーシャルサポートに焦点をあてて。日本ヒューマンケア科学会誌、Vol2, No.1，41-48，2009 .

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

【報告書】

1) 中村由美子¹，梅田弘子¹，杉本晃子¹，赤羽衣里子²，内城絵美¹，澁谷泰秀³：青森県の病気のある子どもをもつ家族の家族機能の特徴。健康科学特別研究費補助金研究報告書，2008 .

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

【学会発表】

1) 杉本晃子¹，中村由美子¹，梅田弘子¹，赤羽衣里子²，内城絵美¹，澁谷泰秀³：障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴 第28回日本看護科学学会学術集会 2008年12月13日 - 14日 福岡国際会議場，福岡市，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，341，2008 .

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

2) 梅田弘子¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³：入院している子どもをもつ家族の家族機能の特徴。第28回日本看護科学学会学術集会，2008年12月13日-14日，福岡国際会議場，福岡市，第28回日本看護科学学会学術集会講演集，340，2008。

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

3) 杉本晃子¹、中村由美子¹、梅田弘子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³：障がいをもつ子どもの家族の家族機能の特徴。2008年度青森県保健医療福祉研究発表会，2009年2月13日，青森県立保健大学，青森市，2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集，84-85，2009。

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

4) 梅田弘子¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、赤羽衣里子²、内城絵美¹、澁谷泰秀³：入院している子どもをもつ家族の家族機能の特徴とソーシャルサポートに関する研究。2008年度青森県保健医療福祉研究発表会，2009年2月13日，青森県立保健大学，青森市，2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集，98-99，2009。

¹：青森県立保健大学、²：長野県立こども病院、³：青森大学

5) 内城絵美¹、中村由美子¹、杉本晃子¹、梅田弘子¹、田口良子²、赤羽衣里子³：「小児のフィジカルアセスメント」実践DVDの開発。2008年度青森県保健医療福祉研究発表会，2009年2月13日，青森県立保健大学，青森市，2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集，38-39，2009。

¹：青森県立保健大学、²：神奈川県立子ども医療センター、³：元青森県立保健大学

24) 吹田 夕起子

総説、論説、研究ノート、報告書など

・小山敦代¹、石鍋圭子、Y. S. リボウイツ、吹田夕起子、大串靖子²、荷田順子³、中村令子⁴、黒坂満智子³、中居幸子³、長牛由美⁵：「老年に関する映画」の教材化検討 14本の映画鑑賞とディスカッションを通して。看護教育，49(5)，428-433，2008年

5月。

¹：明治国際医療大学、²：元青森県立保健大学、³：八戸市立高等看護学院、⁴：弘前学院大学、⁵：青森中央短期大学

・石鍋圭子、吹田夕起子、佐々木雅史、中村令子¹、長内志津子¹、櫻井尚子¹、黒坂満智子²、荷田順子²、秋庭由佳³、中川孝子³：認知症高齢者の理解 - 新聞記事の教材化の検討 - 。青森県看護教育研究会誌，37，22-24，2009年3月。

¹：弘前学院大学、²：八戸市立高等看護学院、³：青森中央短期大学

学会発表

・吹田夕起子：介護老人保健施設入所者に対するライフレビュー介入の効果。日本老年看護学会第13回学術集会 2008年11月8-9日 石川県立音楽堂，金沢市，日本老年看護学会第13回学術集会抄録集，111，2008。

学会、研究室、地方会などの主催

・第10回青森高齢者ケア研究会主催，2008年11月15日，青森県立保健大学
・第11回青森高齢者ケア研究会主催，2009年3月7日，青森県立保健大学

25) 鄭 佳紅

1. 誌上発表

鄭佳紅¹：QJによる看護師の技能とその伝承 - 指導・育成能力と報告・連絡・情報共有能力に焦点を当てて - ，日本ヒューマンケア科学会誌，2(1)，31-40，2008

¹：青森県立保健大学

上泉和子¹、片田範子²、内布敦子²、坂下玲子²、桜井礼子³、畑豊²、新居学²、中山和弘⁴、鄭佳紅¹：Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護の質評価に関する研究，平成18-20年度文部科学研究費補助金総括研究報告書，2009

¹：青森県立保健大学、²：兵庫県立大学、³：大分県立看護科学大学、⁴：聖路加看護大学

鄭佳紅¹、上泉和子¹：求められる退院調子得看護師の活躍と退院支援システムの確立，看護，60(11)，40-43，2008

¹：青森県立保健大学

鄭佳紅¹：「橋渡しナース」がつなぐ包括ケアシステム，Nursing BUSINESS, 2(6), 52-57, 2008

¹：青森県立保健大学

2. 一般発表など

鄭佳紅¹：OJTによる看護師の技能とその伝承，日本ヒューマンケア科学学会第1回学術集会，2008年9月27日，口述発表，青森県立保健大学，青森，2008

¹：青森県立保健大学

鄭佳紅¹，上泉和子¹，坂下玲子²，内布敦子²，桜井礼子³，福田広美³，粟屋典子⁴：Web版看護ケアの質評価総合システムを用いた看護ケアの評価 - インシデント発生率と構造・過程の関係 - ，第12回日本看護管理学会年次大会，口述発表，東京大学本郷キャンパス，東京，2008.

¹：青森県立保健大学，²：兵庫県立大学，³：大分県立看護科学大学，⁴：元大分県立看護科学大学

坂下玲子¹，内布敦子¹，上泉和子²，鄭佳紅²，桜井礼子³，福田広美³，粟屋典子⁴：Web版看護ケアの質評価総合システム評価項目の因子的妥当性および内的整合性の検討，第12回日本看護管理学会年次大会，示説発表，東京大学本郷キャンパス，東京，2008.

¹：兵庫県立大学，²：青森県立保健大学，³：大分県立看護科学大学，⁴：元大分県立看護科学大学

内布敦子¹，坂下玲子¹，粟屋典子²，福田広美³，桜井礼子³，上泉和子⁴，鄭佳紅⁴：看護ケアの質評価によって抽出されたGood Practice - 高得点病棟の構造，過程，結果得点の特徴 - ，第12回日本看護管理学会年次大会，示説発表，東京大学本郷キャンパス，東京，2008.

¹：兵庫県立大学，²：元大分県立看護科学大学，³：大分県立看護科学大学，⁴：青森県立保健大学

福田広美¹，桜井礼子¹，鄭佳紅²，上泉和子²，坂下玲

子³，内布敦子³，粟屋典子⁴：Web版「看護ケアの質評価総合システム」における患者満足度と構造・過程評価の関連，第12回日本看護管理学会年次大会，示説発表，東京大学本郷キャンパス，東京，2008.

¹：大分県立看護科学大学，²：青森県立保健大学，³：兵庫県立大学，⁴：元大分県立看護科学大学

26) 戸沼 由紀

【学会発表】

・千葉敦子¹⁾，細川満子¹⁾，山本春江¹⁾，富田恵¹⁾，戸沼由紀¹⁾，山田典子¹⁾，今敏子²⁾，工藤久子²⁾，玉懸多恵子³⁾，鈴木久美子⁴⁾，古川照美⁵⁾，桐生晶子⁶⁾，加藤亜衣子⁶⁾：在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度(第3報) - 訪問看護ステーション実習指導者に対するアンケート調査 - ，青森県看護教育研究会，2009年3月14日，弘前病院付属看護学校，青森県弘前市，青森県看護教育研究会誌，37，1-6

1) 青森県立保健大学，2) (財) 双仁会厚生病院附属看護学院，3) 八戸市立高等看護学院，4) 五所川原市立高等看護学院，5) 弘前大学大学院保健学研究科，6) 国立病院機構弘前病院附属看護学校

27) 山田 典子

1. 紙上発表

著書

・杉本正子，真船拓子，南方暁他編集：看護職のための関係法規，山田典子分担執筆箇所，看護活動と関係法規，成年後見制度の実際 244 - 251，配偶者暴力相談支援センター287-291，平成21年3月25日，NOUVELLE HIROKAWA，東京.

原著

・山田典子¹⁾，川内規会¹⁾，山田真司¹⁾，上野雅²⁾，新井山洋子³⁾，富田恵¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾：黎明期のセーフティプロモーション(SP)活動に見られる住民間の目的意識形成の成因解明 Part I. 日本セーフティプロモーション学会誌Vol.2 No.1, 33-39, 2009.

1) 青森県立保健大学 2) SC とわだを実現させる会，3) 十和田市役所

研究報告

・山田典子：法看護学はなぜ必要か？ 被害者の声なき叫びを聞き逃さないために - ，保健の科学，

No50. vol14, 267-272, 2008.

・山田典子：DV被害者早期発見看護観察チェックリストの検討，日本精神保健看護学会誌(査読あり)，Vol. 17 No.1, 34-43.2008

・山田典子，山本春江，リボウィッツよし子：日本における法看護学教育カリキュラムの検討，日本ヒューマンケア科学会誌 第2巻 第1号 57-64,2009

・山田真司，山田典子，川内規会，奈良岡恵子：セーフティプロモーション活動からの交通問題へのアプローチ～Part 地域居住者によるグループインタビューからわかったこと～．日本セーフティプロモーション学会誌Vol3.2009

総説

・山田典子¹⁾，米山奈奈子²⁾，宮本真巳³⁾，他．日本における法看護学教育の検討，看護学雑誌，72巻12号，p1024-1028，2008．

1) 青森県立保健大学，2) 秋田大学，3) 東京医科歯科大学

研究ノート

・細川満子¹⁾，千葉敦子¹⁾，山本春江¹⁾，三津谷恵¹⁾，山田典子¹⁾，今敏子²⁾，工藤久子²⁾，玉懸多恵子³⁾，鈴木久美子⁴⁾，古川照美⁵⁾，桐生晶子⁶⁾，櫻田和子⁷⁾：

教員が考える在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度，青森県立保健大学雑誌 No9, Vol12, p159-165, 2009．

1) 青森県立保健大学，2) (財)双仁会厚生病院附属看護学院，3) 八戸市立高等看護学院，4) 五所川原市立高等看護学院，5) 弘前大学大学院保健学研究科，6) 国立病院機構弘前病院附属看護学校，7) 青森中央短期大学

2. 一般発表

・山田真司，山田典子：高校生のデートDVの実態調査結果について - 青森県の場合 - ，日本行動計量学会第36回大会，成蹊大学，p111，2008年7月

・山田典子¹⁾，三津谷恵¹⁾，奈良岡恵子¹⁾，川内規会¹⁾，山田真司¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，新井山洋子²⁾，長瀬比佐子²⁾，蘆野潤子³⁾；セーフティプロモーション(SP)活動による住民参加のきっかけと意識形成過程，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会，，東京都老人総合研究所，p54，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) 十和田市健康福祉部，3)

SC とわだを実現させる会

・奈良岡恵子¹⁾，山田典子¹⁾，三津谷恵¹⁾，川内規会¹⁾，山田真司¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，新井山洋子²⁾，長瀬比佐子²⁾，蘆野潤子³⁾：SP活動における目的意識形成過程～黎明期の組織活動における参加者が認識した役割～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p55，東京都老人総合研究所，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) 十和田市健康福祉部，3)

SC とわだを実現させる会

・川内規会¹⁾，山田典子¹⁾，奈良岡恵子¹⁾，三津谷恵¹⁾，山田真司¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，新井山洋子²⁾，長瀬比佐子²⁾，山本由美³⁾：SP/SC活動に取り組んだ関係者の目的意識形成過程～“やりがい”と行動変容～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p56，東京都老人総合研究所，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) 十和田市健康福祉部，3)

SC とわだを実現させる会

・三津谷恵¹⁾，山田典子¹⁾，川内規会¹⁾，奈良岡恵子¹⁾，山田真司¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，新井山洋子²⁾，長瀬比佐子²⁾，大田一子³⁾：SC活動に取り組み始めた住民が抱いた思い～黎明期に認識された課題～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p57，東京都老人総合研究所，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) 十和田市健康福祉部，3)

SC とわだを実現させる会

・豊田佳緒里³⁾，山田典子¹⁾，三津谷恵¹⁾，川内規会¹⁾，奈良岡恵子¹⁾，山田真司¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，上野雅²⁾，蘆野潤子²⁾：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～地域における“つながり”とは～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p60，東京都老人総合研究所，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) SC とわだを実現させる会，3) 老健とわだ

・山田真司¹⁾，山田典子¹⁾，三津谷恵¹⁾，川内規会¹⁾，奈良岡恵子¹⁾，リボウィッツよし子¹⁾，上野雅²⁾，豊田佳緒里²⁾，定喜久美：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～交通の安全を脅かす要因～，第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p58，東京都老人総合研究所，2008年10月

1) 青森県立保健大学，2) 老健とわだ，3) SC と

わだを実現させる会

・リボウィッツよし子¹⁾、山田典子¹⁾、山田真司¹⁾、川内規会¹⁾、三津谷恵¹⁾、奈良岡恵子¹⁾、上野雅²⁾、豊田佳緒里²⁾、定喜久美³⁾：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～自治会住民の自然災害への備え～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p59、東京都老人総合研究所、2008年10月

1) 青森県立保健大学、2) 老健とわだ、3) SC とわだを実現させる会

・Noriko YAMADA, Yujiro HANDA, Masashi YAMADA: The current situation on violence related to dating among the adolescent population in Japan and the response by a health promotion programme., 17th International Safe Communities Conference Christchurch New Zealand 2008 p345

・Masachika Nakanowatari, Ueno Masashi, Ashino Junko, Sada kikumi, Yoko Niiyama, Noriko Yamada, Yoshihide Sorimachi: Development of Community Safety promotion in Towada City, 17th International Safe Communities Conference Christchurch New Zealand 2008 p173

・大橋俊子、大西基喜、小野重遠、河原啓二、熊谷仁人、反町吉秀、平田宏之、山田典子：セーフティプロモーション(SP)・セーフコミュニティ(SC)に関する調査について、第67回日本公衆衛生学会総会、Vol.55 No.10 p337、福岡県福岡市、2008.11

・山田典子¹⁾、半田祐二郎²⁾、山田真司¹⁾、宮本真巳³⁾、斉藤道明⁴⁾：東北地方における高校生のデート相手に対する暴力の認識と学び、第67回日本公衆衛生学会総会、Vol.55 No.10 p250、福岡県福岡市、2008.11

1) 青森県立保健大学、2) 北海道医療大学、3) 東京医科歯科大学、4) 青森県こどもみらい課

・山田典子¹⁾、山本春江¹⁾、リボウィッツよし子¹⁾、宮本真巳²⁾：日本における法看護学教育カリキュラムの検討、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集、p74-75、青森県青森市、2009.2

1) 青森県立保健大学、2) 東京医科歯科大学

・Noriko Yamada¹⁾、Masami Miyamoto²⁾：Dating violence among high school students in a remote prefecture from the capital of Japan: The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, Japan p 110. March13-14, 2009

1) 青森県立保健大学、2) 東京医科歯科大学

・千葉敦子¹⁾、細川満子¹⁾、山本春江¹⁾、富田恵¹⁾、戸沼由紀¹⁾、山田典子¹⁾、今敏子²⁾、工藤久子²⁾、玉懸多恵子³⁾、鈴木久美子⁴⁾、古川照美⁵⁾、桐生晶子⁶⁾、加藤亜衣子⁶⁾：在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度(第3報) - 訪問看護ステーション実習指導者に対するアンケート調査 -、青森県看護教育研究会、2009年3月14日、青森県青森市

1) 青森県立保健大学、2) (財)双仁会厚生病院附属看護学院、3) 八戸市立高等看護学院、4) 五所川原市立高等看護学院、5) 弘前大学大学院保健学研究科、6) 国立病院機構弘前病院附属看護学校

3. その他

報告書

一歩すすんだ看護現任研修をめざして～法看護学のスキルから観察力・判断力・コミュニケーション能力を高める～、平成20年度地域連携・国際センター研修科事業。平成21年1月31日

国際資格

Certifying Centre for Safe Communities Asian Region の Certified Site Visitor, Peer Reviewer and trainer, 2008 March 4, 認定者 WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion

学会・外部委員

テキスト作成

・山田典子：健康教育論2008～つくってみよう・やってみよう～指導案集、平成20年12月22日

・山田典子、千葉敦子、山本春江他：実践、健康教育論2009、平成21年3月31日

DVD作成

・セーフティプロモーション・セーフコミュニティの取り組み：平成20年度文部科学省研究費にて作成、平成21年3月31日

普及啓発グッズの開発

・セーフティプロモーションについて(下敷き) 1000枚

・セーフコミュニティについて (下敷き) 1000枚

・SP/SC マグネット 2種類 1000枚

・SCシール

- ・セーフコミュニティ ストラップ 300個
- ・セーフティプロモーションクリアファイル 2000枚

28) 山本 春江

学術論文

- ・西村美八, 竹森幸一, 山本春江: 20歳代および30歳代女性のライフイベントと生活習慣, 日本公衆衛生雑誌, Vol.55, No.8, p.503-510, 2008.
- ・細川満子, 千葉敦子, 山本春江, 三津谷恵, 山田典子他: 教員が考える在宅看護実習前に学生に身につけさせたい実習態度 青森県看護教育研究会地域看護学グループの取組み -, 青森保健大学雑誌, Vol.9, No.2, p.159-166, 2008.
- ・山田典子, 山本春江, リボウィッツよし子: 日本における法看護学教育カリキュラムの検討, 日本ヒューマンケア科学学会誌, Vol.2, No.1, p.57-64, 2008.

学会発表

- ・山本春江, 千葉恵津子, 鎌田明美, 千葉敦子, 李相潤: 労働者の運動習慣における「支援的環境」の意義 職場環境との関連から, 日本公衆衛生学会, 2008年11月7日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌 Vol.55, No.10, p.301, 2008.
- ・千葉恵津子, 山本春江, 鎌田明美, 千葉敦子, 李相潤: 職場の階段有無別による運動量の比較検討, 日本公衆衛生学会, 2008年11月7日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌 Vol.55, No.10, p.301, 2008.
- ・鎌田明美, 千葉恵津子, 千葉敦子, 李相潤, 山本春江: 労働者の冬の運動量の増減と地域の特徴, 日本公衆衛生学会, 2008年11月7日, 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌 Vol.55, No.10, p.301, 2008.
- ・千葉敦子, 三浦雅史, 山本春江, 鎌田明美: 筋力向上トレーニング自主的会参加者の健康組織, 2008年11月6日 福岡市, 日本公衆衛生学会雑誌 Vol.55, No.10, p.537, 2008.
- ・千葉敦子, 山本春江, 工藤奈織美(自治医科大学), 浅田豊, 竹森幸一: 健康教室参加者における家族や地域への学びの伝達状況に関する比較検討, 日本家族看護学会, 2008年9月13日, 藤沢市, 家族看護研究, Vol.14, No.2, p.109, 2008.
- ・千葉恵津子, 山本春江, 鎌田明美, 千葉敦子, 李相潤: 積雪寒冷地における勤労男性の運動状況と季

節および職場環境との関連, 東北公衆衛生学会, 2008年7月25日, 青森市, 東北公衆衛生学会誌, No.57, p.45, 2008.

・山本春江, 千葉敦子, 鎌田明美: 積雪寒冷地における労働者の運動状況と地域および職場環境との関連, 日本看護科学学会, 2008年12月14日, 福岡市, 日本看護科学学会学術集会講演集, p.535, 2008.

・山本春江, 千葉恵津子, 鎌田明美, 千葉敦子, 李相潤: 労働者の運動習慣における「支援的環境」の意義 職場環境との関連から, 青森県保健医療福祉研究発表会, 2009年2月13日, 青森市, 2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集, p.76-77, 2009.

・山田典子, 山本春江, リボウィッツよし子, 宮本真巳: 日本における法看護学教育カリキュラムの検討, 青森県保健医療福祉研究発表会, 2009年2月13日, 青森市, 2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集, p.74-75, 2009.

・千葉敦子, 三浦雅史, 山本春江, 鎌田明美: 筋力向上トレーニング自主的会参加者の健康組織, 青森県保健医療福祉研究発表会, 2009年2月13日, 青森市, 2008年度青森県保健医療福祉研究発表会抄録集, p.780-81, 2009.

29) 山本 加奈子

学会発表

- ・山本加奈子¹、天野博之²、Vi rasack BANOUVONG⁴、Viengsavanh PHANMANIVONG、⁵ Somnone PHOUNSAVATH、⁵、西山利正²: ラオス国における腸管寄生虫実相調査～全国一斉投薬の効果と今後の課題～、第49回日本熱帯医学会大会・第23回日本国際保健医療学会学術集会講演集、111.
- ¹: 青森県立保健大学 ²: 関西医科大学公衆衛生学講座 ³: ラオス国ルアンパバーン看護学校 ⁴: ラオス国ルアンパバーン県マラリアセンター ⁵: ラオス国保健省治療局
- ・木村恵美子¹、福井幸子¹、山本加奈子¹: 一部改変したPBLを用いての看護過程演習の授業評価第28回日本看護科学学会学術集会講演集、346.
- ¹: 青森県立保健大学
- ・田中広美¹、佐藤真由美²、福井幸子²、市川美奈子²、山本加奈子²、藤本真記子²、木村恵美子²、角濱春美²、大串靖子¹: 臨地実習の安全性 - 基礎看護学実習におけるインシデント・アクシデ

ントの分析から -、第 28 回日本看護科学学会学術集会講演集、467 .¹: 元青森県立保健大学²
: 青森県立保健大学

¹: 青森県立保健大学

講演など

- ・ 山本加奈子: ラオスの保健医療の現状と農村への保健支援について、千里メイプルロータリークラブ会員約 100 名、2008 年 6 月 7 日、阪急エキスポパークホテル、大阪市
- ・ 山本加奈子: 緩和ケアとしてのアロマセラピーの知識・技術の習得、青森県立中央病院緩和ケアリンクナースなど約 30 名、2008 年 7 月 24 日、青森県立中央病院、青森市
- ・ 山本加奈子: アロマセラピー研修会、看護臨床現場で患者ケアに役立つアロマセラピーについて、青森県内施設看護師のべ 70 名、2009 年 1 月 26-27 日・2 月 14 日、山本加奈子企画運営、青森県立保健大学、青森市
- ・ 山本加奈子、佐藤仁美、奈良岡恵子、藤本真紀子: 医療安全にかかる看護技術(静脈注射)の学び直しプログラム実施にかかる e - ラーニングコンテンツ作成、青森県立保健大学内、青森市

30) 山本 真樹子

- ・ 佐藤愛¹、山本真樹子¹、根布谷綾乃¹、大関信子¹、大井けい子¹、行方かおり²、: 産後の母親のメンタルヘルスと関連要因の検討 A 県における都市部と郡部との比較、第 23 回日本助産学会学術集会、2009 年 3 月 21 日 - 22 日、タワーホール船堀、東京、第 23 日本助産学会誌集録集、443、2009 .

¹: 青森県立保健大学、²: 三重県立大学付属病院

- ・ 大関信子¹、ノールズ・アラン¹、佐藤愛¹、山本真樹子¹、根布谷綾乃¹、: 乳幼児を持つ母親の役割葛藤: 影響要因と一般健康度との関連、第 28 回日本看護科学学会学術集会 2008 年 12 月 13 日 - 14 日、福岡サンパレス & 福岡国際会議場、福岡、第 28 回日本看護科学学会学術集会講演集、479、2008 .

1) 藤田 智香子

b 報告書など

岩月宏泰, 藤田智香子, 佐藤秀一: 理学療法評価技術習得のための客観的臨床能力試験(OSCE)の開発. 平成20年度青森県立保健大学教育改善研究報告書, 2009.

d 学会発表

・木村文佳1, 藤田智香子2: 津軽地方における理学療法士の言葉遣いに対する患者の意識. 第43回日本理学療法学会大会, 2008年5月15日-17日, 福岡国際会議場他, 福岡市, 理学療法学 35supple(2)p271, 2008.

1: 外ヶ浜中央病院, 2 青森県立保健大学

・藤田智香子1, 岩月宏泰1, 佐藤秀一1: 下肢のROM-T技術修得における客観的臨床能力試験(OSCE)の試み. 第33回青森県理学療法士学会, 2009年3月14日-15日, 青森県立保健大学, 青森市, 第33回青森県理学療法士学会プログラム・抄録集 p23, 2009.

1: 青森県立保健大学

2) 岩月 宏泰

学術論文

・Iwatsuki H, Meguro R, Asano Y, Odagiri S, Li C, Shoumura K.: Chelatable Fe (II) is generated in the rat kidneys exposed to ischemia and reperfusion, and a divalent metal chelator, 2, 2'-dipyridyl, attenuates the acute ischemia/reperfusion-injury of the kidneys: a histochemical study by the perfusion-Perls and -Turnbull methods. Arch Histol Cytol. 2008 Sep;71(2):101-14.

・岩月宏泰, 岩月順子: ノルディック・ウォーキングが呼吸循環系及び下肢荷重関節に与える効果. 寒地技術論文・報告集, 24, 287-291, 2008.

・岩月宏泰, 鈴木孝夫: 予備加温が強制走行で生じる組織傷害に及ぼす抑制効果. 寒地技術論文・報告集, 24, 283-286, 2008.

口頭発表

・岩月宏泰, 安田雅美, 岩月順子: 高齢者ケア従事

者の精神的負担感と自我状態との関連について. 第43回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 35(大会特別号), 427, 平成20年5月15-17日, 福岡市.

・木村直子, 岩月宏泰: 介護サービス提供者における精神的疲弊感の職種別比較. 第43回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 35(大会特別号), 427, 平成20年5月15-17日, 福岡市.

・庭田幸治, 岩月宏泰: 理学療法及び作業療法学生における対人的志向性の学年間比較. 第43回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 35(大会特別号), 661, 平成20年5月15-17日, 福岡市.

・安田雅美, 岩月宏泰, 岩月順子: 高齢者ケアスタッフの情意を構成する自我状態の評価と職種間比較. 第43回日本理学療法学会大会, 理学療法学, 35(大会特別号), 898, 平成20年5月15-17日, 福岡市.

・岩月宏泰, 岩月順子: 注視軌跡からみた生活環境評価の正確さについて. 第10回日本本医療マネジメント学会学術総会, 日本医療マネジメント学会雑誌, 9(1), 179, 平成20年6月20・21日, 名古屋市.

・岩月宏泰: 理学療法学生に実施した危険予知訓練(KYT)の実際とその効果. 第10回日本本医療マネジメント学会学術総会, 日本医療マネジメント学会雑誌, 9(1), 179, 平成20年6月20・21日, 名古屋市.

・岩月宏泰: 理学・作業療法学生を対象とした対人的志向性の評価, 日本医療マネジメント学会第7回青森地方会 抄録集, 14, 平成20年7月5日, 八戸市.

・Yasuda M, Iwatsuki H, Iwatsuki J: A study of stress in Japanese physical and occupational therapists: A questionnaire survey. 10th International congress of the Asian confederation for physical therapy, Proc.363, 2008年8月29日 9月1日, 千葉市.

・Iwatsuki H, Ikuta Y, Iwatsuki J: Educational interventions for the prevention of fall in pedestrians living in snowy region. 10th International congress of the Asian confederation for physical therapy, Proc.376, 2008年8月29日 9月1日, 千葉市.

・Ikuta Y, Iwatsuki H: Low-intensity exercise self-efficacy in disabled elders living at the long-term care welfare facility. 10th International congress of the Asian

confederation for physical therapy, Proc.378,2008年8月29日 9月1日,千葉市.

・岩月宏泰:高齢者ケアサービス提供者の情意を構成する自我状態の職種間比較.第46回日本医療・病院管理学会,日本医療・病院管理学会誌,45,139,平成20年11月15-16日,静岡市.

・Iwatsuki H,Suzuki T: The Effects of Hot Bathing on Muscle Damages in Rats Subjected to Moderate Intensity Running. 2008年青森県保健医療福祉研究発表会,抄録集68-69,平成21年2月13日,青森市.

・藤田智香子,岩月宏泰,佐藤秀一:下肢のROM-T技術習得における客観的臨床能力試験(OSCE)の試み.第33回青森県理学療法士学会,平成21年3月14-15日,青森市.

3)神成 一哉

学術論文

Arai A, Tomiyama M, Kannari K, Kimura T, Suzuki C, Watanabe M, Kawarabayashi T, Shen H, Shoji M: Reuptake of L-DOPA-derived extracellular DA in the striatum of a rodent model of Parkinson's disease via norepinephrine transporter. Synapse 62: 623-625, 2008.

著書

神成一哉:パーキンソン病でみられるうつ神経生物学的背景.山本光利編著,パーキンソン病 病因病態と治療,うつ・衝動制御障害,151-158,2008年,中外医学社

その他(記事)

神成一哉:青森県立保健大学教授に就任して.医学部ウォーカー第46号,平成20年9月17日発行,p3.

学会発表

神成一哉:DAはL-dopaを超えられるか.パーキンソンシンポジウム2009,2009年3月7日,かがわ国際会議場,香川県高松市

講演

神成一哉:パーキンソン病の謎-L-DOPAはなぜ効くのか-.弘前大学内分泌代謝内科(旧第三内科)えんれい会会員講演,2008年4月19日,ホテルニューキャッスル,弘前市

神成一哉:L-DOPAはなぜパーキンソン病に効くのか.青森保健大学学内研究談話会,2008年7月23日,学内A棟107

神成一哉:パーキンソン病の薬の上手な服用の仕方について.平成20年度むつ保健所難病患者医療相談,2008年9月4日,むつ来さまい館,むつ市

神成一哉:歩行障害について.青森市保健所平成20年度第2回医療相談事業,2008年10月6日,しあわせプラザ,青森市

神成一哉:パーキンソン病と認知症について.全国パーキンソン病友の会青森県支部講演会,2008年10月26日,青森市文化会館小会議室

4)三浦 雅史

a 学術論文

1. 工藤愛,三浦雅史.歩行の体型的要因-妊産婦-.理学療法,26(1),61-65,2009.

b 学会発表

1.三浦雅史.シンスプリント用装具の予防効果.第43回日本理学療法学会大会,2008年5月15日~17日,福岡市,2008

2.今 美香¹, 苫米地真理子², 三浦雅史.ハイヒール靴に対するインソールの有効性.第43回日本理学療法学会大会,2008年5月15日~17日,福岡市,2008

¹青森県立中央病院, ²弘前記念病院

3. 苫米地真理子¹, 三浦雅史, 今 美香².足関節テーピングが片脚立位安定性に及ぼす影響.第43回日本理学療法学会大会,2008年5月15日~17日,福岡市,2008

¹弘前記念病院, ²青森県立中央病院

4. Masashi MIURA. LONG-TERM EFFECTS OF THE ORTHOSIS TREATMENT FOR SHIN SPLINTS. 10th International Congress of the Asia Confederation for Physical Therapy, 2008, Aug 29 Sep 1. Chiba, Japan, 2008

5. 下沢祐貴¹, 苫米地真理子², 三浦雅史.閉眼片脚立位における重心動揺総軌跡長と外周面積の関係.第26回東北理学療法学会大会,2008年11月8日~

9日,山形市,2008

6.三浦雅史,中屋敷茜¹,千葉敦子.介護予防トレーニングの効果に関する検討-前期高齢者と後期高齢者の比較から-.2008年度青森県保健医療福祉研究発表会,2009年2月13日,青森市,2009

¹総合花巻病院

7.千葉敦子,三浦雅史,山本春江,鎌田明美¹.筋力向上トレーニング自主組織会参加者の健康関連QOLの状況.2008年度青森県保健医療福祉研究発表会,2009年2月13日,青森市,2009

¹青森県立保健大学大学院

c 学会、研究室、地方会などの主催

平成20年度 JASA-AT 東北・北海道ブロックトレーナーセミナー.2008年11月16日.青森県立保健大学

d 特許

発明の名称:「シンスプリント用装具」,特許出願2004-358026.特許公開2006-158833.公開日:2006年6月22日

5) 盛田 寛明

a 学術論文(原著)

1. Hiroaki Morita, Hiroyasu Iso¹, Junichi Hashimoto. Long-Term Effects of Low-Frequency Home-Visit Rehabilitation by Cooperation with Physiotherapists and Health Care and Welfare Workers on Activities of Daily Living. Journal of Physical Therapy Science 21 (1): 72-84, 2009.

¹大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻社会環境医学講座公衆衛生学

c 書籍・辞書・テキストなど

1. 盛田寛明. 第5章在宅医療 重複障害者へのアプローチの原則やポイントは何か?. 課題別 図解理学療法技術ガイド. (編) 嶋田智明¹, 他. 東京, 文光堂, pp.876-901, 2008年5月. (共著)

¹神戸大学

d 学会発表

1. 盛田寛明, 鈴木崇司¹. T字杖のユーザ調査-立て掛け時の杖の転倒について-. 第43回日本理学療法学会, 2008年5月17日, 福岡市, 理学療法

学 35 (supl 2), 861, 2008.

¹あおもり協立病院

2. Hiroaki Morita, Takashi Suzuki¹. A user survey on the tendency of the leaned T-handle cane to fall. The 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy 2008, Aug 31, 2008, Chiba, Japan.

¹あおもり協立病院

3. Takashi Suzuki¹, Hiroaki Morita. The effects of motivation and self-efficacy on the health-related quality of life for individuals using day care service. The 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy 2008, Aug 31, 2008, Chiba, Japan.

¹あおもり協立病院

6) 長門 五城

一般発表

1. 第58回日本生理人類学会

2008年6月7-8日 大阪府大阪市(大阪市立大学) デュシェンヌ型筋ジストロフィーにおける電動車椅子使用上の空間感覚評価.

長門五城

2. 第23回日本RAのリハビリ研究会

2008年10月12日 大阪府大阪市(エーザイ・大阪コミュニケーションオフィス) 関節リウマチ患者のめたボリックシンドロームと機能障害・ADLとの関係について

田頭康子¹, 渡部一郎, 長門五城

¹: 青森敬仁会病院

3. 2008年度青森県保健医療福祉研究発表会

2009年2月6日 青森県青森市(青森県立保健大学) 高齢者等の介護サービス提供者に対する実践力向上のための研修の取り組みについて

青田俊枝¹, 長門五城, 四戸龍英²

¹: 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護実習・普及センター

²: 有限会社リュウコーポレーション

7) 尾崎 勇

紙上発表

1) Jin CY¹, Ozaki I, Suzuki Y, Baba M¹, Hashimoto I²: Dynamic movement of N100m current sources in auditory evoked fields: Comparison of

ipsilateral versus contralateral responses in human auditory cortex. Neuroscience Research 60: 397-405, 2008.

¹: 弘前大学医学部脳研神経統御部門

²: 金沢工業大学.

2) Kimura T¹, Ozaki I, Hashimoto I²: Impulse Propagation along Thalamocortical Fibers Can Be Detected Magnetically outside the human brain. Journal of Neuroscience, 28 (47):12535-12538, 2008.

¹: 筑波技術大学

²: 金沢工業大学.

3) 高田博仁¹, 尾崎 勇: 後角病変と後索病変の鑑別におけるSEPの有用性. 頸髄症例の検討から. 臨床脳波 50(1); 10-17, 2008.

¹: 国立病院機構 青森病院神経内科.

4) 尾崎 勇, 鈴木千恵子¹: 体性感覚誘発電位(SEP)の臨床応用. 臨床神経生理 36: 145-160, 2008.

¹: 弘前大学医学部脳研神経統御部門

一般発表, 講演など

1) 第49回日本神経学会総会

2008年5月15-17日神奈川県横浜市(パシフィコ横浜)

低酸素脳症の体性感覚誘発電位-中潜時成分と予後についての検討.

鈴木千恵子¹, 尾崎 勇, 富山誠彦¹, 瓦林 毅¹, 東海林幹夫¹

¹: 弘前大学医学部 神経内科

2) 第三回麻酔深度研究会. 2008年6月14日 神奈川県横浜市(パシフィコ横浜)

演題名: 痛みの客観的評価: 痛みに伴う身体反応の変化について

3) 第2回ドライバ評価手法検討部門委員会 2008年6月23日. 三菱自動車工業(株) 本社 別館503会議室

演題名: 外界のイメージの脳内情報処理

4) 第25回日本脳電磁図トポグラフィ研究会. 2008年6月27-28日 千葉県木更津市(かずさアーク) オークラ・アカデミアパークホテル

教育講演: 顔・表情の認知と情動について
シンポジウム「自作ソフトウェアの可能性を探る」
演題名: 脳機能研究に貢献するデータ解析手法研究と医工連携

演者: 小林哲生¹, 尾崎 勇

¹: 京都大学大学院工学科

5) 平成20年度むつ保健所難病患者医療相談. 2008年8月22日, むつ市 むつ来さまい館.

演題名: 抗パーキンソン病薬の服用について.

6) 第38回日本臨床神経生理学会学術大会. 2008年11月12-14日

演題名: 仮現運動刺激を用いた視角誘発磁場に現われる加齢変化

演者: 上野 沙奈絵¹, 菊知 充², 坪川 恒久³, 川淵 泰之⁴, 下道 喜代美⁵, 尾崎 勇, 橋本 勲⁶

¹: 財団法人石川県産業創出支援機構,

²: 金沢大学大学院脳情報病態学,

³: 金沢大学大学院医学系研究科機能回復学,

⁴: 横河電機株式会社,

⁵: 金沢大学医学部麻酔科

⁶: 金沢工業大学

8) 佐藤 秀一

誌上発表

・木村由佳¹, 石橋恭之¹, 津田英一¹, 福田 陽¹, 山本祐司¹, 塚田晴彦¹, 林 慶充, 藤 哲¹, 佐藤秀一: バドミントンのオーバーヘッドストロークにおける膝関節バイオメカニクス. 青森スポ研誌, 17, 1-4, 2008.

¹: 弘前大学

学会発表

・藤田智香子, 岩月宏泰, 佐藤秀一: 下肢のROM-T技術習得における客観的臨床能力試験(OSCE)の試み. 第33回青森県理学療法士学会. 2009年3月. 青森市

9) 渡部 一郎

a. 学術論文(原著)

1. 渡部朋子, 渡部一郎: 青森の大学生の腹囲と食習慣・高血圧の関連. 日本ヒューマンケア学会 1, 56-59, 2008

2. 渡部一郎, 岸直也: 脳卒中肩手症候群の肩・頸部温熱療法による交感神経ブロック様作用. Biomedical Thermology 27, 45-49, 2008

3. 渡部一郎, 須藤竜生, 三浦隆之, 下山諭史, 長門五城, 須郷麻衣子, 渡部朋子: 脳卒中麻痺側・健側

の手関節温と加速度指尖脈波の比較, Biomedical Thermology 28:29-33, 2009

4. 渡部一郎, 須郷麻衣子: 脳卒中肩手症候群に対する星状神経節近傍光線療法の効果, Biomedical Thermology 28, 48-51, 2009

b. 総説

1. 渡部一郎: リハビリテーションによる痛みの軽減・予防と対策, リウマチ友の会誌「流」: 259, 24-30, 2008
2. 渡部一郎: 関節リウマチの運動療法と指導のポイント・注意点, 通所介護&リハ 6(1), 59-63, 2008
3. 渡部一郎: 関連専門職教育からみたリハ専門医の需給, 日リハ医学会誌 45(8), 523-527, 2008
4. 渡部一郎: 早期RAのリハビリテーションの展開, Clinical Rehabilitation 18, 117-123, 2009
5. 渡部一郎, 渡部朋子: 制度・治療変革に応じた新たなRAのリハビリテーション戦略~Overview, 日本RAのリハビリ研究会誌 23, 94-97, 2009
6. 田頭康子, 長門五城, 渡部一郎, 渡部朋子: RAのメタボリックシンドロームと生活運動習慣. 日本RAのリハビリ研究会誌 23, 49-53, 2009
7. 長門五城, 渡部一郎: 変形性膝関節症に対する物理療法の効果とリハビリテーション. Monthly Book Medical Rehabilitation 105, 13-18, 2009

c. 著書

1. 渡部一郎: 第1章 温熱療法 最新整形外科(中山書店) 249-252, 2008
2. 渡部一郎: 第3章 光線療法 最新整形外科(中山書店) 258-260, 2008
3. 渡部一郎, 渡部朋子: 肥満・高脂血症と温泉療法, 新湯治のすすめ(NPO 健康と温泉フォーラム), 22-23, 2009
4. 渡部一郎(翻訳): Motor Control, 第4章 運動学習と機能回復の生理学的基礎, pp83-98, モーターコントロール(医歯薬出版; 東京), 2009

発表

1. 渡部一郎(シンポジウム): Overview - 治療・制度変革に応じた新たなRAのリハビリテーション戦略 - , 第52回日本リウマチ学会(札幌), 2008.4.20

2. 渡部一郎: 加速度脈波・局所発汗計測による脳卒中片麻痺患者の自律神経機能障害, 第73回温泉学会(鳴子), 5.15.2008
3. 渡部一郎(教育講演): 喫煙とメタボリック症候群 自動車損害保険機構 2008.5.29, 八戸水産会館
4. 渡部一郎(本学市民公開講座): 若年者の生活習慣と疾患. 2008.6.14, 青森
5. 渡部一郎: リウマチの痛みとところへのリハビリテーションアプローチ(特別講演), 第11回旭川リハビリテーション研究会 2008.6.20, 旭川グランドホテル
6. 渡部一郎(教育講演): 生活習慣とメタボリック症候群 自動車損害保険機構 2007.6.26, 八戸
7. 渡部一郎, 三浦隆之, 須藤竜生: 脳卒中麻痺側手掌発汗量と障害の関係, 第25回日本サーモロジー学会(広島), 2008.6.27
8. 渡部一郎(シンポジウム): 関連専門職の力を発揮するリハ医療, 第12回日本バイオフィリアリハビリテーション研究会, 大阪, 2008.8.23
9. 渡部一郎: リウマチの痛みとところ(教育講演), 2008.8.31, 第15回福井リウマチケア研究会(福井市) 2008.8.31
10. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The relationship between dietary habits and abdominal circumference in Aomori college students. 15th International congress of Dietetics(ICD2008), Yokohama(Japan), Sept, 8-11, 2008
11. Tomoko Watanabe, Ichiro Watanabe: The Dietary habits of the patients in rheumatoid arthritis in Aomori. 15th International congress of Dietetics(ICD2008), Yokohama(Japan), Sept, 8-11, 2008
12. 渡部一郎(教育講演): 健康保養ガイド養成講座(登別市・登別商工会議所), 登別, 2008.10.11
13. 田頭康子, 長門五城, 渡部一郎: RAのメタボリックシンドロームと生活運動習慣. 第23回日本RAのリハビリ研究会, 大阪, 2008.10.12
14. 渡部一郎(教育講演): 温泉・水治療の処方・実習(登別商工会議所, 登別厚生年金病院), 登別, 2008.11.16
15. 渡部一郎(教育講演): 生活習慣とメタボリック症候群 自動車損害保険機構 2008.11.29, 青森

トラック会館

16. 渡部一郎(教育講演)：喫煙とメタボリック症候群 自動車損害保険機構 2008.12.5, 青森トラック会館
17. 渡部一郎(特別講演)：RA の痛みとリハビリテーション, 第 5 回西北五リウマチ研究会(五所川原市), 2009.3.7
18. 渡部一郎(特別講演)：RA の痛みとリハビリテーションアプローチ, 第 16 回新潟 RA リハケア研究会(新潟), 2009.3.7

e.学会主催

- 1.平成 20 年度東北地区日本温泉気候物理医学会.2008.9.20, ヘルシーインあさむし(浅虫温泉)

10) 山下 弘二

誌上発表など

- 1)山下弘二：メタボリックシンドロームに対する理学療法：評価の考え方とその実際.
理学療法 25(10):1404-1414, 2008.
- 2)山下弘二, 盛田寛明, 小島俊夫¹：脳卒中片麻痺患者におけるセグメンタル生体電気インピーダンス法を用いた筋量評価. 理学療法科学 23(1):105-109, 2008 .
¹:健生病院リハビリテーション科

学会発表, 講演など

- 1)山下弘二：脳卒中患者における嚥下障害と最大呼気流速の関係 第 63 回日本体力医学会大会, 大分市, 2008 年 5 月 18 日 .
- 2)山下弘二：「ストップ・ザ・動脈硬化」- 運動と動脈硬化. 第 5 回日本循環器看護学会学術集会市民公開講座, 2008 年 10 月 19 日 .

1) 千葉 たか子

a 学術論文 (原著)

1. 誌上発表

千葉たか子¹: サリーを買うのは誰か インドの少数民族の女性の購入決定権へのアクセス。青森県立保健大学雑誌、第9巻第1号、9-20、2008

¹ 青森県立保健大学

b 研究ノート

千葉たか子¹: インド少数にみるヒンドゥー化 / サントラル女性のサリーの着方の変化を基に。青森県立保健大学雑誌、第9巻第2号、123-130、2008

¹ 青森県立保健大学

報告書

(科研費報告書)

千葉たか子¹ 『インドの少数民族の女性にみるエンパワメント測定の指標研究』平成20年6月

¹ 青森県立保健大学

『あおもり地球市民講座』平成21年3月

c 翻訳

共著、『もう一つのノーベル平和賞/平和を紡ぐ1000人の女性たち』、青山薫・石原みき子・松本真紀子監修、担当部分「ソニア・ピセルコ」平成20年12月、p.33、(株)金曜日

d 国内の学会発表

2. 一般発表など

千葉たか子¹: インド少数民族の女性の購入活動にみる経済的力量 - サントラル民族の場合 -。日本社会福祉学会東北部会 第8回 研究大会 岩手大会、平成20年07月20日、岩手県立大学 アイーナキャンパス、盛岡市、

¹ 青森県立保健大学

2) 入江 良平

1. 誌上発表

入江良平: ヲングにおける「無意識の知覚」について。トランスパーソナル心理学 / 精神医学、8、37-43、2008.

3) 石田 賢哉

石田賢哉¹⁾, 四戸泰明²⁾, 松井純³⁾, 渡邊洋一⁴⁾, ; 南部町社会福祉協議会が実施した「地域で共に助け

合い支え合うまちづくりアンケート調査」からみえてきた地域活動参加とボランティア意識の特徴と社協活動の可能性について。日本ボランティア学会2008年度大会、2008年6月29日、青森県立保健大学、日本ボランティア学会2008年度大会15.

: 1) 青森県立保健大学 2) 南部町社会福祉協議会

石田賢哉: 実践家にとって魅力ある研修とはどのようなものかを考えるー七戸町・東北町の介護支援専門員の仕事に関する意識・実態調査より。社会福祉学会東北ブロック大会、2008年7月20日(岩手), 社会福祉学会東北ブロック大会

4) 加賀谷 真紀

誌上発表

・大和田猛^{*1}, 加賀谷真紀^{*1} 「ホームヘルパーにおける生活援助としてのコミュニケーションスキル~青森県内におけるホームヘルパーのアンケート調査結果を通して~」青森県立保健大学雑誌、第9巻第1号、P21~P28、2008年6月.

^{*1}青森県立保健大学

・大和田猛^{*1}, 加賀谷真紀^{*1} 「社会福祉援助技術現場実習生から見た特別養護老人ホーム職員のレジデンシャルワーカーとしての専門職資質をめぐる若干の課題 - 学生の自由記述による具体的把握を通して -」青森県立保健大学雑誌、第9巻第2号、P109~P121、2008年12月.

^{*1}青森県立保健大学

5) 増山 道康

1. 誌上発表

増山道康: 障害者自立支援法が小規模作業所等への経営に与える影響。青森県立保健大学雑誌、第9巻第1号、1-8、2008

¹: 青森県立保健大学

増山道康: 社会保障に関する GHQ 調査報告書の概要と日本社会保障政策への影響 - 労働諮問委員会報告書を中心に -。青森県立保健大学雑誌、第9巻第2号、123-131、2009

増山道康・北山賢二：学生自身によるボランティアコーディネーターとその支援について。福祉文化実践報告集, VOL.3, 9-13, 2008

2. 一般発表

増山道康：精神保健福祉法地域生活支援センターから障害者自立支援法地域活動支援センターへの移行後の現状と課題。日本精神障害者リハビリテーション学会第16回東京大会, 2008年11月23日, 一橋大学, 報告要旨集 128, 2008

6) 大竹 昭裕

< 著書 >

・大竹昭裕「行政と内閣」三好充・鈴木義孚編『ポイント法学』(嵯峨野書院, 2008年10月) 50~59頁

< 学術論文 >

・大竹昭裕「裁判員制度に関する学生の意識と講義後のその変化 - 2007年度『法律と生活』受講者へのミニ・アンケート調査から - 」青森県立保健大学雑誌第9巻第2号(2008年12月) 145~152頁

< 講演など >

・大竹昭裕「平成20年度社会福祉主事資格認定講習会 法学(憲法中心に)」(公立大学法人青森県立保健大学地域連携・国際センター, 2008年9月)

7) 大和田 猛

A 学術論文(原著)

1) 大和田猛・加賀谷真紀：ホームヘルパーにおける生活援助としてのコミュニケーションスキル - 青森県内におけるホームヘルパーのアンケート調査結果を通して - 『青森県立保健大学雑誌第9巻第1号』pp21~28, 2008年6月

2) 大和田猛・加賀谷真紀：社会福祉援助技術現場実習生から見た特別養護老人ホーム職員のレジデンシャルワーカーとしての専門職資質をめぐる若干の課題 - 学生の自由記述による具体的把握を通して - 『青森県立保健大学雑誌第9巻第2号』pp109~122, 2008年12月

B 報告書

大和田猛：『ソーシャルワークにおける「意味」の探究と解釈 - ある認知症独居高齢者の生活参与観察を通して - 』(個人経常研究)

C 書籍

大和田猛編：『改訂 ソーシャルワークとケアワーク』中央法規出版, 2008年3月

8) 大山 博史

学術論文(原著)

1. 誌上発表

1) 大山博史, 坂下智恵：わが国における高齢者自殺とその予防 現状と課題 . 老年精神医学雑誌 19(2): 153-161, 2008

2) Oyama H, Sakashita T, Ono Y¹, Goto M², Fujita M³, Koida J⁴: Effect of community-based intervention using depression screening on elderly suicide risk: a meta-analysis of the evidence from Japan. Community Mental Health Journal 44, 311-320, 2008

¹: Health Center, Keio University, ²: School of Health Sciences, Niigata University, ³: Department of Pediatrics, National Niigata Hospital, ⁴: Department of Psychiatry, Iwate Prefectural Ichinohe Hospital

3) 大山博史, 渡邊直樹¹, 大野裕², 坂下智恵：健康教育と集団援助を用いた地域介入による高齢者自殺予防活動の効果評価 . 精神神経学雑誌 110(9): 731-738, 2008

¹: 関西国際大学, ²: 慶應義塾大学

4) Ono Y¹, Awata S², Iida H³, Ishida Y⁴, Oyama H, et. al.: A community intervention trial of multimodal suicide prevention program in Japan: A Novel multimodal Community Intervention program to prevent suicide and suicide attempt in Japan, NOCOMIT-J. BMC Public Health 8: 315-322. 2008

¹: Health Center, Keio University, ²: Division of Neuropsychiatry and Center for Dementia, Sendai City Hospital, ³: Department of Psychiatry, Aino University, ⁴: Department of Psychiatry, University of Miyazaki

5) 大野裕¹, 大山博史他：地域における自殺予防活動の重要性とNOCOMIT-Jのかかわり . 精神神経学雑誌 110(3): 216-221, 2008

¹: 慶應義塾大学

6) Oyama H, Sakashita T, Hojo K¹, Ono Y², Watanabe N³, et al.: A Community-based Survey and Screening for Depression in the Elderly: The

Short-term Effect on Suicide Risk in Japan. Crisis, (in press)

¹: Department of Neuropsychiatry, Aomori Rosai Hospital, ²: Health Center, Keio University, ³: Kansai University of International Studies

書籍、単行本等

1) 大山博史: 自殺予防. 在宅ケア事典, 日本在宅ケア学会監修. 2007, 中央法規出版

2) 大山博史: わが国の自殺の疫学と自殺介入の基礎. メンタルヘルスとソーシャルワークによる自殺対策, 大野裕監修. 2008, 相川書房

3) 大山博史: 自殺対策の現状. 国内. 気分障害, 上島国利他編. 2008, 医学書院

学会発表

1) 坂下智恵, 大山博史, 千葉敦子, 鈴木希久子¹, 大平均¹, 八嶋昭子¹, 小又陽子¹, 反町秀吉², 鳥谷部牧子², 渡邊直樹³: 地域調査とうつ病スクリーニングの実施がもたらす自殺率への影響 青森県郡部における地域介入の2年間評価. 第32回日本自殺予防学会, 2008年4月18-19日, 盛岡

¹: 七戸町健康福祉課, ²: 上北地域県民局地域健康福祉部保健総室, ³: 関西国際大学

2) 大山博史: 地域介入によるうつ・自殺予防. 第10回青森継続看護研究集会. 教育講演, 2008年6月21日, 弘前

3) 岩藤裕樹¹, 加賀司¹, 小笠原久美子¹, 工藤清次郎¹, 青柳元記¹, 高橋玲子¹, 大山博史, 坂下智恵: 精神科デイ・ケアにおける報酬付き就労体験プログラムの効果 就労状況を指標とした反応分析. 第13回日本デイケア学会, 平成20年9月19-20日, 東京

¹: 医療法人清照会湊病院

4) 大山博史: 地域介入によるうつ・自殺予防. 第36回日本精神科病院協会精神医学会. 学術教育研修会講演, 2008年10月9-10日, 盛岡

9) 齋藤 史彦

1. 誌上発表

齋藤史彦 社団法人日本社会福祉士養成校協会編 第20回社会福祉士国家試験解説集 中央法規出版 p256~263 平成20年7月

2. 一般発表など

齋藤史彦¹, 鷲岳覚², 飯考行³, 上原健二², 宮崎秀一³: 更生保護活動における学生ボランティアの意義

について - 東京少年友の会学生ボランティアに対するアンケート調査の結果から - 日本ボランティア学会2008年度大会, 2008年6月, 青森県立保健大学, 青森市, 日本ボランティア学会2008年度大会要旨集 p21

¹: 青森県立保健大学, ²: 青森明の星短期大学, ³: 弘前大学

齋藤史彦: 少年に対する「学ボラ」活動がもたらす学生の成長について 日本司法福祉学会第9回大会, 2008年8月, 九州大学, 博多市, 日本司法福祉学会第9回大会資料集 P52

10) 坂下 智恵

1. 誌上発表

・大山博史, 坂下智恵: わが国における高齢者自殺とその予防 現状と課題. 老年精神医学雑誌, 19(2), 153-161, 2008.

・Oyama H, Sakashita T, Ono Y¹, Goto M², Fujita M³, Koida J⁴: Effect of community-based intervention using depression screening on elderly suicide risk: a meta-analysis of the evidence from Japan. Community Mental Health Journal, 44, 311-320, 2008.

¹: 慶應義塾大学, ²: 新潟大学, ³: 新潟精神医療センター, ⁴: 岩手県立二戸病院

・大山博史, 渡邊直樹¹, 大野裕², 坂下智恵: 健康教育と集団援助を用いた地域介入による高齢者自殺予防活動の効果評価. 精神神経学雑誌, 110(9), 731-738, 2008.

¹: 関西国際大学, ²: 慶應義塾大学

・坂下智恵: 自殺へ至る心理的過程. メンタルヘルスとソーシャルワークによる自殺対策, 大野裕監修. 2008, 相川書房. 東京.

2. 一般発表など

・坂下智恵, 大山博史, 千葉敦子, 鈴木希久子¹, 大平均¹, 八嶋昭子¹, 小又陽子¹, 反町秀吉², 鳥谷部牧子², 渡邊直樹³: 地域調査とうつ病スクリーニングの実施がもたらす自殺率への影響 青森県郡部における地域介入の2年間評価. 第32回日本自殺予防学会, 2008年4月18-19日, 盛岡

¹: 七戸町健康福祉課, ²: 上北地域県民局地域健康福祉部保健総室, ³: 関西国際大学

・坂下智恵: 自殺率が高い地域での行政や地域の取

り組みと市民への啓発活動．第7回日本精神保健福祉学会，2008年6月12-14日，横浜

・岩藤裕樹¹、加賀司¹、小笠原久美子¹、工藤清次郎¹、青柳元記¹、高橋玲子¹、大山博史、坂下智恵：精神科デイ・ケアにおける報酬付き就労体験プログラムの効果 就労状況を指標とした反応分析．第13回日本デイケア学会、平成20年9月19-20日、東京

¹:医療法人清照会湊病院

学術論文(誌上発表)

1) Oyama, H., Goto, M., Fujita, M., et al.: Preventing elderly suicide through primary care by community-based screening for depression in rural Japan. *Crisis* 27(2): 58-65, 2006

2) Oyama, H., Ono, Y., Watanabe, N., et al.: Local community intervention through depression screening and group activity for elderly suicide prevention. *Psychiatry Clin. Neurosciences* 60: 110-114, 2006

3) Oyama, H., Fujita, M., Goto, M., et al.: Outcomes of community-based screening for depression and suicide prevention among Japanese elders. *Gerontologist* 46(6): 821-826, 2006

4) 大山博史, 森本しげみ, 渡邊洋一, 坂下智恵, 駒田亜衣, 千葉敦子: 地域介入による高齢者自殺予防: 本邦における介入研究の分析と統合. *ストレス科学* 21(1): 1-10, 2006

5) 大山博史, 渡邊洋一, 坂下智恵, 駒田亜衣, 千葉敦子, 森本しげみ: わが国の自殺予防対策と最近のエビデンス 地域介入による高齢者自殺予防活動のレビュー. *青森県立保健大学雑誌*第7巻第1号: 157-160, 2006

6) Oyama, H., Watanabe, N., Ono, Y., et al.: Community-based prevention through group activity for elderly successfully reduced the high suicide rate for females. *Psychiatry Clin. Neurosciences* 59: 337-344, 2005

7) Oyama H, Koita J, Sakashita T, Kudo K. Community-based prevention for suicide in elderly by screening and follow-up. *Community Ment. Health J.* 2004; **40**: 249-63.

8) 大山博史, 小井田潤一, 工藤啓子, 他: 岩手県浄法寺町における高齢者自殺に対する予防的介入 う

つ状態スクリーニングと住民啓発によるアプローチ. *精神医学* 45: 37-47, 2003

9) 大山博史: うつ病の地域連携. うつ状態スクリーニングによる高齢者自殺予防活動. *JIM* 11: 817-821, 2002

10) Ono Y, Tanaka E, Oyama H *et al*. Epidemiology of suicidal ideation and help-seeking behaviors among the elderly in Japan. *Psychiatry Clin. Neurosci.* 2001; **55**: 605-10.

学会発表

1) 大山博史: わが国における地域の自殺予防活動の成果. 第21回日本ストレス学会学術総会, 2005年10月1日-2日, 東京.

2) 大山博史: こころの健康と自殺予防. 第6回コミュニティワーク実践学会, 2006年9月2日, 松山市.

著書

1) 大山博史, 大野裕, 渡邊洋一編: 自殺対策のソーシャルワーク 精神保健と地域福祉の協働と, 社協活動への期待. 2006年, 相川書房, 東京.

2) 大山博史他編: 高齢者支援のための精神医学. 診断と治療社. 東京, 2003

3) 大山博史編: 保健・医療・福祉の連携による高齢者自殺予防マニュアル. 診断と治療社. 東京, 2003

11) 渡邊 洋一

a 学術論文

自殺対策と地域福祉に関する研究 日本生命共済会福祉事業部 2008

共著論文 なし

b 総説・報告書他

報告書 青森県黒石市社協市民福祉意識調査報告書 地域連携国際センター教育改善事業

サブキリスト 地域福祉用語事典の編著し印刷

サブテキスト 地域福祉サブテキストの編著し印刷

c 書籍・テキスト他

共著: 渡邊 洋一他「メンタルヘルスとソーシャルワークによる自殺対策」2008年9月 相川書房 東京

共著 渡邊 洋一: 地域福祉論、社会福祉士養成講座7巻2-9p. 2009年1月 中央法規 東京

共著 渡邊 洋一: 社会福祉援助技術論、社会福祉

学習双書 8 巻、198 - 205p . 2009 年 1 月 全社協
東京

d 学会発表

日本地域福祉学会東北部会「」

12) 安田 勉

学会発表

- ・ 安田勉「現代心理療法の潮流 - 社会構成主義が導くもの」東北心理科学研究会夏の集会、2008 年 9 月

学術論文など

- ・ 安田勉「青年期の発達と児童養護施設における支援 各施設からの事例をもとに」『児童養護あおもり』第 24 号、2009 年 3 月

講演等

- ・ 安田勉：青森県児童相談所児童福祉司研修会 講師(ソーシャルワーカーのための面接技法) 青森県中央児童相談所主催、2008 年 5 月
- ・ 安田勉：平成 20 年度訪問看護師養成研修会 講師(面接技術) 青森県看護協会主催、2008 年 6 月
- ・ 安田勉：秋田県栄養士会研修会(栄養指導のための面接技術) 講師、秋田県栄養士会主催、2008 年 6 月
- ・ 安田勉：平成 20 年度介護支援専門員研修会 講師(対人個別援助技術) 青森県介護支援専門員協会主催、2008 年 7 月
- ・ 安田勉：青森県立中央病院研修会 講師(家族面接の技法) 青森県立中央病院主催、2008 年 7 月
- ・ 安田勉：第 24 回青森県学校教育相談研究会研修会 講師(教育相談に活かすブリーフセラピー) 青森県学校教育相談研究会主催、2008 年 7 月
- ・ 安田勉：平成 20 年度施設等相談援助職員中堅研修会 講師(面接技法とコミュニケーション) 秋田県福祉保健研修センター主催、2008 年 8 月
- ・ 安田勉：六戸町地域包括支援センター研修会 講師(面接技法) 六戸町主催、2008 年 9 月
- ・ 安田勉：平成 20 年度介護福祉基礎講座 講師(老人・障害者の心理) 青森県社会福祉協議会主催、2008 年 9 月
- ・ 安田勉：青森県栄養士会研修会 講師(生活指導およびメンタルヘルス) 青森県栄養士会主催、2008 年 9 月
- ・ 安田勉：八戸市地域包括支援センター研修会 講師(対人支援においてコミュニケーションスキルを

アップ

させるために) 八戸市主催、2008 年 9 月

- ・ 安田勉：白百合ホーム母の会研修会 講師(思春期の子どもの接し方) 白百合ホーム主催、2009 年 2 月

- ・ 安田勉：平成 20 年度福祉オンブズマン養成講座(中級) 講師(利用者の思いを受け止めるコミュニケーション) セーフティネットあおもり主催、2009 年 3 月

- ・ 安田勉：青森県学校教育相談学会研修会 講師(教育相談に活かすブリーフセラピー) 日本学校教育相談学会青森県支部主催、2009 年 3 月

1) 浅田 豊

学術論文(原著)

浅田豊：大谷良光、太田伸也、猪瀬武則、蝦名敦子、村山正明、佐藤崇之、浅田豊：教科教育法をコアとした体系的「授業力基礎」養成カリキュラムの在り方．日本教育大学協会研究年報 第27集、p319-331．2009年3月．

学術論文(総説・論説など)

浅田豊：子どもの心と体を守り育てるには～テレビやゲーム、携帯電話、インターネット等が子どもたちに与える影響～．きずな 第119号、p4．2008年12月．

学会発表・学術講演など

浅田豊：豊かな心と学力を育てる体験活動のススメ．地域活動実践セミナー 地域の教育力を高める子どもの活動サポーター養成講座講演 青森県教育委員会主催 青森県総合社会教育センター、2008年7月．

浅田豊：子どもにとっての遊びとは．放課後子どもプラン合同指導者研修会講演 東青教育事務所主催、青森県総合社会教育センター、2008年10月．

浅田豊：青森県放課後子どもプラン推進委員会委員．青森県教育委員会 2008年．

浅田豊：青森県高大連携キャリア形成支援事業委員．青森県教育委員会 2008年．

浅田豊：竹森幸一、浅田豊他：24時間尿中塩類の簡易測定法．日本循環器病予防学会誌 第43巻1号、p41．2008年4月．

2) 羽入 辰郎

羽入辰郎：学問とは何かー「マックス・ヴェーバーの犯罪」その後、1-560、2008年6月、ミネルヴァ書房、京都。

羽入辰郎：支配と服従の倫理学、1-309、2009年2月、ミネルヴァ書房、京都。

3) 廣森 直子

総説・論説

- ・ 廣森直子：社会教育．女性白書2008，日本婦人団体連合会編，161-164，2008

報告書

- ・ 山内修，廣森直子：特別支援学校（知的障害）青年学級調査報告書（平成20年度科学研究費補助金報告書 知的障害者の生涯学習にかかわる地域ネットワークづくりに関する研究）．2009.3

シンポジスト

- ・ 廣森直子：指定管理者制度の諸問題 第19回 東北の社会教育研究集会シンポジウム，弘前市石川公民館，2008.11.15

学会発表（口頭）

- ・ 廣森直子、富永貴公、平川景子：男女平等の組織づくりと当事者の学び．日本社会教育学会第55回研究大会，和歌山大学，2008.9.20
- ・ 廣森直子、山内修：青森県におけるNPO法人の現状と課題．日本ボランティア学会2008年度大会，青森県立保健大学，2008.6.29
- ・ 廣森直子：NPOのミッションと運営 - 福祉系NPOの事例から - ．第32回教育社会学・社会教育学東北・北海道研究集会，東北大学，2008.6.1

学会の開催

- ・ 日本ボランティア学会2008年度大会，青森県立保健大学，2008.6.28-29（運営事務局）

4) 岩井 邦久

a 学術論文(原著)

1) Nishijima, T., Iwai, K., Saito, Y., Takida, Y., Matsue, H.: Chronic ingestion of apple pectin can enhance the absorption of quercetin. *J. Agric. Food Chem.* **57** (6), 2583-2587, 2009.

2) Iwai, K.: Antidiabetic and antioxidant effects of polyphenols in brown alga *Ecklonia stolonifera* in genetically diabetic KK-A^y mice. *Plant Food Human Nutr.*, **63** (4), 163-169, 2008.

3) Iwai, K., Kuramoto, S., Matsue, H.,: Suppressing effect of *Apios americana* on blood pressure in SHR and its active peptide. *J. Clin. Biochem. Nutr.*, **43**, 315-318, 2008.

4) Nishijima, T., Iwai, K., Takida, Y., Saito, Y., Matsue, H.: High-methoxylated apple pectin enhances the intestinal absorption of quercetin.

Polyphenol Communications 2008, 2, 813-814, 2008.

b 総説など

1) Iwai, K.: Healthy Benefits and Bioactive Phenolic Compounds in the Fruit of *Viburnum dilatatum* Thunb. Recent Progress in Medicinal Plants, Vol.23, Phytopharmacology & Therapeutic Values V., pp.121-140, 2008.

2) 岩井邦久, 川村仁, 松江一, 森永八江, 小渡晃: アピオス花の生理作用および作用成分の解明, ならびに有効利用に関する研究. 青森県立保健大学実用技術開発研究最終報告書, 2009.

3) 岩井邦久, 松江一: 海藻ツルアラメの生理作用と機能性成分に関する研究. 作用成分 (α -グルコシダーゼ阻害成分) の同定と活性画分の血糖上昇抑制効果の検討. 青森県立保健大学健康科学特別研究(基盤A) 最終報告書, 2009.

4) 松江一, 森永八江, 岩井邦久, 富田秀弘, 奈良岡哲志: エチゼンクラゲの分子解剖学的研究を根拠にした有効利用. 青森県立保健大学健康科学特別研究(基盤A) 最終報告書, 2009.

5) 岩井邦久: 今年の健康食品のキーワードは栄養素. 医療・健康福祉関連ビジネスサロン・ちょこっとコラム Vol.31, 2009.

6) 岩井邦久: ガマズミの想い (4) 地域の人々の元気と体験談. 医療・健康福祉関連ビジネスサロン・ちょこっとコラム Vol.27, 2009.

7) 岩井邦久: 危機意識・危機管理能力を高めて. 医療・健康福祉関連ビジネスサロン・ちょこっとコラム Vol.23, 2008.

8) 岩井邦久: メタボと特定健診・保健指導. 医療・健康福祉関連ビジネスサロン・ちょこっとコラム Vol.20, 2008.

c 書籍など

1) 岩井邦久: 長イモジュースのカリウムが、高血圧を撃退する. 血圧がムリなく下がる100のコツ, 主婦の友社編, pp.138-139, 主婦の友, 2008.

2) 岩井邦久: 長イモジュース. 最新血糖値を下げる知恵とコツ, 主婦の友ベスト BOOKS, 主婦の友社編, pp.106-107, 主婦の友, 2008.

d. 学会発表

1) 森永八江, 富田秀弘, 奈良岡哲志, 岩井邦久, 松

江一: エチゼンクラゲ由来ペプチドの血圧降下作用に関する研究. 日本農芸化学会 2009 年度大会, 福岡市, 2009/3/27.

2) 川村仁, 岩井邦久, 松江一, 小渡晃, 北村勉, 松尾俊介: アピオス花による新規機能性成分の探索. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

3) 森永八江, 岩井邦久, 松江一, 奈良岡哲志: 食酢に含まれる酢酸以外の降圧成分の構造と機能に関する研究. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

4) 松江一, 森永八江, 岩井邦久, 富田秀弘, 奈良岡哲志: エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの配列に関する研究. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

5) 岩井邦久: 共同研究から生まれた「ガマズミ活用研究会」・・・実用化のために. 第2回北東北地域イノベーションフォーラム, 青森市, 2009/1/27.

6) 岩井邦久: あおもり型産学官連携モデルの構築に向けて. あおもり産学換金連携フォーラムパネルディスカッション, 青森市, 2009/1/27.

7) 川村仁, 岩井邦久, 松江一, 小渡晃, 北村勉, 松尾俊介: アピオス花の生理活性および活性成分の探索. 第13回JSOFF(日本フードファクター学会)大会, 東京都, 2008/11/17.

8) 柏倉大作, 岩井邦久, 松江一, 原高明: 褐藻ツルアラメ・ポリフェノールのグルコシダーゼ阻害活性に関する研究. 第13回JSOFF(日本フードファクター学会)大会, 東京都, 2008/11/17.

9) 岩井邦久, 西嶋智彦, 瀧田佳樹, 齋藤康雄, 松江一: フラボノイドの吸収に及ぼすりんご由来ペクチンの影響. 第2回東北糖鎖研究会, 弘前市, 2008/9/26.

10) 岩井邦久, 西嶋智彦, 瀧田佳樹, 齋藤康雄, 松江一: ケルセチンのマウス体内動態に及ぼすりんごペクチンの影響. 日本食品科学工学会第55回大会, 京都市, 2008/9/6.

11) Nishijima, T., Iwai, K., Takida, Y., Saito, Y., Matsue, H.: High-methoxylated apple pectin enhances the intestinal absorption of quercetin. 24th International Conference on Polyphenol, Salamanca, Spain, 2008/7/8-11.

12) 岩井邦久: 『“あおもりならではのメタボ対策関連ビジネス”事業展開のヒント』. ヘルスアップビ

ジネスセミナー，青森市，2008/6/3.

13)西嶋智彦，岩井邦久，瀧田佳樹，齋藤康雄，松江一：ケルセチン吸収に及ぼすりんご由来ペクチンの影響．第62回日本栄養・食糧学会大会，坂戸市，2008/5/4.

14)森永八江，岩井邦久，富田秀弘，奈良岡哲志，松江一：エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの分離精製．第62回日本栄養・食糧学会大会，坂戸市，2008/5/4.

e 学会、研究室、地方会などの主催

1)ガマズミ活用研究会，2008年6月27日（八戸市），2008年11月7日（三戸町）.

f 特許など（承認されたタイトル、決定日など）

1)特許出願。「フラボノイド生体吸収促進用組成物、これを用いたフラボノイド生体吸収促進用飲食物及びその製造方法」特願2008-160121，保健大（岩井邦久，松江一），グリコ乳業，2008年6月19日.

2)特許出願。「a-グルコシダーゼ阻害剤」特願2009-22196，保健大（岩井邦久），株式会社ユニアル，NPO法人青森県新エネルギー創生研究会，2009年2月3日.

その他・共同研究契約

1) 課題名：ツルアラメの生理効果に関する研究【更新】.

機関：青森県立保健大学（岩井邦久），NPO法人アネック，株式会社ユニアル

契約期間：2008年5月1日～2009年3月31日

2) 課題名：ペクチンの生理効果に関する研究【更新】.

機関：青森県立保健大学（岩井邦久，松江一），グリコ乳業株式会社中央研究所

契約期間：2008年5月1日～2009年3月31日

3) 課題名：ガマズミ残渣の有効利用に関する研究【継続】.

機関：青森県立保健大学（岩井邦久），株式会社小野寺醸造元

契約期間：2006年11月1日～2009年3月31日

4) 課題名：アピオス花の生理作用と有効利用に関する研究【継続】.

機関：青森県立保健大学（岩井邦久），株式会社倉石地域振興公社

契約期間：2006年12月1日～2009年3月31日

5) 井澤 弘美

学術論文（原著）

Hiromi IZAWA, Machiko KOHARA, Koichi AIZAWA, Hiroyuki SUGANUMA, Takahiro INAKUMA, Gen WATANABE, Kazuyoshi TAYA and Masaru SAGAI. Alleviative effects of quercetin and onion on male reproductive toxicity induced by diesel exhaust particles. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* 72(5), 1235-1241, 2008

井澤弘美，駒田亜衣，山田真司，大山博史，福田誠，嵯峨井勝. 国保レセプトと住民基本健康診断データを用いた「脳卒中」と「虚血性心疾患」のリスクスコア計算法の的中度の比較. *日本ヒューマンケア科学会誌* 1(1), 61-69, 2008.

駒田亜衣，山田真司，森永八江，井澤弘美，佐藤伸，嵯峨井勝. 食品群および栄養素等摂取量の脳卒中発症への影響について～リスクスコアによる解析～. *日本ヒューマンケア科学会誌* 1(1), 32-42, 2008.

山田真司，駒田亜衣，森永八江，井澤弘美，佐藤伸，嵯峨井勝. 加齢変化と健康指標 Japanese Health Practice Index (JHPI)の関連について. *日本ヒューマンケア科学会誌* 1(1), 70-76, 2008.

駒田亜衣，森永八江，山田真司，井澤弘美，佐藤伸，嵯峨井勝. 基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養素等摂取の比較に関する研究. *栄養学雑誌* 66(2), 69-76, 2008.

駒田亜衣，森永八江，山田真司，佐藤伸，井澤弘美，嵯峨井勝. 基本健康診査データから計算した男性の心疾患リスクスコアと食事摂取量に関する研究. *Health Sciences*, 24(4), 365-374, 2008.

学会発表

齋藤三季，戸羽隆宏，井澤弘美，柴田浩夫，長田恭一．りんご鹿角霊芝摂取による脂質代謝調節作用の解明. *日本農芸化学会2008年度大会* 2008年3月．木村郁子，井澤弘美，駒田亜衣，山田真司，森永八江，佐藤伸，嵯峨井勝．住民基本健診データから、生活習慣病の一次予防に資するリスク推定に関する研究．第40回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2008年7月．

Masaru Sagai, Ai Komada, Hiromi Izawa, Yae Morinaga, Shin Sato, Masashi Yamada . On the Prevalence of Metabolic Syndrome in Residents Received Annual Health Check-up . 第 40 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 . 2008 年 7 月 .

山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 佐藤伸, 井澤弘美, 嵯峨井勝 . 生活習慣問診表質問項目の生活習慣病に対する寄与の検討 . 日本健康科学学会第 24 回学術大会 . 2008 年 9 月 .

木村郁子, 嵯峨井勝, 井澤弘美, 木村健一 . 住民基本健診データを活用した CKD に関わる危険因子の解析 . 第 46 回日本糖尿病学会東北地方会 . 2008 年 11 月 .

山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 佐藤伸, 井澤弘美, 嵯峨井勝 . Japanese Health Practice Index 適用可能性に関する研究 第 67 回日本公衆衛生学会総会 . 2008 年 11 月 .

井澤弘美, 小原麻智子, 相澤宏一, 菅沼大行, 稲熊隆博, 渡辺元, 田谷一善, 嵯峨井勝 . ディーゼル排気微粒子が引き起こす雄性生殖毒性に対するケルセチンおよびタマネギによる毒性軽減効果 . 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会 . 2009 年 2 月 .

井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 大山博史, 福田誠, 嵯峨井勝 . 国保レセプトと住民基本健康診断データを用いた「脳卒中」と「虚血性心疾患」のリスクスコア計算法の的中度の比較 . 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会 . 2009 年 2 月 .

6) 熊谷 貴子

a 報告書

1) 伊藤治幸, 熊谷貴子, 清水健史, 木村 緑¹, 藤井博英 : 地域で生活する精神障がい者の栄養摂取状況の実態と食行動に影響を及ぼす要因の検討, 青森県立保健大学 2007 年特別研究報告書, 2008 .

¹ : 十和田済誠会病院

2) 中村由美子, 藤田修三, 吉池信男, 渡邊洋一, 川口 徹, 山道弘子, 杉本晃子, 三津谷恵, 熊谷貴子, 内城絵美, 市川美奈子, 牧野正蔵¹, 村井純二² : 下北地域における小児の肥満予防のためのケアシステムの構築, 青森県立保健大学 2007 年特別研究報告書, 2008 .

¹ : むつ市教育長, ² : むつ下北地区校長会長

b 国内外で開催された学会発表

1) 熊谷貴子, 花田玲子¹ : 栄養士養成課程で学ぶ女子大生の食意識と栄養摂取状況, 日本調理科学学会平成 20 年度大会, 名古屋市, 2008.8.29-30 .

¹ : 東北女子大学

2) 熊谷貴子, 森永八江, 野川綾香, 藤田修三 : モチ小麦の特性を活かした摂食・嚥下補助食品の開発, 日本応用糖質科学会平成 20 年度大会 (第 57 回), 沖縄県, 2008.9.18-20 .

c その他

1) 熊谷貴子 : 青森県立保健大学栄養学科がスタートして, (社) 青森県栄養士会, 栄養青森 21, 2008.2

7) 松江 一

a 学術論文 (原著)

1) Nishijima, T., Iwai, K., Saito, Y., Takida, Y., Matsue, H.: Chronic ingestion of apple pectin can enhance the absorption of quercetin. *J. Agric. Food Chem.* **57** (6), 2583–2587, 2009.

2) Iwai, K., Kuramoto, S., Matsue, H.: Suppressing effect of *Apios americana* on blood pressure in SHR and its active peptide. *J. Clin. Biochem. Nutr.*, **43**, 315-318, 2008.

3) Nishijima, T., Iwai, K., Takida, Y., Saito, Y., Matsue, H.: High-methoxylated apple pectin enhances the intestinal absorption of quercetin. *Polyphenol Communications* 2008, **2**, 813-814, 2008.

4) H. Hajime, M-Y. Kim and K.Iwai: The Approach Health-benefit Functional Food from Regional Bio-resources, 3-7, 2008

5) H.Hajime: Food resource, health, and local industry. *Food Preservation and Processing Industry*, 20-25, 2008

6) 鄭憲植, 鄭信教, 岩井邦久, 松江一 : 青森における食品機能食品の開発の現状 (ハングル版翻訳), 2008

b 総説など

2) 岩井邦久, 川村仁, 松江一, 森永八江, 小渡晃: アピオス花の生理作用および作用成分の解明, ならびに有効利用に関する研究. 青森県立保健大学実用技術開発研究最終報告書, 2009.

3) 岩井邦久, 松江一: 海藻ツルアラメの生理作用と機能性成分に関する研究. — 作用成分 (a-グルコシ

ダーゼ阻害成分) の同定と活性画分の血糖上昇抑制効果の検討 — 青森県立保健大学健康科学特別研究 (基盤 A) 最終報告書, 2009.

4) 松江一, 森永八江, 岩井邦久, 富田秀弘, 奈良岡哲志: エチゼンクラゲの分子解剖学的研究を根拠にした有効利用. 青森県立保健大学健康科学特別研究 (基盤 A) 最終報告書, 2009.

c 書籍および依頼原稿など

1) 松江一, 奈良岡哲志, 内沢秀光, 高谷芳明: イカスミに含まれる機能性成分. 食品機能性の科学, 食品機能性の科学編集委員会, (株)産業技術サービスセンター, 756-765, 2008.

2) 松江一: 青森県立保健大学大学院健康科学研究科の現状と展望. 青森保健大雑誌, 9(2), 167-170, 2008.

d. 学会発表

1) 森永八江, 富田秀弘, 奈良岡哲志, 岩井邦久, 松江一: エチゼンクラゲ由来ペプチドの血圧降下作用に関する研究. 日本農芸化学会 2009 年度大会, 福岡市, 2009/3/27.

2) 川村仁, 岩井邦久, 松江一, 小渡晃, 北村勉, 松尾俊介: アピオス花による新規機能性成分の探索. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

3) 森永八江, 岩井邦久, 松江一, 奈良岡哲志: 食酢に含まれる酢酸以外の降圧成分の構造と機能に関する研究. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

4) 松江一, 森永八江, 岩井邦久, 富田秀弘, 奈良岡哲志: エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの配列に関する研究. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会, 青森市, 2009/2/13.

5) 川村仁, 岩井邦久, 松江一, 小渡晃, 北村勉, 松尾俊介: アピオス花の生理活性および活性成分の探索. 第 13 回 JSoFF (日本フードファクター学会) 大会, 東京都, 2008/11/17.

6) 柏倉大作, 岩井邦久, 松江一, 原高明: 褐藻ツルアラメ・ポリフェノールのグルコシダーゼ阻害活性に関する研究. 第 13 回 JSoFF (日本フードファクター学会) 大会, 東京都, 2008/11/17.

7) 岩井邦久, 西嶋智彦, 瀧田佳樹, 齋藤康雄, 松江一: フラボノイドの吸収に及ぼすリンゴ由来ペクチンの影響. 第 2 回東北糖鎖研究会, 弘前市,

2008/9/26.

8) 岩井邦久, 西嶋智彦, 瀧田佳樹, 齋藤康雄, 松江一: ケルセチンのマウス体内動態に及ぼすりんごペクチンの影響. 日本食品科学工学会第 55 回大会, 京都市, 2008/9/6.

9) Nishijima, T., Iwai, K., Takida, Y., Saito, Y., Matsue, H.: High-methoxylated apple pectin enhances the intestinal absorption of quercetin. 24th International Conference on Polyphenol, Salamanca, Spain, 2008/7/8-11.

10) 西嶋智彦, 岩井邦久, 瀧田佳樹, 齋藤康雄, 松江一: ケルセチン吸収に及ぼすりんご由来ペクチンの影響. 第 62 回日本栄養・食糧学会大会, 坂戸市, 2008/5/4.

11) 森永八江, 岩井邦久, 富田秀弘, 奈良岡哲志, 松江一: エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの分離精製. 第 62 回日本栄養・食糧学会大会, 坂戸市, 2008/5/4.

e 他大学などの主催

1) 松江一: 大学院教育の FD で今求められているものは? 弘前大学 FD 研修会, 2008

f 特許など (承認されたタイトル、決定日など)

1) 特許出願. 「フラボノイド生体吸収促進用組成物、これを用いたフラボノイド生体吸収促進用飲食物及びその製造方法」特願 2008-160121, 保健大 (岩井邦久, 松江一), グリコ乳業, 2008 年 6 月 19 日.

その他・共同研究契約

1) 課題名: ペクチンの生理効果に関する研究【更新】. 機関: 青森県立保健大学 (岩井邦久, 松江一), グリコ乳業株式会社中央研究所
契約期間: 2008 年 5 月 1 日 ~ 2009 年 3 月 31 日

8) 森永 八江

a 学術論文 (原著)

1) 駒田亜衣, 森永八江, 山田真司, 井澤弘美, 佐藤伸, 嵯峨井勝: 基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養素等摂取量の比較に関する研究, 栄養学雑誌, 66, 69-76, 2008.

2) 駒田亜衣¹, 森永八江, 山田真司, 佐藤伸, 井澤弘美, 嵯峨井勝: 基本健康診査データから計算した

男性の心疾患リスクスコアと食事摂取量に関する研究、日本健康科学学会誌、24、365-374,2008 .

¹ : 三重短大

b 報告書

1) 森永八江、松江一、岩井邦久、奈良岡哲志¹ : 食酢に含まれる酢酸以外の降圧成分の構造と機能に関する研究、青森県立保健大学 2007 年特別研究報告書,2008 .

¹ : 青森県工業総合研究セ

2) 松江一、森永八江、岩井邦久、富田秀弘¹、奈良岡哲志² : エチゼンクラゲの分子解剖学的研究を根拠にした有効利用、青森県立保健大学 2007 年特別研究報告書,2008 .

¹ : 青森県ふるさと食品研究セ、² : 青森県工業総合研究セ

3) 岩井邦久、川村仁、松江一、森永八江、小渡晃¹ : アピオス花の生理作用および作用成分の解明、ならびに有効利用に関する研究、2007 年実用技術開発研究報告書,2008 .

¹ : 株式会社倉石地域振興公社

d 国内外で開催された学会発表

1) 森永八江、岩井邦久、富田秀弘¹、奈良岡哲志²、松江一 : エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの分離精製、第 62 回日本栄養・食糧学会大会、坂戸市、2008.5.2-4 .

¹ : 青森県ふるさと食品研究セ、² : 青森県工業総合研究セ

2) 佐藤伸、舩甚早紀、向井友花、森永八江、藤田修三 : ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットの酸化ストレスに及ぼす新素材リグノフェノールの影響、第 62 回日本栄養・食糧学会大会、坂戸市、2008.5.2-4 .

3) 駒田亜衣¹、山田真司、森永八江、井澤弘美、佐藤伸、嵯峨井勝 : 脳卒中と心疾患の推定リスクを知った健診受診者の各リスクの年次的低下効果について、第 40 回日本動脈硬化学会総会、2008.7.10-11 .

¹ : 三重短大

4) 嵯峨井勝、駒田亜衣¹、井澤弘美、森永八江、佐藤伸、山田真司 : 住民基本健診受診者に占めるメタボリックシンドロームの割合について。第 40 回日本動脈硬化学会総会、2008.7.10-11 .

¹ : 三重短大

5) 木村郁子、井澤弘美、駒田亜衣¹、山田真司、森永八江、佐藤伸、嵯峨井勝 : 住民基本健診データから、生活習慣病の一次予防に資するリスク推定に

関する研究。第 40 回日本動脈硬化学会総会、2008.7.10-11 .

¹ : 三重短大

6) 藤田修三、佐藤由貴江、森永八江、船岡正光¹、佐藤伸 : 食物繊維リグニン誘導体によるラットの血圧低下効果について、日本ペット栄養学会、2008.7.20 .

¹ : 三重大

7) Y. Morinaga, A. Komada¹, C. Saitoh², S. Sato, H. Izawa, S. Fujita: Effect of health education program on the health indices of local residents, 15th International Congress of Dietetics (ICD 2008), Yokohama , 2008.9.8-11 .

¹ : Tsu City College ,² : Kuroishi General Hospital

8) A. Komada¹, M. Yamada, Y. Morinaga, H. Izawa, S. Sato, M. Sagai: Influence of dietary constituents on stroke risk score, 15th International Congress of Dietetics (ICD 2008), Yokohama , 2008.9.8-11 .

¹ : Tsu City College

9) 熊谷貴子、森永八江、野川綾香、藤田修三 : モチ小麦の特性を活かした摂食・嚥下補助食品の開発、日本応用糖質科学会平成 20 年度大会 (第 57 回) 沖縄県、2008.9.18-20 .

10) 森永八江、松江一、森山より子¹ : 朝食に関する講話が小学生の朝食に及ぼす影響、日本ヒューマンケア科学学会第 1 回学術集会、青森市、2008.9.27 .

¹ : 小柳小

11) 駒田亜衣¹、山田真司、森永八江、佐藤伸、井澤弘美、嵯峨井勝 : 食事指導におけるアセスメント問診票の活用、日本ヒューマンケア科学学会第 1 回学術集会、青森市、2008.9.27 .

¹ : 三重短大

12) 駒田亜衣¹、山田真司、森永八江、佐藤伸、井澤弘美、嵯峨井勝 : 健康指数と栄養素等摂取量および食品群別摂取量との関連に関する研究、第 67 回日本公衆衛生学会総会、2008.11.5-7、福岡市 .

¹ : 三重短大

13) 山田真司、駒田亜衣、森永八江、佐藤伸、井澤弘美、嵯峨井勝 : Japanese Health Practice Index 適用可能性に関する研究。第 67 回日本公衆衛生学会総会、2008.11.5-7、福岡市

14) 山田真司、駒田亜衣¹、森永八江、佐藤伸、井澤弘美、嵯峨井勝 : 生活習慣問診表質問項目の生活

習慣病に対する寄与の検討。日本健康科学学会第24回学術大会, 2008.9.27-28, 女子栄養大学, 坂戸市。

¹: 三重短大

15) 松江一、森永八江、岩井邦久、富田秀弘¹、奈良岡哲志²: エチゼンクラゲの有効利用を目的とした降圧ペプチドの配列に関する研究、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009.2.13、青森市。

¹: 青森県ふるさと食品研究セ、²: 青森県工業総合研究セ

16) 森永八江、奈良岡哲志¹、岩井邦久、松江一: 食酢に含まれる酢酸以外の降圧成分の構造と機能に関する研究、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009.2.13、青森市。

¹: 青森県工業総合研究セ

17) 山田真司、駒田亜衣¹、森永八江、佐藤伸、井澤弘美、嵯峨井勝: 生活習慣問診表質問項目の生活習慣病スクリーニングテスト精度に関する検討、2008年度青森県保健医療福祉研究発表会、2009.2.13、青森市。

¹: 三重短大²: つくば健康生活研究所

9) 向井 友花

学術論文(原著)

Mukai Y, Sato S. Polyphenol-containing azuki bean (*Vigna angularis*) extract attenuates blood pressure elevation and modulates nitric oxide synthase and caveolin-1 expressions in rats with hypertension. *Nutr Metab Cardiovasc Dis* doi: 10.1016/j.numecd.2008.09.007

報告書など

Sato S, Mukai Y, Hatai A, Sagai M. Effect of polyphenol-containing azuki bean extract on blood pressure and endothelial nitric oxide synthase and caveolin-1 expressions in spontaneously hypertensive rats. *Clin Exp Hypertens* 30(6): 459, 2008.

学会発表

1) 佐藤伸、舩甚早紀、向井友花、森永八江、藤田修三: ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットの酸化ストレスに及ぼす新素材リグノフェノールの影響。第62回日本栄養・食糧学会大会, 2008年5月2日-4日, 女子栄養大学, 埼玉。

2) 向井友花、畑井朝子¹、佐藤伸: 食物繊維含有アズキ抽出物が脳卒中易発性自然発症高血圧ラット

(SHRSP)の血圧上昇に及ぼす影響。日本家政学会第60回大会, 2008年5月30日-6月1日, 日本女子大学, 東京。

¹: 函館短期大学

3) 佐藤伸、向井友花、嵯峨井勝: 高血圧自然発症ラットの腎臓及び心臓中のマクロファージ浸潤に及ぼすアズキ抽出物の影響。第40回日本動脈硬化学会学術集会, 2008年7月10日-11日, つくば国際会議場, 茨城。

4) 向井友花、畑井朝子¹、佐藤伸: 脳卒中易発症高血圧自然発症ラット(SHRSP)の血圧と酸化ストレスに及ぼす食物繊維含有アズキ抽出物の影響。日本食品科学工学会第55回大会, 2008年9月5日-7日, 京都大学, 京都。

¹: 函館短期大学

5) 向井友花、佐藤伸: 食物繊維含有アズキ抽出物の脳卒中発症モデルラットにおける血圧上昇抑制効果。日本ヒューマンケア科学学会第1回学術集会, 2008年9月27日, 青森県立保健大学, 青森。

6) 向井友花、畑井朝子¹、佐藤伸: ポリフェノール含有アズキ抽出物の血圧降下作用と一酸化窒素合成酵素の発現に及ぼす影響。日本家政学会東北・北海道支部第53回研究発表会, 2008年10月4日, 弘前大学, 青森。

¹: 函館短期大学

7) SATO S, MUKAI Y, YAMATE J¹: Protective effect of plant polyphenols-containing azuki bean (*Vigna angularis*) on renal damage. Ehrlich II - 2nd World Conference on Magic Bullets, October 3 - 5, 2008, Germany.

¹: Osaka Pref. Univ.

8) 佐藤伸、向井友花、乗鞍敏夫、藤田修三、三亀啓吾¹、船岡正光¹: リグノフェノールのメタボリックシンドロームにおける生理的意義と応用。JST-SORST船岡正光研究プロジェクト総括シンポジウム 2009年1月14日-15日, 日本科学未来館, 東京。

¹: 三重大・院・生物資源, SORST JST

特許など

特許出願「動脈硬化症予防改善剤および動脈硬化症予防方法」特願2009-077625, 保健大(佐藤伸、向井友花) 2009年3月26日。

10) 乗鞍 敏夫

学術論文 (原著)

- 1) Anti-obesity effect of *blumea balsamifera* extract in 3T3-L1 preadipocytes and adipocytes, H. Kubota, R. Morii, A. Kojima-Yuasa, X. Huang, T. Norikura, S.N. Rho, I.Matsui-Yuasa, Am. J. Chi. Med., (in press)
- 2) (1'S)-Acetoxychavicol acetate and its enantiomer inhibit tumor cells proliferation via different mechanisms, S. Xu, A. Kojima-Yuasa, H. Azuma, X. Huang, T. Norikura, D.O. Kennedy, I.Matsui-Yuasa, Chem. Biol. Interact., 172(3), 216-223, 2008
- 3) Green tea extract enhances the selective cytotoxic activity of *Zyzyphus jujube* extract in HepG2 cells, X. Huang, A. Kojima-Yuasa, S. Xu, T. Norikura, D.O. Kennedy, Hasuma T, I. Matsui-Yuasa, Am. J. Chi. Med., 査読有り, 36(4), 729-744, 2008

学会発表

- 1) 乗鞍敏夫, 湯浅 (小島) 明子、湯浅勲: *Blumea balsamifera*のガン細胞増殖抑制効果とその作用機構について. 日本栄養・食糧学会 第47回近畿支部大会, 2008年10月25日, 奈良女子大学, 奈良.
- 2) 佐藤 伸, 向井友花, 乗鞍敏夫, 藤田修三, 三亀啓吾¹, 船岡正光¹: リグノフェノールのメタボリックシンドロームにおける生理的意義と応用. JST-SORST船岡正光研究プロジェクト総括シンポジウム, 2009年1月14日 15日, 日本科学未来館, 東京.

11) ノールズ アラン

[学会発表]

ノールズ・アラン、大関信子: 乳幼児を持つ海外在住日本人母親の精神健康度調査: 海外3市のメタ分析第.67回日本公衆衛生学会学術集会、福岡市、抄録集p651 平成20年11月5日.

ノールズ・アラン、大関信子、佐藤愛、山本真樹子、根谷裕綾乃: 乳幼児を持つ母親の役割葛藤: 影響要因と一般健康度との関連. 第28回日本看護科学学会学術集会、福岡市、抄録集 p479. 2008年12月14日

[特別講演]

1. 東津軽郡中学校教育研究会
外ヶ浜町立蟹田中学校
Invited Lecture: '実践的コミュニケーション能力を育てる指導法'
平成20年7月3日
2. 青森県総合学校教育センター
青森県高等学校英語コミュニケーション実践講座 (7 Lectures)
平成20年8月18~22日
3. 青森県英語補助員研究会
ALT Mid-Year Conference
Invited Lecture: 'Pronunciation'
青森国際ホテル
平成20年11月21日

12) 佐々木 万衣子

a 学術論文 (原著)

1) Kawasaki, E.¹, Hokari, F.¹, Sasaki, M., Sakai, A.¹, Koshinaka, K.² and Kawanaka, K.¹: Role of local muscle contractile activity in the exercise-induced increase in NR4A receptors mRNA expression J. Appl. Physiol., 2009.

¹: 新潟医療福祉大, ²: 宮崎大

2) Koshinaka, K.¹, Sano, A.², Howlett, K. F.^{3,4}, Yamazaki, T.², Sasaki, M., Sakamoto, K.⁴ and Kawanaka, K.²: Effect of high-intensity intermittent swimming on postexercise insulin sensitivity in rat epitrochlearis muscle. Metabolism. 57, 749-756, 2008.

¹: 宮崎大, ²: 新潟医療福祉大, ³: Deakin Univ.,

⁴: Univ. Dundee

b 総説、報告書など

1) 吉池信男, 佐々木万衣子: 日本人の離乳期における栄養素摂取量に関する系統的レビュー. 平成20年度厚生労働科学研究補助金(子ども家庭総合研究事業)胎児期から乳幼児期を通じた発育・食生活支援プログラムの開発と応用に関する研究報告書. 19-27, 2009.

2) 吉池信男, 林芙美¹, 佐々木万衣子: 生活習慣の地域差と環境要因の関連に関する研究. 厚生労働科

学研究補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）健康づくり支援環境の効果的な整備施策および政策目標の設定に関する研究報告書．55-71，2009．

¹：女子栄養大

3) 吉池信男，佐々木万衣子：母体の食事摂取基準．周産期医学．38：1489-1494，2008．

4) 吉池信男，佐々木万衣子：考えよう 時間栄養学の大切さ～子どもたちの「生活リズム」と食事、健康を考える～．日本栄養士会雑誌．51(11)：12-17，2008．

d 国内外で開催された学会発表

(口頭発表)

1) 佐々木万衣子，越中敬一¹，保苅芙美²，川崎絵美²，川中健太郎²：超低強度運動がラットヒラメ筋の糖取り込みに及ぼす影響．第 63 回日本体力医学大会，2008 年 9 月 18 日 - 19 日，別府ビーコンプラザ，大分，体力科学．57，766，2008．

¹：宮崎大，²：新潟医療福祉大

(示説発表)

1) 佐々木万衣子，藤田修三，吉池信男：学童における野菜摂取促進を目指した教育プログラムの評価指標の検討．2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会，2009 年 2 月 13 日，公立大学法人青森県立保健大学，青森，2008 年度青森保健医療福祉研究発表会 - 抄録集 - ，70-71．

2) 阿部桂子¹，佐々木万衣子，川中健太郎²：絶食および運動が脳グリコーゲンに及ぼす影響．第 63 回日本体力医学大会，2008 年 9 月 18 日 - 19 日，別府ビーコンプラザ，大分，体力科学．57，760，2008．

¹：日清医療食品株式会社，²：新潟医療福祉大

13) 佐藤 伸

学術論文(原著)

1) Mukai Y, Sato S. Polyphenol-containing azuki bean (*Vigna angularis*) extract attenuates blood pressure elevation and modulates nitric oxide synthase and caveolin-1 expressions in rats with hypertension. Nutr Metab Cardiovasc Dis doi: 10.1016/j.numecd.2008.09.007

2) 駒田亜衣¹，森永八江，山田真司，井澤弘美，佐藤 伸，嵯峨井勝：基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養

素等摂取量の比較に関する研究．栄養学雑誌，66、69-76，2008．

¹：三重短大

3) 駒田亜衣¹，森永八江，山田真司，佐藤 伸，井澤弘美，嵯峨井勝：基本健康診査データから計算した男性の心疾患リスクスコアと食事摂取量に関する研究．日本健康科学学会誌，24，365-374，2008．

¹：三重短大

報告書など

Sato S, Mukai Y, Hatai A, Sagai M. Effect of polyphenol-containing azuki bean extract on blood pressure and endothelial nitric oxide synthase and caveolin-1 expressions in spontaneously hypertensive rats. Clin Exp Hypertens 30(6): 459, 2008.

学会発表

1) 佐藤 伸，舩甚早紀，向井友花，森永八江，藤田修三：ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラットの酸化ストレスに及ぼす新素材リグノフェノールの影響．第 62 回日本栄養・食糧学会大会，2008 年 5 月 2 日 - 4 日，女子栄養大学，埼玉．

2) 向井友花，畑井朝子¹，佐藤 伸：食物繊維含有アズキ抽出物が脳卒中易発性自然発症高血圧ラット (SHRSP) の血圧上昇に及ぼす影響．日本家政学会第 60 回大会，2008 年 5 月 30 日 - 6 月 1 日，日本女子大学，東京．

¹：函館短期大学

3) 佐藤 伸，向井 友花，山手 丈至¹，嵯峨井勝：高血圧自然発症ラットの腎臓及び心臓中のマクロファージ浸潤に及ぼすアズキ抽出物の影響．第 40 回日本動脈硬化学会総会、2008 年 7 月 10 日-11 日，つくば．

¹：大阪府立大

4) 駒田亜衣¹，山田真司，森永八江，井澤弘美，佐藤 伸，嵯峨井勝：脳卒中と心疾患の推定リスクを知った健診受診者の各リスクの年次の低下効果について．第 40 回日本動脈硬化学会総会、2008 年 7 月 10 日-11 日，つくば．

¹：三重短大

5) 嵯峨井勝，駒田亜衣¹，井澤弘美，森永八江，佐藤 伸，山田真司：住民基本健診受診者に占めるメタボリックシンドロームの割合について．第 40 回

日本動脈硬化学会総会，2008年7月10日-11日，つくば。

¹：三重短大

6) 木村郁子，井澤弘美，駒田亜衣¹，山田真司，森永八江，佐藤伸，嵯峨井勝：住民基本健診データから，生活習慣病の一次予防に資するリスク推定に関する研究．第40回日本動脈硬化学会総会，2008年7月10日-11日，つくば。

¹：三重短大

7) 藤田修三，佐藤由貴江，森永八江，船岡正光¹，佐藤伸：食物繊維リグニン誘導体によるラットの血圧低下効果について．日本ペット栄養学会，2008年7月20日。

¹：三重大

8) 向井友花，畑井朝子¹，佐藤伸：脳卒中易発症高血圧自然発症ラット(SHRSP)の血圧と酸化ストレスに及ぼす食物繊維含有アズキ抽出物の影響．日本食品科学工学会第55回大会，2008年9月5日-7日，京都大学，京都。¹：函館短期大学

9) Morinaga Y, Komada A¹, Saitoh C², Sato S, Izawa H, Fujita S: Effect of health education program on the health indices of local residents, 15th International Congress of Dietetics (ICD 2008), September 8-11, 2008, Yokohama.

¹：Tsu City College，²：Kuroishi General Hospital

10) Komada A.¹, Yamada M, Morinaga Y, Izawa H, Sato S, Sagai M: Influence of dietary constituents on stroke risk score, 15th International Congress of Dietetics (ICD 2008), September 8-11, 2008, Yokohama.

¹：Tsu City College

11) 向井友花，佐藤伸：食物繊維含有アズキ抽出物の脳卒中発症モデルラットにおける血圧上昇抑制効果．日本ヒューマンケア科学学会第1回学術集会，2008年9月27日，青森県立保健大学，青森。

12) 駒田亜衣¹，山田真司，森永八江，佐藤伸，井澤弘美，嵯峨井勝：食事指導におけるアセスメント問診票の活用．日本ヒューマンケア科学学会第1回学術集会，2008年9月27日，青森県立保健大学，青森。

¹：三重短大

13) 向井友花，畑井朝子¹，佐藤伸：ポリフェノール含有アズキ抽出物の血圧降下作用と一酸化窒素合成酵素の発現に及ぼす影響．日本家政学会東北・北海

道支部第53回研究発表会，2008年10月4日，弘前大学，青森。

¹：函館短期大学

14) Sato S, Mukai Y, Yamate J¹: Protective effect of plant polyphenols-containing azuki bean (*Vigna angularis*) on renal damage. Ehrlich II - 2nd World Conference on Magic Bullets, October 3 - 5, 2008, Nurnberg, Germany.

¹Osaka Pref. Univ.

15) 佐藤伸，向井友花，乗鞍敏夫，藤田修三，三亀啓吾¹，船岡正光¹：リグノフェノールのメタボリックシンドロームにおける生理的意義と応用．JST-SORST船岡正光研究プロジェクト総括シンポジウム 2009年1月14日-15日，日本科学未来館，東京。

¹：三重大・院・生物資源，SORST JST

16) 山田真司，駒田亜衣¹，森永八江，佐藤伸，井澤弘美，嵯峨井勝：生活習慣問診表質問項目の生活習慣病スクリーニングテスト精度に関する検討．2008年度青森県保健医療福祉研究発表会．2009年2月13日，青森市。

¹：三重短大

特許など

特許出願。「動脈硬化症予防改善剤および動脈硬化症予防方法」特願2009-077625，保健大(佐藤伸，向井友花)，2009年3月26日。

14) 山田 真司

学術論文

1) 駒田亜衣，森永八江，山田真司，井澤弘美，佐藤伸，嵯峨井勝：基本健診データから算出した脳卒中リスクスコアの高値群とその他の群の食品・栄養素等摂取の比較に関する研究．栄養学雑誌 66(2)，69-76，2008。

2) 駒田亜衣，森永八江，山田真司，佐藤伸，井澤弘美，嵯峨井勝：基本健康診査データから計算した男性の心疾患リスクスコアと食事摂取量に関する研究．Health Sciences, 24(4)，365-374，2008。

3) 山田典子，川内規会，山田真司，上野雅，新井山洋子，富田恵，リボウィッツよし子：黎明期のセーフティプロモーション(SP)活動に見られる住民間の目的意識形成の成因解明 Part I。

日本セーフティプロモーション学会誌，2(1)，33-39，

2009.

4) 山田真司, 山田典子, 川内規会, 奈良岡恵子: セーフティプロモーション活動からの交通問題へのアプローチ~Part .地域居住者によるグループインタビューからわかったこと~ .日本セーフティプロモーション学会誌, 2(1), 66-70, 2009.

学会発表

1) 木村郁子, 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 森永八江, 佐藤伸, 嵯峨井勝. 住民基本健診データから、生活習慣病の一次予防に資するリスク推定に関する研究. 第 40 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2008 年 7 月.

2) Masaru Sagai, Ai Komada, Hiromi Izawa, Yae Morinaga, Shin Sato, Masashi Yamada. On the Prevalence of Metabolic Syndrome in Residents Received Annual Health Check-up. 第 40 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2008 年 7 月.

3) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 佐藤伸, 井澤弘美, 嵯峨井勝. 生活習慣問診表質問項目の生活習慣病に対する寄与の検討. 日本健康科学学会第 24 回学術大会. 2008 年 9 月.

4) 山田真司, 駒田亜衣, 森永八江, 佐藤伸, 井澤弘美, 嵯峨井勝. Japanese Health Practice Index適用可能性に関する研究. 第 67 回日本公衆衛生学会総会. 2008 年 11 月.

5) 井澤弘美, 駒田亜衣, 山田真司, 大山博史, 福田誠, 嵯峨井勝. 国保レセプトと住民基本健康診断データを用いた「脳卒中」と「虚血性心疾患」のリスクスコア計算法的な比較. 2008 年度青森県保健医療福祉研究発表会. 2009 年 2 月.

6) 山田真司, 山田典子: 高校生のデートDVの実態調査結果について - 青森県の場合 -, 日本行動計量学会第 36 回大会, 成蹊大学, p111, 2008 年 7 月

7) 山田典子, 三津谷恵, 奈良岡恵子, 川内規会, 山田真司, リボウィッツよし子, 新井山洋子, 長瀬比佐子, 蘆野潤子; セーフティプロモーション (SP) 活動による住民参加のきっかけと意識形成過程, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会, , 東京都老人総合研究

所, p54, 2008 年 10 月

8) 奈良岡恵子, 山田典子, 三津谷恵, 川内規会, 山田真司, リボウィッツよし子, 新井山洋子, 長瀬比佐子, 蘆野潤子: SP 活動における目的意識形成過程~黎明期の組織活動における参加者が認識した役割~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p55, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

9) 川内規会, 山田典子, 奈良岡恵子, 三津谷恵, 山田真司, リボウィッツよし子, 新井山洋子, 長瀬比佐子, 山本由美: SP/SC 活動に取り組んだ関係者の目的意識形成過程~ “やりがい” と行動変容~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p56, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

10) 三津谷恵, 山田典子, 川内規会, 奈良岡恵子, 山田真司, リボウィッツよし子, 新井山洋子, 長瀬比佐子, 大田一子: SC 活動に取り組み始めた住民が抱いた思い~黎明期に認識された課題~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p57, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

11) 豊田佳緒里, 山田典子, 三津谷恵, 川内規会, 奈良岡恵子, 山田真司, リボウィッツよし子, 上野雅, 蘆野潤子: SC 活動に見られる住民間の目的意識形成過程~地域における“つながり”とは~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p60, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

12) 山田真司, 山田典子, 三津谷恵, 川内規会, 奈良岡恵子, リボウィッツよし子, 上野雅, 豊田佳緒里, 定喜久美: SC 活動に見られる住民間の目的意識形成過程~交通の安全を脅かす要因~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p58, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

13) リボウィッツよし子, 山田典子, 山田真司, 川内規会, 三津谷恵, 奈良岡恵子, 上野雅, 豊田佳緒里, 定喜久美: SC 活動に見られる住民間の目的意識形成過程~自治会住民の自然災害への備え~, 第 2 回日本セーフティプロモーション学会学術大会 p59, 東京都老人総合研究所, 2008 年 10 月

14) Noriko YAMADA, Yujiro HANDA, Masashi

YAMADA: The current situation on violence related

to dating among the adolescent population in Japan and the response by a health promotion programme., 17th International Safe Communities Conference, Christchurch, New Zealand, 2008, p. 345.

15) Masachika Nakanowatari, Masashi Ueno, Junko Ashino, Sada kikumi, Yoko Niiyama, Noriko Yamada, Masashi Yamada, Yoshihide Sorimachi: Development of Community Safety promotion in Towada City, 17th International Safe Communities Conference Christchurch New Zealand 2008 p173

15) 吉池 信男

a 学術論文 (原著)

- 1) Kaneita Y, Uchiyama M, Yoshiike N, Ohida T: Associations of Usual Sleep Duration with Serum Lipid and Lipoprotein Levels. Sleep. 2008 31, 645-652
- 2) Watanabe H, Fukuoka H, Sugiyama T, Nagai Y, Ogasawara K, Yoshiike N: Dietary folate intake during pregnancy and birth weight in Japan. Eur J Nutr. 2008;47:341-7.
- 3) Asano AW, Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K, Yamamoto S, Yoshiike N: Association between vegetable intake and dietary quality in Japanese adults: a secondary analysis from the National Health and Nutrition Survey, 2003. J Nutr Sci Vitaminol 54, 384-391, 2008
- 4) Nakamura M, Sato S, Shimamoto T, Konishi M, Yoshiike N: Establishment of Long-term Monitoring System for Blood Chemistry Data by the National Health and Nutrition Survey in Japan. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 15:244-9, 2008
- 5) Shimada K, Fujita T, Ito S, Naritomi H, Ogihara T, Shimamoto K, Tanaka H, Yoshiike N: The Importance of Home Blood Pressure Measurement for Preventing Stroke and Cardiovascular Disease in

Hypertensive Patients: A Sub-Analysis of the Japan Hypertension Evaluation with AIIA Losartan Therapy (J-HEALTH) Study, a Prospective Nationwide Observational Study. Hypertens Res 31. 1903-11, 2008

- 6) Kumagai S, Nakajima M, Tabata S, Ishikuro E, Tanaka T, Norizuki H, Itoh Y, Aoyama K, Fujita K, Kai S, Sato T, Saito S, Yoshiike N, Sugita-Konishi Y. Aflatoxin and ochratoxin A contamination of retail foods and intake of these mycotoxins in Japan. Food Addit Contam Part A Chem Anal Control Expo Risk Assess. 2008;25(9):1101-6.
- 7) 野末みほ、猿倉薫子、西条旨子、藤井紘子、荒井祐介、石脇亜紗子、吉池信男、中川秀昭、由田克士：富山県の農村部における栄養素等・食品群別摂取量の季節間変動及び野菜摂取量との関連についての検討. 北陸公衛誌 34; 58-64, 2008

b 総説

- 1) Udagawa K, Miyoshi M, Yoshiike N: Mid-term evaluation of "Health Japan 21": focus area for the nutrition and diet. Asia Pac J Clin Nutr 2008;17 (S2):445-452
- 2) 吉池信男：日本人の健康状態の変遷と現状. 日本栄養士会雑誌 51(6); 550-554, 2008
- 3) 吉池信男：食事摂取基準と食生活. New Diet Therapy 24(1); 31-41, 2008
- 4) Yoshiike N: Changes and current situation in the health status of the Japanese. Journal of the Japan Dietetic Association 51(7); 682-686, 2008
- 5) 須藤紀子、吉池信男：災害対策における行政栄養士の役割 公衆衛生 57(3) 218-222, 2008
- 6) 吉池信男、佐々木万衣子：子どもたちの「生活リズム」と食事、健康を考えるために. 日本栄養士会雑誌 51(11); 1118-1123, 2008
- 7) 吉池信男、佐々木万衣子：母体の食事摂取基準. 周産期医学 38(12); 1489-1494, 2008
- 8) 三好美紀、吉池信男：日本と諸外国の食塩摂取量. 成人病と生活習慣病 39(3), 238-243, 2009

c 解説など

- 1) 吉池信男:生活習慣病を人生の時間軸をたどってイメージしてみる. りそな-れ 4; 3-5, 2008
- 2) 吉池信男:障害者施設での食生活・栄養支援の取組状況と栄養面での問題について. 戸山サンライズ 237;13-16, 2008
- 3) 吉池信男:「何をどれだけ食べていますか?」リスク評価とリスク管理をつなげる"曝露評価". 食品安全委員会e-マガジン 第100号, 2008
[http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine/e-mailmagazine_100.html]
- 4) 吉池信男:『授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き』について. 愛育ねっと 2008年8月号, 恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所, 2008
- 5) 吉池信男:「適切な食生活」への第一歩. 母子保健 594; 1, 2008
- 6) 吉池信男(監修):やさしく理解できる『メタボリックシンドローム』ヘルスプレス Vol1, 家族計画協会, 2008
- 7) 吉池信男(監修):サブノート 2009「公衆衛生学」, メディックメディア, 2008
- 8) 吉池信男:図説国民衛生の動向 2008, 厚生統計協会, 2008

d 書籍

- 1) 三好美紀, 吉池信男:栄養・食生活. 健診・人間ドックハンドブック改訂3版(日野原重明監修) pp.72-80, 中外医学社 2008
- 2) 吉池信男:栄養に関する年齢(国民健康・栄養調査から). からだの年齢辞典(鈴木孝雄, 衛藤隆編集) pp.353-362, 朝倉書店 2008
- 3) 伊達ちぐさ, 徳留裕子, 吉池信男編:食事調査マニュアル改定第2版. 南山堂 2008
- 4) 吉池信男, 川崎徹大:肥満とメタボリックシンドローム ~日本人における記述疫学~ NASH 診療, pp.39-45, 中外医学社 2008
- 5) 吉池信男, 川崎徹大:肥満症の疫学~我が国の特徴. 新しい診断と治療のABC 59 肥満症. pp.16-23, 最新医学社 2009

e. 学会発表(招待講演, シンポジウム)

- 1) Yoshiike N: Population approaches by Food Balance Guide (2005) and Exercise Guide (2006) to combat the epidemic of metabolic syndrome in Japanese. 15th International

Congress of Dietetics. 8th Sep 2008, Yokohama, Japan

- 2) 三好美紀, 吉池信男:独立行政法人国立健康・栄養研究所における国際貢献について~国際栄養拠点ネットワーク検討会~ 第15回国際栄養士会議サテライトシンポジウム The contribution to world nutrition 2008.9.9, 横浜
- 3) 吉池信男:小児の「日本人の食事摂取基準 2005年版」の概要と. タンパク質摂取基準について. 日本小児科学会「小児の食事摂取基準を考えるワークショップ」 2008.10.10, 東京
- 4) 吉池信男:特定健診・保健指導の実践. 第31回日本高血圧学会シンポジウム「特定健康診査・特定保健指導の現状と展望」 2008.10.11, 札幌
- 5) 吉池信男:わが国における肥満の疫学~国際比較も含めて~ 第29回日本肥満学会教育講演 2008.10.18, 大分

f. 学会発表(一般演題)

- 1) ・宇田川孝子, 角倉知子, 林芙美, 吉池信男:都道府県健康・栄養調査の実態に関する検討. 第55回日本栄養改善学会学術総会. 2009/9/6. 鎌倉市
- 2) 林芙美, 角倉知子, 吉池信男, 草間かおる, 瀧本秀美: "妊産婦のための食事バランスガイド"を用いたセルフモニタリングによる食育の検討: ベースライン調査結果. 第55回日本栄養改善学会学術総会. 2009.9.7. 鎌倉市
- 3) 北林時子, 井上茂, 吉池信男: 栄養士における「健康づくりのための運動指針 2006」の理解度. 第55回日本栄養改善学会学術総会. 2009.9.7. 鎌倉市
- 4) 瀧本秀美, 林芙美, 草間かおる, 宮坂尚幸, 石橋智子, 鳥羽三千代, 吉池信男, 角倉知子: "妊産婦のための食事バランスガイド"を用いたセルフモニタリングによる食生活介入研究. 第2回保健医療科学研究会. 2009.9.19. 和光市
- 5) 林芙美, 横山徹爾, 吉池信男: 都道府県別にみた「健康日本21」関連指標の状況と疾患別死亡率の関係について. 第67回日本公衆衛生学会学術総会. 2009.11.6 福岡市
- 6) 高橋由光, 大浦智子, 三木健二, 杉森裕樹, 吉池信男, 内藤真理子, 赤松利恵, 宮木幸一, 新保卓郎, 中山健夫: 健康・医療に関する情報取得

におけるインターネットの利用状況, 第67回日本公衆衛生学会学術総会. 2009.11.6. 福岡市

- 7) 横山徹爾、林芙美、吉池信男: 健康・栄養関連指標の大小関係に基づく都道府県別順位とその信頼区間. 第67回日本公衆衛生学会学術総会. 2009.11.6. 福岡市
- 8) 三好美紀、荒井裕介、由田克土、吉池信男: 食育を通じた生活習慣病予防戦略に関する研究: 欧州のポピュレーション戦略の事例調査. 2009.11.6. 福岡市
- 9) Hayashi F, Yoshiike N: Folic acid intake in young women in Japan: Is that enough? Results from 2001-2005 National Health and Nutrition Survey, 15th International Congress of Dietetics. 2009.9.9. Yokohama, Japan
- 10) Umeki Y, Hayabuchi H, Nagahara M, Matsunaga Y, Yoshiike N: How to demonstrate the results of dietary survey for nutritional education? 15th International Congress of Dietetics. 2009.9.9. Yokohama, Japan
- 11) Sakai T, Hayabuchi H, Nagahara M, Umeki Y, Matsunaga Y, Yoshiike N: A dish-based dietary assessment method based on the Japanese Food Guide Spinning Top. 15th International Congress of Dietetics. 2009.9.9. Yokohama, Japan
- 12) Kurotani K, Hayabuchi H, Nagahara M, Matsunaga Y, Yoshiike N: An educational tool for self-check of eating habits utilizing Japanese Food Guide Spinning Top. 15th International Congress of Dietetics. 2009.9.9. Yokohama, Japan

1) 川内 規会

a. 学術論文(原著)

・山田典子、川内規会、山田真司、新井山洋子、上野雅、富田恵、リボウィッツよし子：黎明期のセーフティプロモーション(SP)活動に見られる住民間の目的意識形成の成因解明Part Ⅰ, 日本セーフティプロモーション学会誌第2巻第1号、42-48, 2009.

・山田真司、山田典子、川内規会、奈良岡恵子：セーフティプロモーション活動からの交通問題へのアプローチ～Part Ⅱ. 地域居住者によるグループインタビューからわかったこと～日本セーフティプロモーション学会誌第2巻第1号、66-70, 2009.

b. 報告書など

・石鍋恵子、川内規会、奈良岡恵子：平成20年度社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書 医療安全にかかわる看護技術「静脈注射」の学び直しプログラム、2009.

・監修石鍋恵子、奈良岡恵子、川内規会(執筆)：学びなおしの静脈注射、メディカ出版、smart nurse vol.11.no3, 10-38, 2009.

d. 学会発表

・川内規会：医療従事者のWFC研究からみる心理的考察とこれからの調査の関わり、2008年度日本コミュニケーション学会東北支部研究会、2009年3月8日、仙台メディアテーク、仙台市.

・川内規会、山田典子、奈良岡恵子、三ツ谷恵、山田真司、リボウィッツよし子、新井山洋子、長瀬比佐子、山本由美：SP/SC活動に取り組んだ関係者の目的意識形成過程 “やりがい”と行動変容、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・山田典子、三ツ谷恵、奈良岡恵子、川内規会、山田真司、リボウィッツよし子、新井山洋子、長瀬比佐子、蘆野潤子：セーフティプロモーション(SP)活動による住民参加のきっかけと意識形成過程、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・奈良岡恵子、山田典子、三ツ谷恵、川内規会、山田真司、リボウィッツよし子、新井山洋子、長瀬比佐子、蘆野潤子：SP活動における目的意識形成過程

～黎明期の組織活動における参加者が認識した役割～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・三ツ谷恵、山田典子、川内規会、奈良岡恵子、山田真司、リボウィッツよし子、新井山洋子、長瀬比佐子、大田一子：SC活動に取り組み始めた住民がいだいた思い～黎明期に認識された課題～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・豊田佳緒里、山田典子、三ツ谷恵、川内規会、奈良岡恵子、山田真司、リボウィッツよし子、上野雅、蘆野潤子：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～地域における“つながり”とは～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・山田真司、山田典子、三ツ谷恵、川内規会、奈良岡恵子、リボウィッツよし子、上野雅、豊田佳緒里、定喜久美：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～自治会住民の自然災害への備え～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

・リボウィッツよし子、山田典子、山田真司、川内規会、三ツ谷恵、奈良岡恵子、上野雅、豊田佳緒里、定喜久美：SC活動に見られる住民間の目的意識形成過程～自治会住民の自然災害への蓄え～、第2回日本セーフティプロモーション学会学術大会、2008年10月10日、東京.

資 料

平成20年度当初予算

(単位：千円)

収 入

項目		金額	備考
1 運営費交付金	運営費交付金	1,307,342	
	計	1,307,342	
2 自己収入	授業料収入	419,416	学部学生748名、大学院生59名 年額535,800円
	入学検定料収入	20,171	学部学生17,000円 大学院生30,000円
	入学料収入	70,610	学部学生入学定員229名、大学院生24名 県内者225,600円、県外者338,400円
	その他収入	32,046	
	計	542,243	
3 受託研究等収入	受託研究等収入	64,719	
	計	64,719	
合 計		1,914,304	

支 出

項目		金額	備考
1 人件費	役員人件費	19,489	
	法人固有職員人件費	944,091	退職手当を含む。
	県派遣職員人件費	188,107	
	その他人件費	49,850	
	計	1,201,537	
2 教育研究費	教育経費	113,653	
	研究経費	156,261	
	教育研究支援経費	39,581	
	計	309,495	
3 一般管理費	施設設備維持管理費	281,844	
	法人運営費	43,100	
	計	324,944	
4 社会貢献等経費	社会貢献経費	13,609	
	受託研究等外部資金事業費	56,719	
	寄附金事業経費	8,000	
	計	78,328	
合 計		1,914,304	

平成 20 年度大学見学実績

No.	日 月	見 学 者	人 数
1	平成 20 年 9 月 2 日	青森市立東中学校 1 年生	9
2	平成 20 年 12 月 2 日	大間町役場 保健協力員及び担当者	18

平成20年度ゲストスピーカーの招へい状況

	期 日	授 業 科 目	ゲスト氏名	ゲ ス ト 所 属	授業担当教員
1	H20.5.2	看護マネジメント	笥 淳夫	国立保健医療学院 施設科学部長	鄭 佳紅
2	H20.5.8	生活問題論	佐藤 涼	特定非営利法人 C-FLOWER	石田 賢哉
3	H20.5.14	地域統合実習	東山 恵子	青森県上北地域県民局地域健康福祉部保健総室 課長	細川 満子
4	H20.5.14	地域統合実習	反町 吉秀	青森県上北地域県民局地域健康福祉部保健総室上十三保健所 所長	千葉 敦子
5	H20.5.20	在宅看護論	泉 美紀子	訪問看護ステーションあおい森 所長	細川 満子
6	H20.5.21	社会福祉援助技術 現場実習指導	長尾 春光	養護(盲)老人ホーム 津軽ひかり荘 施設長	大和田 猛
7	H20.6.13	障害者福祉論	佐藤 涼	特定非営利法人 C-FLOWER	石田 賢哉
8	H20.6.18	社会福祉援助技術 現場実習指導	最上 和幸	児童自立支援施設 青森県立子ども自立センターみらい指導課長	増山 道康
9	H20.6.26	社会福祉援助技術 現場実習指導	石沢 由彦	黒石市社会福祉協議会 係長	佐藤 恵子
10	H20.6.26	社会福祉援助技術 現場実習指導	赤平 光定	十和田市地域包括支援センター	杉山 克己
11	H20.6.27	社会福祉援助技術 現場実習指導	小笠原 勤	元青森県中央児童相談所長	入江 良平
12	H20.6.30	成人看護援助論	救命救急士	青森市消防局青森消防署消防職員	平尾 明美
13	H20.7.18	ケアマネジメント論	伊東美知子	三八地域県民局地域健康福祉部保健総室健康増進課長	細川 満子
14	H20.10.8	地域看護援助論	三上 公子	NPO活き粋あさむし事務局 事務局長	山本 春江
15	H20.10.9	高齢障害理学療法論	佐藤 正則	(株)アストラル 取締役	川口 徹
16	H20.10.24	社会福祉基礎実習	本間 昭夫	青森県社会福祉士会会長 ディサービスセンター三愛 所長	入江 良平
17	H20.10.24	社会福祉基礎実習	渋谷 雅仁	地域活動支援センター長	杉山 克己
18	H20.11.13	精神保健福祉援助 技術総論	福与 秀文	三島森田病院 精神保健福祉士	石田 賢哉

	期 日	授 業 科 目	ゲスト氏名	ゲ ス ト 所 属	授業担当教員
19	H20.11.27	がん看護	石岡 芳子	青森県立中央病院主任看護師 がん化学療法看護認定 看護師	本間 ともみ
20	H20.12.12	成人看護援助論	池田 和子	国立国際医療センター戸山 病院 エイズ治療・研究開発 センター 患者支援調整官	石鍋 圭子
21	H20.12.17	看護理論	大串 靖子	本学元教授	藤本真記子
22	H20.12.17	障害福祉論	根本 あや子	NPO法人 SANNeT理事 長	山内 修
23	H21.1.8	地域看護援助論	小形 麻里	青森市保健所健康づくり推 進課 主幹	千葉 敦子
24	H21.1.8	地方自治論	関 和典	西目屋村村長	山内 修
25	H21.1.9	神経障害理学療法 学・神経障害理学療 法学実習	相馬 雅之	青森慈恵会病院リハビリテー ション科次長(作業療法士)	山下 弘二
26	H21.1.9	神経障害理学療法 学・神経障害理学療 法学実習	藤林 晃	青森慈恵会病院リハビリテー ション科 主任言語聴覚士	藤田智香子
27	H21.1.13	リハビリテーションケ ア	川井 城樹 斉竹 一子	江戸川医療専門学校専任教 員 東京天使病院病棟看護師長	石鍋 圭子
28	H21.1.14	助産診断・技術学	高橋 佳子	青森中央短期大学講師	大井けい子
29	H21.1.15	がん看護	秋庭 聖子	青森県立中央病院主任看護 師 緩和ケア認定看護師	鳴井ひろみ
30	H21.1.20	社会福祉基礎実習	山内 みどり 佐々木アヤ子 脇谷 米子	CAP ネット青い森会員	入江 良平 佐藤 恵子 杉山 克己
31	H21.1.26	精神保健福祉援助 実習	須々田和大	NPO法人いたばし 精神保 健福祉士	坂下 知恵

平成20年度臨地教授等による事前学外実習の実施状況

	期 日	授 業 科 目	臨地教授等	臨地教授等所属	授業担当教員
1	H20.6.4	社会福祉援助技術現場実習指導	山口 俊輔	児童養護施設 幸樹園 園長	齋藤 史彦
2	H20.6.4	地域統合実習	嶋口みどり	訪問看護ステーション や よい 所長	山本 春江
3	H20.6.5	地域統合実習	高橋 礼子	平川氏健康推進課管理 課 主任	山田 典子
4	H20.9.30	基礎看護実習	相坂三紀子	青森市民病院看護局長	角濱 春美
5	H20.12.16	助産学実習	奈良美保子	八戸市立市民病院助産 師主任	大井 けい子

平成20年度特別講義実施状況

(保健医療福祉特殊講義 対象)

	内 容
第 1 回	理学療法学科 期 日 平成20年7月16日(水) 講 師 藤田保健衛生大学 藤田記念七栗研究所リハビリテーション研究部門 教授 近藤 和泉 テ - マ 「入院・在宅高齢者の嚥下障害に対するアプローチ」
第 2 回	社会福祉学科 期 日 平成20年10月15日(水) 講 師 社団法人青森精神医学研究所 浅虫温泉病院 理事長 石田 康正 テ - マ 「精神科病院における精神保健福祉士の役割」
第 3 回	栄養学科 期 日 平成20年10月31日(金) 講 師 宮城大学食産業学部 教授(学生部長) 鈴木 建夫 テ - マ 「国民の盛衰は食べ方にあり」
第 4 回	理学療法学科 期 日 平成21年2月13日(金) 講 師 首都大学東京 健康福祉学部 理学療法学科 教授 網本 和 テ - マ 「高次脳機能障害のリハビリテーション」

平成 20 年度・健康科学特別研究等審査会委員会名簿

	氏 名	備 考	
顧 問	リボウィッツよし子	学長	
会 長	藤 田 修 三	研究推進・知的財産センター長	
委 員	中 村 由 美 子	同センター・研究開発科長	
"	松 江 一	センター長が必要と認める者	研究科長
"	藤 井 博 英	"	学生部長
"	入 江 良 平	"	図書館長
"	石 鍋 圭 子	"	地域連携・国際センター長
"	吉 池 信 男	"	栄養学科長
"	山 本 春 江	"	看護学科長
"	尾 崎 勇	"	理学療法学科長
"	大 和 田 猛	"	社会福祉学科長
"	渡 邊 洋 一	"	研修科長
"	深 谷 智 恵 子	"	国際科長
"	今 淳	"	栄 養
"	佐 藤 伸	"	栄 養
"	岩 井 邦 久	"	栄 養
"	山 田 真 司	"	栄 養
"	浅 田 豊	"	栄 養
"	大 関 信 子	"	看 護
"	大 井 け い 子	"	看 護
"	角 濱 春 美	"	看 護
"	細 川 満 子	"	看 護
"	鳴 井 ひ ろ み	"	看 護
"	藤 本 真 記 子	"	看 護
"	木 村 恵 美 子	"	看 護
"	鄭 佳 紅	"	看 護
"	佐 藤 秀 紀	"	理 学
"	渡 部 一 郎	"	理 学
"	神 成 一 哉	"	理 学
"	岩 月 宏 泰	"	理 学
"	佐 藤 秀 一	"	理 学
"	藤 田 智 香 子	"	理 学
"	山 下 弘 二	"	理 学
"	川 口 徹	"	理 学
"	勘 林 秀 行	"	理 学
"	大 山 博 史	"	社会福祉
"	佐 藤 恵 子	"	社会福祉

	氏 名	備 考	
"	安 田 勉	"	社会福祉
"	山 内 修	"	社会福祉
"	千 葉 多 佳 子	"	社会福祉
"	杉 山 克 己	"	社会福祉
"	大 竹 昭 裕	"	社会福祉
"	増 山 道 康	"	社会福祉
研究センター	乗 鞍 敏 夫	"	栄 養
事務局	石 川 順 一		地域連携推進課長
"	岡 村 慶 子		地域連携推進課

審査内容によって追加する場合がある。

平成20年度各種委員会・プロジェクト会議委員名簿

平成20年9月3日

委員会等名	委員長等	部局長	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科	その他	任期 (始-終期)	事務局委員	事務局担当
将来構想検討委員会	理事長	学長、上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長、藤井学生部長、入江附属図書館長、石鍋地域連携・国際センター長、藤田研究推進・知的財産センター長、	山本学科長	尾崎学科長	大和田学科長	吉池学科長		H20.4.1 H22.3.31	事務局長 経営企画室長	経営企画室
人権に関する委員会	理事長	学長	山本学科長	勘林准教授	大山教授	佐藤伸教授	理事長が必要と認める者 研究科長及び事務局長が指名する各1名 深谷教授、佐藤研修科長、総務課長	H20.4.1 H22.3.31	事務局長	総務課
健康科学部入学試験委員会	鈴木学部長	学長、上泉副学長、鈴木学部長	大井教授	岩月教授	入江教授	佐藤伸教授	各学科長	H20.4.1 H22.3.31	事務局長	教務課
研究科入学試験委員会	松江研究科長	学長、上泉副学長、松江研究科長	(看護学分野) 中村教授 (入試担当) 上泉副学長	(理学療法学分野) 尾崎学科長 (入試担当) 鈴木教授	(地域保健福祉学分野) 大和田学科長 (入試担当) 佐藤秀紀教授	(生活健康科学分野) 今教授 (入試担当) 今教授	研究科各分野1名(教授)	H20.4.1 H22.3.31	事務局長	教務課
評価・改善委員会	上泉副学長	上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長	角濱准教授	岩月教授	大山教授	今教授	各学科長	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	経営企画室
学生募集対策委員会	藤井学生部長	上泉副学長	鄭准教授	勘林准教授	杉山准教授	岩井教授		H20.4.1 H22.3.31	学生課長	学生課
図書館委員会	入江附属図書館長	入江附属図書館長	山道講師	佐藤秀紀教授	杉山准教授	向井助教	司書1名	H20.4.1 H22.3.31	図書課長	図書課
広報情報委員会	入江附属図書館長	入江附属図書館長	坂本講師 佐藤(愛)講師	長門助手	種市助手	山田(真)准教授		H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	経営企画室
教務委員会	鈴木学部長	鈴木学部長	山本教授 木村准教授 吹田講師	渡部教授 桜木講師 盛田講師	入江教授 齋藤講師 坂下講師	岩井教授 浅田准教授		H20.4.1 H22.3.31	教務課長	教務課
人間総合科学科目運営委員会	鈴木学部長	鈴木学部長、藤田研究推進・知的財産センター長	大関教授 清水講師	勘林准教授 李講師	大竹准教授 千葉准教授	アラン ノールズ教授 浅田准教授	学部長が必要と認める者 藤田研究推進・知的財産センター長 山田(真)准教授、川内講師	H20.4.1 H22.3.31	教務課長	教務課
学生委員会	藤井学生部長	藤井学生部長	深谷教授 藤田(あ)講師	李講師	安田教授	スコット ヴェスティ講師		H20.4.1 H22.3.31	学生課長	学生課
保健管理委員会	大山教授	藤井学生部長	佐藤(真)助教	勘林准教授	加賀谷助教	向井助教	学校医、心理相談員、保健嘱託員 福井講師	H20.4.1 H22.3.31	学生課長	学生課
就職対策委員会	藤井学生部長	藤井学生部長	藤本准教授	山下准教授	増山准教授	井澤講師		H20.4.1 H22.3.31	学生課長	学生課
地域連携・国際センター運営委員会	石鍋地域連携・国際センター長	石鍋地域連携・国際センター長					地域連携・国際センター長が必要と認める 地域連携・国際センターの各科長 川内講師、奈良岡助手	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	地域連携推進課
研修科委員会	佐藤研修科長	石鍋地域連携・国際センター長	吹田講師 山本(真)助教	川口准教授 盛田講師	大和田学科長 石田講師	バリー カバナー 講師 廣森助教	研修科長が必要と認める者 三津谷助教、伊藤助手、福島助手 センター専任教員 奈良岡助手	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
社会福祉研修運営委員会	渡邊教授	石鍋地域連携・国際センター長	細川准教授	藤田(智)准教授	石田講師	廣森助教	山内准教授 センター専任教員 奈良岡助手	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
看護研修運営委員会	佐藤研修科長	上泉副学長(顧問)、石鍋地域連携・国際センター長	深谷教授 鄭准教授 平尾(明)講師 早川助教 村上助手 佐々木(雅)助手				看護専門職教育課程担当教員 センター専任教員 奈良岡助手	任期の記載なし	地域連携推進課長	地域連携推進課
国際科委員会	深谷国際科長	石鍋地域連携・国際センター長	山田(典)講師 山本(加)助教	渡部教授 藤田(智)准教授	佐藤研修科長 千葉(多)准教授	アラン ノールズ教授 メリッサ オガサワラ助教	国際科長が必要と認める者 大津助教、長門助手 センター専任教員 川内講師	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課

委員会等名	委員長等	部局長	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科	その他	任期 (始-終期)	事務局委員	事務局担当
地域連携科委員会	石鍋地域連携科長	石鍋地域連携・国際センター長 藤田研究推進・知的財産センター長					地域連携・国際センター長が必要と認める者 佐藤研修科長、深谷国際科長、杉山地域貢献部会長 センター専任教員 川内講師、奈良岡助手 研究推進・知的財産センター長が必要と認める者 中村研究開発科長、佐藤秀一教授、岩井教授	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
地域貢献部会	杉山准教授		清水講師 千葉(敦)講師	山下准教授 三浦講師	増山准教授	井澤講師 スコット ティ講師	センター専任教員 川内講師	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
研究推進・知的財産センター運営委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長	大関教授	神成教授	大山教授	岩井教授	研究推進・知的財産センター長が必要と認める者 中村研究開発科長	H20.4.1 H22.3.31	経営企画室長	地域連携推進課
知的財産委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長					青森県知的財産アドバイザー1、特許流通アドバイザー又は特許情報活用支援アドバイザー1、財団法人21あもり産業総合支援センターコーディネーター1、岩井教授、識者1、オブザーバー3	H20.4.1 H21.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
共同・受託研究受入審査委員会	藤田研究推進・知的財産センター長	藤田研究推進・知的財産センター長	深谷教授	佐藤秀一教授	大山教授	今教授		H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
特別研究等審査会	藤田研究推進・知的財産センター長	学長(顧問) 藤田研究推進・知的財産センター長	山本学科長	尾崎学科長	大和田学科長	吉池学科長	研究推進・知的財産センター長が必要と認める者 中村研究開発科長	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
研究開発科委員会	中村研究開発科長	藤田研究推進・知的財産センター長	鳴井准教授 鄭准教授	佐藤秀一教授	佐藤研修科長	山田(真)准教授	研究推進・知的財産センター長が必要と認める者 佐藤伸教授、岩井教授、杉本助教、乗鞍助教、橋本助教、市川助手、森永助手	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
研究倫理委員会	大関教授		大関教授	神成教授	大竹准教授	浅田准教授	学外識者、中村研究開発科長	H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
動物実験委員会	中村研究開発科長		大関教授	神成教授	山内准教授	井澤講師		H20.4.1 H22.3.31	地域連携推進課長	地域連携推進課
経営改善プロジェクト	小山石事務局長	学長、上泉副学長	中村教授	岩月教授	大竹准教授	佐藤伸教授		H20.4.1 H22.3.31	事務局長 経営企画室長	経営企画室
衛生委員会	上泉副学長		福井講師	桜木講師	千葉准教授	佐々木助手	産業医1、衛生管理者1	H20.4.1 H22.3.31	総務課長	総務課
危機管理委員会	学長	学長、上泉副学長、松江研究科長、鈴木学部長、藤井学生部長、入江附属図書館長、石鍋地域連携・国際センター長、藤田研究推進・知的財産センター長、						充て職のため任期なし	事務局長 経営企画室長 各課長	総務課
現代GP拡大会議 (は現代GPコア会議メンバー)	上泉副学長	学長、上泉副学長、鈴木学部長、入江附属図書館長、石鍋地域連携・国際センター長、藤田研究推進・知的財産センター長	山本学科長、中村教授、細川准教授	尾崎学科長、川口准教授、勘林准教授、桜木講師	渡邊教授、大山教授、杉山准教授	山田准教授、浅田准教授		プロジェクトのため規定なし		地域連携推進課

職 員 名 簿

(平成20年5月1日現在)

学 長	リボウィッツ よし子
副学長	上 泉 和 子

健康科学部

教授(学部長)	鈴 木 孝 夫
---------	---------

看護学科

教授(看護学科長)	山 本 春 江
教授兼務(学長本務)	リボウィッツ よし子
教授兼務(副学長本務)	上 泉 和 子
教 授	石 鍋 圭 子
教 授	大 井 けい子
教 授	大 関 信 子
教 授	中 村 由美子
教 授	深 谷 智恵子
教 授	藤 井 博 英
准教授	角 濱 春 美
准教授	木 村 恵美子
准教授	鄭 佳 紅
准教授	鳴 井 ひろみ
准教授	藤 本 真記子
准教授	細 川 満 子
講 師	坂 本 祐 子
講 師	佐 藤 愛
講 師	清 水 健 史
講 師	吹 田 夕起子
講 師	千 葉 敦 子
講 師	平 尾 明 美
講 師	福 井 幸 子
講 師	藤 田 あけみ
講 師	山 道 弘 子
講 師	山 田 典 子
助 教	井 澤 美樹子
助 教	大 津 美 香
助 教	佐 藤 真由美
助 教	杉 本 晃 子
助 教	早 川 ひと美
助 教	本 間 ともみ
助 教	三 浦 博 美
助 教	三津谷 恵
助 教	山 本 加奈子
助 教	山 本 真樹子
助 手	市 川 美奈子

助手
助手
助手
助手
助手
助手
助手

伊藤治幸
佐々木綾子
佐々木雅史
佐藤仁美
戸沼由紀
内城絵美
根布谷綾乃
村上眞須美

理学療法学科

教授（理学療法学科長）

教授
教授
教授
教授
教授
准教授
准教授
准教授
准教授
講師
講師
講師
講師
助教
助手
助手

尾崎勇
岩月宏泰
神成一哉
佐藤秀一
佐藤秀紀
鈴木木孝夫
渡部一郎
川口徹
勘林秀行
藤田智香子
山下弘二
桜木康広
盛田寛明
三浦雅史
李相潤
橋本淳一
長門五城
福島真人

社会福祉学科

教授（社会福祉学科長）

教授
教授
教授
教授
教授
准教授
准教授
准教授
准教授
准教授
講師
講師
講師
助教
助教
助手

大和田猛
入江良平
大山博史
佐藤惠子
安田勉
渡邊洋一
大竹昭裕
杉山克己
千葉多佳子
増山道康
山内修
石田賢哉
齋藤史彦
坂下智恵
加賀谷真紀
長谷川真理子
種市寛子

栄養学科

教授（栄養学科長）	吉池信男
教授	岩井邦久
教授	今淳
教授	佐藤伸
教授	ノールズ アラン
教授	羽入辰郎
教授	藤田修三
教授	松江一
准教授	浅田豊
准教授	山田真司
講師	井澤弘美
講師	ヴェスティ スコット
講師	カヴァナ バリー
助教	オガサワラ メリッサ
助教	乗鞍敏夫
助教	廣森直子
助教	向井友花
助教	リボウィッツ ロバート
助手	熊谷貴子
助手	佐々木 万衣子
助手	森永 八江

健康科学研究科

健康科学研究科長兼務	松江一
------------	-----

学生部

学生部長兼務	藤井博英
--------	------

附属図書館

附属図書館長兼務	入江良平
----------	------

地域連携・国際センター

地域連携・国際センター長兼務	石鍋圭子
講師	川内規会
助手	奈良岡恵子

研修科

研修科長兼務	渡邊洋一
--------	------

国際科長

国際科長兼務	深谷智恵子
--------	-------

研究推進・知的財産センター

研究推進・知的財産センター長兼務	藤田修三
------------------	------

研究開発科

研究開発科長兼務	中村由美子
----------	-------

【事務局】

事務局長 小山石 康 雄

経営企画室

経営企画室長 小 野 勝 義
主 幹 齋 藤 康 道
主 幹 佐 藤 孝 之
主 幹 千 田 昭 裕
主 査 古 跡 健 将
主 査 赤 坂 太 郎

総務課

総務課長 坂 本 芳 人
主 幹 成 田 浩 一
主 査 間 山 秀 幸
主 査 檜 山 律 子
主 査 松 木 心 一
主 事 野 呂 香 織

地域連携推進課

地域連携推進課長 石 川 順 一
総括主幹 高 坂 修 一
主 査 山 崎 勇 治
主 査 岡 村 慶 子

図書課

図書課長兼務 石 川 順 一
主 査 小 野 由 美
主 事 山 田 奈 々

教務課

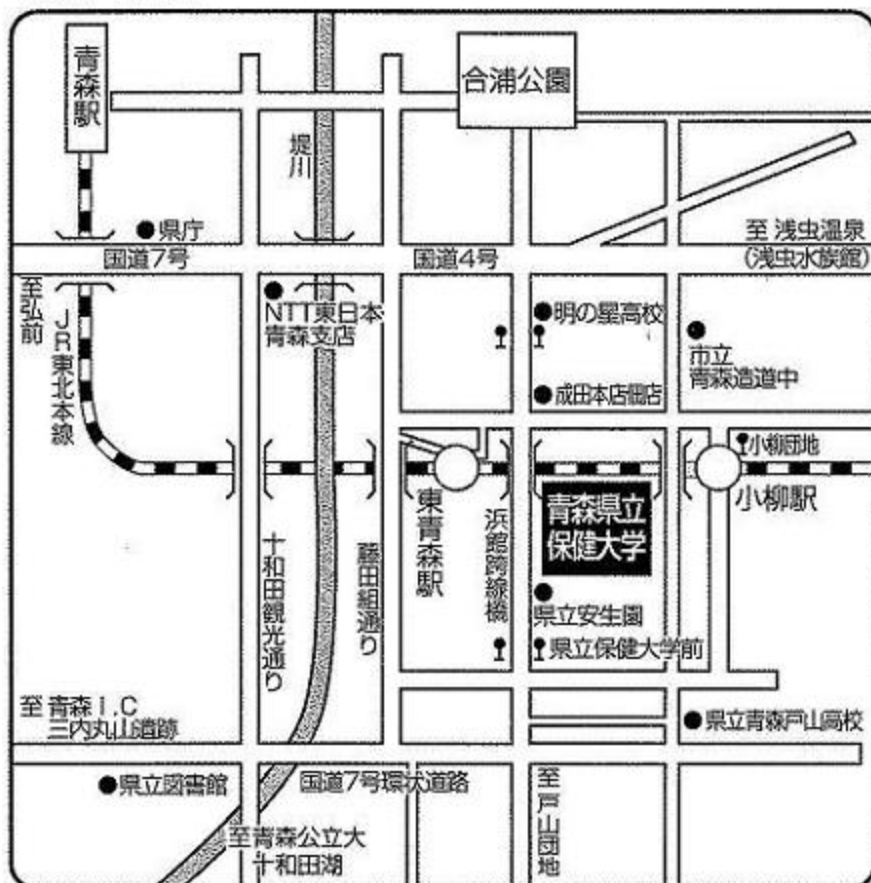
教務課長 前 田 泰 三
主 査 鹿 内 亮 一
主 査 長 内 俊 幸
主 事 蛭 沢 幸 子

学生課

学生課長 井 筒 智 賢
主 幹 石 岡 俊 一
主 査 川 上 由 紀 子

大学の位置と交通案内 (平成20年4月1日現在)

1 大学の位置



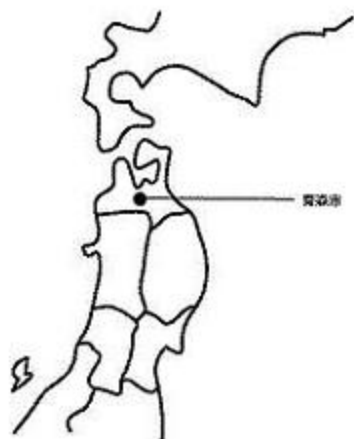
青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館字間瀬58-1

TEL 017-765-2000 (代表) FAX 017-765-2188

インターネットホームページ <http://www.auhw.ac.jp/>

交通アクセス



■青森市まで

○鉄道

東京駅～青森駅まで3時間58分(東北新幹線「はやて」及びアクセス特急列車)

○航空機

札幌便、東京便、名古屋便、大阪便、福岡便

○フェリー

函館便(約4時間)、室蘭便(約7時間)

■青森市内

○青森駅から約7km

●青森市営バス(戸山団地・沢山線 (いずれも明の星高校・南畑経由に限る))

県立保健大学前バス停まで 約20分

(バス停から徒歩約1分)

●車(タクシーで) 約15分

○JR東青森駅から徒歩で 約10分(約1km)

○JR小柳駅から徒歩で 約10分(約1km)

○青森空港から約15km

●車(タクシーで) 約25分

新たな未来へ

作詞/作曲 小比類巻かほる

1 8

9 G(9) FA7/G G(9) FA7/G

まあつ い まり は 向 じ か ま な る い お お わ ら い な 抱 い き た し び め

13 CA7 Bm7 Em7 Am7 C/D D7

じ て き ほ う か へ か と な む た か へ う つ こ こ く る み は ち あ た れ ら も し が い 田 を い つ て く る た

17 Bbm7/E E7 Bb7(13) Am7 F#m7 B7 Em7

め つ な る く き 手 の つ ぬ く な も か り か ち わ か ら え が な お る み と ち お し る え べ だ く し れ

21 Dm7 G7 CA7 F#m7 B7 Em7 A7

て ま か け た が み え の せ 無 か い も へ か こ が や る く の ま ま さ た が が し も と じ め た て え

25 C/D D7 G Am7/G GA7

ゆ 合 こ え う ほ し い ん じ ま あ で う も よ 楽 る わ こ ら び な だ い あ ま ぶ

29 Am7/G Em7 A7 Am7

れ こ る 明 に 日 触 へ れ い ほ く ん つ とう も せ だ き い し き の の り 葉 こ 味

33 C/D D7 G Am7/G GA7

え を よ 知 う ぶ こ い の つ の お 日 の か お だ お れ ぞ か ら の に ゅ え う が き

37 Am7/G Em7 CA7 Bm7

い て あ る め め じ ゅ つ ぶ ん な ひ と る ま げ も る す よ う じ と と ち び す た れ

41 Bm7/E Em7 Am7 C/D G(9)

つな たい あら た な み せ い へ
な い 出 運 え た き ら ぎ へ

45 1.

49 2. Ab Bbm7/Ab AbΔ7

し ん じ あ う よ ろ こ び に あ ふ

53 Bbm7/Ab Fm7 Eb7 Bbm7

れ る 明 日 へ い く つ も じ だ い を の り こ

57 Db/Eb Eb7 Ab Bbm7/Ab AbΔ7

え よ う こ の む ね の お お ぞ ら に え が

61 Bbm7/Ab Fm7 DbΔ7 Cm7

い た ゆ め に つ ば さ ひ ろ げ る よ う に と び た

65 Cm7/F Fm7 Bbm7 Db/Eb Ab(9)

つ よ あ ら た な み ら い へ

69 4.

【青森県立保健大学校歌】

新たな未来へ (作詞／作曲：小比類巻かほる)

さあ、今始まる
終わらない旅路
「希望」へと向かう心は
新らしい日を創る

巡る季節の中 交わす笑顔、道標にして
まだ見ぬ世界へ 輝くもの
探し求めてゆこう

信じ合う 喜びにあふれる明日へ
幾つも 時代を乗り越えよう
この胸の 大空に描いた夢に
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

もう 振り向かない
想い抱きしめて
遥か彼方へ続く道
誰もが歩いてきた

つなぐ手の温もり 力になると教えてくれた
かけがえの無いもの 心のまま
互いに伝え合えば

いつまでも 変わらない真心に触れ
本当の優しさの意味を知る
いつの日か 誰かの「勇気」であるよう、
どんな時もずっと 忘れない 出逢えた奇跡を

信じ合う 喜びにあふれる明日へ
幾つも 時代を乗り越えよう
この胸の 大空に描いた夢に
翼、広げるように 飛び立つよ 新たな未来へ

編 集 後 記

「青森県立保健大学年報2008」第10号が刊行されました。本学が独立法人化された最初の年の記録ということになります。法人化とともに、栄養学科が新設され、理学療法学科・社会福祉学科が定員増となりました。学内組織および学校運営のやり方も大きく変わりました。さらにこの年は、学長が巻頭言で述べられているようなさまざまな新しい試みが現実に動き出した年でした。

この年報は、こうした変革の中にあって、本学で行われた活動の記録です。年報の形式は基本的には従来のを踏襲し、大学の概要、教育活動、研究活動、社会活動、海外研修記録、業績集、そして資料という形式でまとめられています。独立法人になったとはいえ、大学の果たすべき役割そのものが変わるわけではありません。離れてみれば、年報の各号はほとんど同じものに見えるかもしれません。しかしその各ページに記載されているのは、現実の人間と組織の現実の営みであり、日々淡々となされる日常的活動の蓄積が、全体としての大学の歴史を形成し、またそこに属するひとりひとりの人生を作っていきます。アニュアルレポートを残すことの意味は、そうした営みの里程標を据えておくことにあるのだらうと思います。

毎年のことながら、年報の作成にあたっては、全学教職員の皆様の多大なご支援とご協力をいただきました。心から感謝いたします。

広報情報委員長 入江 良平

広報情報委員会委員氏名

委 員 長	入 江 良 平	(附属図書館長 教授)
委 員	坂 本 祐 子	(看護学科 講師)
”	佐 藤 愛	(看護学科 講師)
”	長 門 五 城	(理学療法学科 助手)
”	種 市 寛 子	(社会福祉学科 助手)
”	山 田 真 司	(栄養学科 准教授)
”	小 野 勝 義	(事務局 経営企画室長)
事 務 局	赤 坂 太 郎	(経営企画室主査)
”	伊 藤 麻 起 子	(非常勤職員)